

液晶コントロールターミナル

## ZM-500シリーズ

### リプレースマニュアル

ZM-300シリーズ、ZM-42/43/52/72/82（以下、ZM-42～82）シリーズ、ZM-41/70シリーズ、ZM-30/40/61シリーズはZM-500シリーズに置き換え可能です。  
ただし、必ずしも100%互換を保持できるわけではなく、多少制限や置換不可能な機能もあります。  
本書では置き換えの際の注意事項について説明します。

上記シリーズの機能・仕様について、詳しくは別途各ユーザーズマニュアルなど関連マニュアルを参照してください。

## 本書の記載について

- ・記載している会社名、製品名、商品名は、各社の商標または登録商標です。
- ・液晶コントロールターミナルの形名（総称表記）については、次ページを参照願います。

## ご注意

- ・当社制御機器（以下、当社製品）をご使用いただくにあたりましては、万一当社製品に故障・不具合などが発生した場合でも重大な事故に至らない用途であること、および故障・不具合発生時にはバックアップやフェールセーフ機能が機器外部でシステム的に実施されることをご使用の条件とさせていただきます。
- ・当社製品は、一般工業などへの用途を対象とした汎用品として設計・製作されています。したがって、各電力会社様の原子力発電所およびその他発電所向けなどの公共への影響が大きい用途などで、特別品質保証体制をご要求になる用途には、当社製品の適用を除外させていただきます。ただし、これらの用途であっても、用途を限定して特別な品質をご要求されないことをお客様に承認いただいた場合には、適用可能とさせていただきます。  
また、航空、医療、鉄道、燃焼・燃料装置、有人搬送装置、娯楽機械、安全機械など人命や財産に大きな影響が予測され、安全面や制御システムに特に高信頼性が要求される用途へのご使用をご検討いただいている場合には、当社の営業部門へご相談いただき、必要な仕様書の取り交しなどをさせていただきます。

## おねがい

- ・本書の内容については十分注意して作成しておりますが、万一ご不審な点、お気づきのことがありましたらお買いあげの販売店、あるいは当社までご連絡ください。
- ・本書の内容の一部または全部を、無断で複製することを禁止しています。
- ・本書の内容は、改良のため予告なしに変更することがありますので、あらかじめご了承ください。

## 液晶コントローラターミナルの種類と表記について

液晶コントローラターミナルの形名を次のように総称表記しています。

本書での表記(シリーズ名)	液晶コントローラターミナルの形名	
ZM-500	ZM-540	ZM-542D、ZM-542DA
		ZM-542T、ZM-542TA
	ZM-560	ZM-562SA
		ZM-562T、ZM-562TA
	ZM-570	ZM-571SA、ZM-572SA ※
		ZM-571TA、ZM-572TA ※、ZM-573TA
		ZM-571TL、ZM-573TL
ZM-580	ZM-581SA、ZM-582SA ※、ZM-583SA	
ZM-550	ZM-552HA	
ZM-590	ZM-591XA ※	
ZM-300	ZM-340	ZM-342D、ZM-342T
	ZM-350	ZM-352D
	ZM-360	ZM-362S、ZM-362SA
	ZM-370	ZM-371T、ZM-371TA、ZM-371S、ZM-371SA、ZM-371TL
		ZM-372T、ZM-372TA、ZM-372S、ZM-372SA
		ZM-373TA、ZM-373TL
	ZM-380	ZM-381S、ZM-381SA
ZM-382S、ZM-382SA		
ZM-383S、ZM-383SA		
ZM-42	ZM-42D、ZM-42L	
ZM-43	ZM-43T、ZM-43D、ZM-43L	
ZM-52	ZM-52D、ZM-52HD	
ZM-62	ZM-62E	
ZM-72	ZM-72T	ZM-72T、ZM-72TC、ZM-72TV、ZM-72TVC、ZM-72TCM
	ZM-72TS	ZM-72TS、ZM-72TSC、ZM-72TSV、ZM-72TSVC
	ZM-72D	ZM-72D、ZM-72DC、ZM-72DM、ZM-72DCM
ZM-82	ZM-82T	ZM-82T、ZM-82TC、ZM-82TV、ZM-82TVC、ZM-82TCM
	ZM-82D	ZM-82DC
ZM-70	ZM-70D、ZM-70T	
ZM-61	ZM-61E、ZM-61T	
ZM-41	ZM-41D、ZM-41L	
ZM-40	ZM-40D、ZM-40L	
ZM-30	ZM-30E、ZM-30L	

※ ZM-572SA、ZM-572TA、ZM-582SA、ZM-591XAは受注生産品です。

# 目次

## 1 ZM-300 シリーズ→ ZM-500 シリーズ

1.1 推奨機種 .....	1-1
本体 .....	1-1
オプションユニット .....	1-3
増設メモ리카セット .....	1-3
1.2 ハードの互換性 .....	1-4
Z2812Z00 → ZM-591XA .....	1-4
ZM-38*S/SA → ZM-58*SA .....	1-6
ZM-37*S/SA → ZM-57*SA .....	1-8
ZM-37*T/TA → ZM-57*TA .....	1-10
ZM-37*TL → ZM-57*TL .....	1-12
ZM-362S/SA → ZM-562SA .....	1-14
ZM-352D → ZM-562T/TA .....	1-16
ZM-340 → ZM-540 .....	1-18
ハードウェアに関する注意 .....	1-20
取り付け時の注意 .....	1-20
取付金具の締めつけトルク値 .....	1-20
電源端子の位置 .....	1-20
オプションユニットの位置 .....	1-21
ディップスイッチ .....	1-21
スライドスイッチ (ZM-340/ZM-540 のみ) .....	1-22
接続時の注意 .....	1-23
Dsub コネクタの違い .....	1-23
三菱電機 A シリーズ CPU との通信時 .....	1-24
「マルチリンク 2」での通信時 .....	1-25
FROM カセット .....	1-26
ラダーモニタ (= Z3640Z00 使用時) について .....	1-26
SRAM カセット .....	1-27
輝度 .....	1-27
ビデオ表示機能 .....	1-28
色について .....	1-28
ビデオ表示スピード .....	1-28
RGB 入力機能 .....	1-29
RGB 出力機能 .....	1-29
音声出力機能 .....	1-29
1.3 ソフト (設定・機能) の互換性 .....	1-30
画面データファイルの変換方法 .....	1-30
スイッチ .....	1-33
[ディレイ] 設定 .....	1-33
対象スイッチ一覧 .....	1-33
変換例 .....	1-34

[機能：カードフォーマット] スイッチについて .....	1-34
サンプリング .....	1-35
格納先 .....	1-35
サンプリング回数 .....	1-36
一次格納先 .....	1-36
二次格納先 .....	1-36
変換例 .....	1-37
マクロ .....	1-38
SRAM .....	1-41
内蔵 SRAM/SRAM カセットの場合 .....	1-41
SRAM/ 時計設定 .....	1-41
SRAM フォーマット .....	1-42
SRAM カード (ZM-1REC + 市販メモリカード) の場合 .....	1-43
SRAM フォーマット .....	1-43
SRAM カード (データロギング) を ZM-500 用に置き換える方法 .....	1-43
CF カード .....	1-44
CF カードを ZM-500 用に置き換える方法 .....	1-44
通信設定 .....	1-45
8Way への変換 .....	1-45
文字処理について .....	1-45
内部メモリ .....	1-46
\$s (システムメモリ) .....	1-46
Ethernet 用ネットワークテーブル .....	1-47
例：Ethernet 対応 PLC と接続する ZM-300 .....	1-47

## 2 ZM-42 ~ 82 シリーズ → ZM-500 シリーズ

2.1 推奨機種 .....	2-1
本体 .....	2-1
通信インターフェースユニット .....	2-3
増設メモリカセット .....	2-3
2.2 ハードの互換性 .....	2-4
ZM-82 → ZM-58*SA .....	2-4
ZM-72TS → ZM-57*SA .....	2-6
ZM-72T → ZM-57*TA .....	2-8
ZM-72D → ZM-57*TL .....	2-10
ZM-52D → ZM-562T/TA .....	2-12
ZM-42/43 → ZM-540 .....	2-14
ZM-62E → ZM-562T/TA .....	2-16
ZM-52HD → ZM-552HA .....	2-18
ハードウェアに関する注意 .....	2-19
取り付け時の注意 .....	2-19

取付金具の締めつけトルク値.....	2-19
電源端子の位置.....	2-19
ディップスイッチ.....	2-20
接続時の注意.....	2-21
Dsub コネクタの違い.....	2-21
三菱電機 A シリーズ CPU との通信時.....	2-22
「マルチリンク 2」での通信時.....	2-23
FROM カセット.....	2-24
SRAM カセット.....	2-25
ビデオ表示機能.....	2-26
色について.....	2-26
ビデオ表示スピード.....	2-26
RGB 入力機能.....	2-26
2.3 ソフト（設定・機能）の互換性.....	2-27
画面データファイルの変換方法.....	2-27
ZM-42 ~ 82（ZM-62E を除く）→ ZM-500 の場合.....	2-27
ZM-62E → ZM-562T/TA の場合（128 色のみ有効）.....	2-29
スイッチ.....	2-34
[ディレイ] 設定.....	2-34
対象スイッチ一覧.....	2-34
変換例.....	2-35
[機能：カードフォーマット] スイッチについて.....	2-35
サンプリング.....	2-36
格納先.....	2-36
サンプリング回数.....	2-36
一次格納先.....	2-36
二次格納先.....	2-37
SRAM.....	2-37
SRAM カセットの場合.....	2-37
SRAM/ 時計設定.....	2-37
SRAM フォーマット.....	2-38
SRAM カード（市販メモリカード）の場合.....	2-39
SRAM フォーマット.....	2-39
SRAM カード（データロギング）を ZM-500 用に置き換える方法.....	2-39
通信設定.....	2-40
8Way への変換.....	2-40
文字処理について.....	2-40
内部メモリ.....	2-41
\$s（システムメモリ）.....	2-41
Ethernet 用ネットワークテーブル.....	2-42
例：Ethernet 対応 PLC と接続する ZM-42 ~ 82.....	2-42

### 3 ZM-41/70 シリーズ→ ZM-500 シリーズ

3.1 推奨機種 .....	3-1
3.2 ハードの互換性 .....	3-2
ZM-70 → ZM-57*TA/TL .....	3-2
ZM-41→ ZM-540.....	3-4
ハードウェアに関する注意.....	3-6
取り付け時の注意 .....	3-6
電源端子の位置 .....	3-6
接続時の注意.....	3-7
Dsub コネクタの違い.....	3-7
三菱電機 A シリーズ CPU との通信時 .....	3-8
3.3 ソフト（設定・機能）の互換性 .....	3-9
画面データファイルの変換方法 .....	3-9
データの互換性.....	3-12
スイッチ.....	3-13
対象スイッチ一覧.....	3-13
[機能：カードフォーマット] スイッチについて .....	3-13
SRAM .....	3-14
サンプリング.....	3-14
SRAM メモリカード（市販メモリカード）.....	3-15
SRAM フォーマット.....	3-15
SRAM カード（データロギング）を ZM-500 用に置き換える方法.....	3-15

### 4 ZM-30/40/61 シリーズ→ ZM-500 シリーズ

4.1 推奨機種 .....	4-1
4.2 ハードの互換性 .....	4-2
ZM-61T→ ZM-57*TA/TL .....	4-2
ZM-61E → ZM-562T/TA .....	4-4
ZM-30→ ZM-540.....	4-6
ZM-40→ ZM-540.....	4-8
4.3 ソフト（設定・機能）の互換性 .....	4-10
画面データファイルの変換方法 .....	4-10
ZM-30/40/61T → ZM-500 の場合 .....	4-10
ZM-61E → ZM-562T/TA の場合（128 色のみ有効）.....	4-12
画面サイズの調整.....	4-15
互換機能 .....	4-17
互換にならない機能 .....	4-25
スイッチ .....	4-29
対象スイッチ一覧.....	4-29
[機能：カードフォーマット] スイッチについて .....	4-29

SRAM .....	4-30
サンプリング .....	4-30
SRAM メモリカード（市販メモリカード） .....	4-31
SRAM カード（データロギング）を ZM-500 用に置き換える方法 .....	4-31



# 1 ZM-300 シリーズ→ ZM-500 シリーズ

## 1.1 推奨機種

\* ZM-300 と接続中の PLC が、ZM-500 では未対応（開発中）の場合もあります。  
接続先の PLC 機種への対応状況を事前に弊社営業または技術相談窓口までお確かめください。

### 本体

ZM-300 シリーズを ZM-500 シリーズに置き換える場合、推奨機種は以下のようになります。

	ZM-300 シリーズ	ZM-500 シリーズ
15 インチ	Z2812Z00	ZM-591XA
12 インチ	ZM-381S	ZM-581SA
	ZM-381SA	
	ZM-382S	ZM-582SA
	ZM-382SA	
	ZM-383S	ZM-583SA
	ZM-383SA	
10 インチ	ZM-371S	ZM-571SA
	ZM-371SA	
	ZM-372S	ZM-572SA
	ZM-372SA	
	ZM-371TA	ZM-571TA
	ZM-372TA	ZM-572TA
	ZM-373TA	ZM-573TA
	ZM-371TL	ZM-571TL
	ZM-373TL	ZM-573TL
8 インチ	ZM-362S	ZM-562SA
	ZM-362SA	
	ZM-352D	ZM-562T
		ZM-562TA

\* オプション等の置き換え時の推奨機種については、P 1-3 を参照してください。

	ZM-300 シリーズ		ZM-500 シリーズ	
	本体	オプション	本体	オプション
5.7 インチ	ZM-342T	-	ZM-542TA ZM-542T	-
	ZM-342D	-	ZM-542DA ZM-542D	-
	ZM-342T	ZM-340EU	ZM-542TA * <sup>1</sup>	-
		ZM-340EU	ZM-542T * <sup>2</sup>	ZM-540DU * <sup>2</sup>
		ZM-340EU+ZM-300SM	ZM-542TA * <sup>3</sup>	-
	ZM-342D	ZM-340EU	ZM-542DA * <sup>1</sup>	-
		ZM-340EU	ZM-542D * <sup>2</sup>	ZM-540DU * <sup>2</sup>
		ZM-340EU+ZM-300SM	ZM-542DA * <sup>3</sup>	-

\*1 Ethernet ポートが必要な場合

\*2 Dsub9 ピンポート /CF カードスロットが必要な場合

\*3 SRAM 512KB が必要な場合

## オプションユニット

置き換えの推奨機種は以下のようになります。

	ZM-300 シリーズ		ZM-500 シリーズ	
オプション ユニット	ZM-301EU	ビデオ 4CH + 音声出力	受注生産品 00	ビデオ 4CH + 音声出力
			受注生産品 10	ビデオ 2CH + RGB IN 1CH
	ZM-302EU	RGB IN 1CH + 音声出力	受注生産品 01	RGB IN 1CH + 音声出力
			受注生産品 10	ビデオ 2CH + RGB IN 1CH
			受注生産品 11	RGB IN 2CH
ZM-303EU	RGB OUT + 音声出力	受注生産品 02	RGB OUT + 音声出力	
ZM-304EU	音声出力	受注生産品 03	音声出力	
通信 インター フェース ユニット	ZM-80NU	Ethernet/FL-net	受注生産品 03-3	Ethernet
	ZM-80NU2		受注生産品 08	FL-net

## 増設メモリカセット

ZM-500 シリーズには、増設メモリカセットはありません。

置き換えの注意事項について、FROM カセットについては P 1-26、SRAM カセットについては P 1-27 を、それぞれ参照してください。

## 1.2 ハードの互換性

### Z2812Z00 → ZM-591XA

項目	Z2812Z00	ZM-591XA
表示デバイス	TFT カラー	TFT カラー
表示色	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 32,768 色（プリンクあり）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 65,536 色（プリンクなし）</li> <li>• 32,768 色（プリンクあり）</li> </ul>
有効表示領域	15 インチ	15 インチ
パネルカット寸法 （単位：mm）	369.4W × 299.4H	369.4W × 299.4H
表示分解能（W × H）	1024 × 768 ドット	1024 × 768 ドット
タッチスイッチ方式	アナログ	アナログ
取付角度	0 ~ 135°	0 ~ 135°
FROM	約 4.9MB （フォントにより増加あり）	約 12.5MB （フォントにより増加あり）
増設メモ리카セット	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 「ZM-300EM」：8MB</li> <li>• 「Z3640Z00」：4MB</li> </ul>	なし
内蔵 SRAM	128KB	512KB
SRAM カセット	「ZM-300SM」：512KB	なし
画面転送	<ul style="list-style-type: none"> <li>• MJ1 の場合 弊社製画面転送ケーブル 「ZM-80C」</li> <li>• USB-B の場合 市販 USB ケーブル</li> <li>• LAN ポートの場合 Ethernet 転送</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• MJ1 の場合 弊社製画面転送ケーブル「ZM-80C」</li> <li>• USB-B の場合 市販 USB ケーブル</li> <li>• LAN ポートの場合 Ethernet 転送</li> </ul>
PLC 接続	CN1： Dsub25 ピン（凹） ミリネジ	CN1： Dsub9 ピン（凹） インチネジ  * ZM-300 用のケーブルを利用する場合は、 弊社製変換ケーブル「ZM-500CC」 （0.3m）を使用
温調 /PLC2Way 接続	MJ1/MJ2： モジュラー 8 ピン	MJ1/MJ2： モジュラー 8 ピン
ターミナルコンバータ （CN1 用）	ZM-1TC Y 端子	ZM-2TC 棒端子
プリンタポート	<ul style="list-style-type: none"> <li>• USB 接続 USB-A ポート</li> <li>• シリアル接続（MJ1/MJ2） モジュラーコネクタ 8 ピン</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• USB 接続 USB-A ポート （PictBridge 対応プリンタに変更すると、 USB-B ポートでの接続も可能）</li> <li>• シリアル接続（MJ1/MJ2） モジュラーコネクタ 8 ピン</li> </ul>
プリンタケーブル	<ul style="list-style-type: none"> <li>• USB 接続 市販 USB ケーブル（USB-A 用） または 市販 USB パラレル変換ケーブル （ELECOM:UC-PGT 等）</li> <li>• シリアル接続 「受注生産品 TMP」で作成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• USB 接続 市販 USB ケーブル（USB-A 用） または 市販 USB パラレル変換ケーブル （ELECOM:UC-PGT）</li> <li>• シリアル接続 「受注生産品 TMP」で作成</li> </ul>

項目	Z2812Z00	ZM-591XA
バーコードリーダー接続	<ul style="list-style-type: none"> <li>シリアル接続 (MJ1/MJ2) モジュラーコネクタ 8 ピン</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>シリアル接続 (MJ1/MJ2) モジュラーコネクタ 8 ピン</li> <li>USB 接続 USB-A ポート (USB-HID 準拠タイプのバーコードに変更すると、USB 接続が可能)</li> </ul>
保護シート	「受注生産品 GS」	「受注生産品 GS」
	「受注生産品 GSN10」	「受注生産品 GSN10」
メモリカード機能	<ul style="list-style-type: none"> <li>カードレコーダ「ZM-1REC」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>カードレコーダ「ZM-1REC」 または USB CF カードリーダーライター (USB-A ポートに接続)</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>内蔵 SRAM/SRAM カセット</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>内蔵 SRAM</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>CF カード</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>CF カード</li> </ul>
カードレコーダ	<ul style="list-style-type: none"> <li>ZM-1REC</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ZM-1REC</li> <li>USB CF カードリーダーライター (USB-A ポートに接続)</li> </ul>
CF カードレコーダ	<ul style="list-style-type: none"> <li>USB CF カードリーダーライター (USB-A ポートに接続)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>USB CF カードリーダーライター (USB-A ポートに接続)</li> </ul>

**ZM-38\*S/SA → ZM-58\*SA**

項目	ZM-38*S/SA	ZM-58*SA
表示デバイス	TFT カラー	TFT カラー
表示色	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 32,768 色 (ブリンクあり)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 65,536 色 (ブリンクなし)</li> <li>• 32,768 色 (ブリンクあり)</li> </ul>
有効表示領域	12.1 インチ	12.1 インチ
パネルカット寸法 (単位 : mm)	313W × 246.2H	313W × 246.2H
表示分解能 (W × H)	800 × 600 ドット	800 × 600 ドット
タッチスイッチ方式	アナログ	アナログ
	マトリックス	マトリックス
取付角度	15 ~ 135°	15 ~ 135°
FROM	約 4.9MB (フォントにより増加あり)	約 12.5MB (フォントにより増加あり)
増設メモ리카セット	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 「ZM-300EM」 : 8MB</li> <li>• 「Z3640Z00」 : 4MB</li> </ul>	なし
内蔵 SRAM	64KB	512KB
SRAM カセット	「ZM-300SM」 : 512KB	なし
画面転送	<ul style="list-style-type: none"> <li>• MJ1 の場合 弊社製画面転送ケーブル 「ZM-80C」</li> <li>• LAN ポートの場合 (ZM-38*SA のみ) Ethernet 転送</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• MJ1 の場合 弊社製画面転送ケーブル「ZM-80C」</li> <li>• USB-B の場合 市販 USB ケーブル</li> <li>• LAN ポートの場合 Ethernet 転送</li> </ul>
PLC 接続	CN1 : Dsub25 ピン (凹) ミリネジ	CN1 : Dsub9 ピン (凹) インチネジ  * ZM-300 用のケーブルを利用する場合は、 弊社製変換ケーブル「ZM-500CC」 (0.3m) を使用
温調 /PLC2Way 接続	MJ1/MJ2 : モジュラー 8 ピン	MJ1/MJ2 : モジュラー 8 ピン
ターミナルコンバータ (CN1 用)	ZM-1TC Y 端子	ZM-2TC 棒端子
プリンタポート	<ul style="list-style-type: none"> <li>• パラレル接続 (PRINTER ポート) セントロニクスハーフピッチ 20 ピン</li> <li>• シリアル接続 (MJ1/MJ2) モジュラーコネクタ 8 ピン</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• パラレル接続 なし</li> <li>• シリアル接続 (MJ1/MJ2) モジュラーコネクタ 8 ピン</li> <li>• USB 接続 USB-A ポート (PictBridge 対応プリンタに変更すると、 USB-B ポートでの接続も可能)</li> </ul>
プリンタケーブル	<ul style="list-style-type: none"> <li>• パラレル接続 弊社製 ZM-300 専用ケーブル 「ZM-300PC」</li> <li>• シリアル接続 「受注生産品 TMP」で作成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• パラレル接続 なし ただし、「ZM-300PC」の代わりに、市販 USB パラレル変換ケーブル (ELECOM : UC-PGT) を使うことで置換可能</li> <li>• シリアル接続 「受注生産品 TMP」で作成</li> </ul>

項目	ZM-38*S/SA	ZM-58*SA
バーコードリーダ接続	<ul style="list-style-type: none"> <li>シリアル接続 (MJ1/MJ2) モジュラーコネクタ 8 ピン</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>シリアル接続 (MJ1/MJ2) モジュラーコネクタ 8 ピン</li> <li>USB 接続 USB-A ポート (USB-HID 準拠タイプのバーコードに変更すると、USB 接続が可能)</li> </ul>
保護シート	「ZM-381GS」	「ZM-580GS」
	「ZM-382GS」	「ZM-580GSN」
メモリカード機能	<ul style="list-style-type: none"> <li>カードレコーダ「ZM-1REC」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>カードレコーダ「ZM-1REC」 または USB CF カードリーダーライタ (USB-A ポートに接続)</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>内蔵 SRAM/SRAM カセット</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>内蔵 SRAM</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>CF カード</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>CF カード</li> </ul>
カードレコーダ	<ul style="list-style-type: none"> <li>ZM-1REC</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ZM-1REC</li> <li>USB CF カードリーダーライタ (USB-A ポートに接続)</li> </ul>
CF カードレコーダ	-	<ul style="list-style-type: none"> <li>USB CF カードリーダーライタ (USB-A ポートに接続)</li> </ul>

**ZM-37\*S/SA → ZM-57\*SA**

項目	ZM-37*S/SA	ZM-57*SA
表示デバイス	TFT カラー	TFT カラー
表示色	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 32,768 色（ブリンクあり）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 65,536 色（ブリンクなし）</li> <li>• 32,768 色（ブリンクあり）</li> </ul>
有効表示領域	10.4 インチ	10.4 インチ
パネルカット寸法 (単位：mm)	289W × 216.2H	289W × 216.2H
表示分解能 (W × H)	800 × 600 ドット	800 × 600 ドット
タッチスイッチ方式	アナログ	アナログ
取付角度	15 ~ 135°	15 ~ 135°
FROM	約 4.9MB (フォントにより増加あり)	約 12.5MB (フォントにより増加あり)
増設メモ리카セット	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 「ZM-300EM」：8MB</li> <li>• 「Z3640Z00」：4MB</li> </ul>	なし
内蔵 SRAM	64KB	512KB
SRAM カセット	「ZM-300SM」：512KB	なし
画面転送	<ul style="list-style-type: none"> <li>• MJ1 の場合 弊社製画面転送ケーブル 「ZM-80C」</li> <li>• LAN ポートの場合 (ZM-37*SA のみ) Ethernet 転送</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• MJ1 の場合 弊社製画面転送ケーブル「ZM-80C」</li> <li>• USB-B の場合 市販 USB ケーブル</li> <li>• LAN ポートの場合 Ethernet 転送</li> </ul>
PLC 接続	CN1 : Dsub25 ピン (凹) ミリネジ	CN1 : Dsub9 ピン (凹) インチネジ  * ZM-300 用のケーブルを利用する場合は、 弊社製変換ケーブル「ZM-500CC」 (0.3m) を使用
温調 /PLC2Way 接続	MJ1/MJ2 : モジュラー 8 ピン	MJ1/MJ2 : モジュラー 8 ピン
ターミナルコンバータ (CN1 用)	ZM-1TC Y 端子	ZM-2TC 棒端子
プリンタポート	<ul style="list-style-type: none"> <li>• パラレル接続 (PRINTER ポート) セントロニクスハーフピッチ 20 ピン</li> <li>• シリアル接続 (MJ1/MJ2) モジュラーコネクタ 8 ピン</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• パラレル接続 なし</li> <li>• シリアル接続 (MJ1/MJ2) モジュラーコネクタ 8 ピン</li> <li>• USB 接続 USB-A ポート (PictBridge 対応プリンタに変更すると、 USB-B ポートでの接続も可能)</li> </ul>
プリンタケーブル	<ul style="list-style-type: none"> <li>• パラレル接続 弊社製 ZM-300 専用ケーブル 「ZM-300PC」</li> <li>• シリアル接続 「受注生産品 TMP」で作成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• パラレル接続 なし ただし、「ZM-300PC」の代わりに、市販 USB パラレル変換ケーブル (ELECOM : UC-PGT) を使うことで置換可能</li> <li>• シリアル接続 「受注生産品 TMP」で作成</li> </ul>



項目	ZM-37*S/SA	ZM-57*SA
バーコードリーダ接続	<ul style="list-style-type: none"> <li>シリアル接続 (MJ1/MJ2) モジュラーコネクタ 8 ピン</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>シリアル接続 (MJ1/MJ2) モジュラーコネクタ 8 ピン</li> <li>USB 接続 USB-A ポート (USB-HID 準拠タイプのバーコードに変更すると、USB 接続が可能)</li> </ul>
保護シート	「ZM-371GS」	「ZM-570GS」
	「ZM-372GS」	「ZM-570GSN」
メモリカード機能	<ul style="list-style-type: none"> <li>カードレコーダ「ZM-1REC」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>カードレコーダ「ZM-1REC」 または USB CF カードリーダーライタ (USB-A ポートに接続)</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>内蔵 SRAM/SRAM カセット</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>内蔵 SRAM</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>CF カード</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>CF カード</li> </ul>
カードレコーダ	<ul style="list-style-type: none"> <li>ZM-1REC</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ZM-1REC</li> <li>USB CF カードリーダーライタ (USB-A ポートに接続)</li> </ul>
CF カードレコーダ	-	<ul style="list-style-type: none"> <li>USB CF カードリーダーライタ (USB-A ポートに接続)</li> </ul>

**ZM-37\*T/TA → ZM-57\*TA**

項目	ZM-37*T/TA	ZM-57*TA
表示デバイス	TFT カラー	TFT カラー
表示色	• 32,768 色 (ブリックあり)	• 65,536 色 (ブリックなし) • 32,768 色 (ブリックあり)
有効表示領域	10.4 インチ	10.4 インチ
パネルカット寸法 (単位 : mm)	289W × 216.2H	289W × 216.2H
表示分解能 (W × H)	640 × 480 ドット	640 × 480 ドット
タッチスイッチ方式	アナログ マトリックス	アナログ マトリックス
取付角度	15 ~ 135°	15 ~ 135°
FROM	約 4.9MB (フォントにより増加あり)	約 12.5MB (フォントにより増加あり)
増設メモリカセット	• 「ZM-300EM」 : 8MB • 「Z3640Z00」 : 4MB	なし
内蔵 SRAM	64KB	512KB
SRAM カセット	「ZM-300SM」 : 512KB	なし
画面転送	• MJ1 の場合 弊社製画面転送ケーブル 「ZM-80C」 • LAN ポートの場合 (ZM-37*TA のみ) Ethernet 転送	• MJ1 の場合 弊社製画面転送ケーブル「ZM-80C」 • USB-B の場合 市販 USB ケーブル • LAN ポートの場合 Ethernet 転送
PLC 接続	CN1 : Dsub25 ピン (凹) ミリネジ	CN1 : Dsub9 ピン (凹) インチネジ  * ZM-300 用のケーブルを利用する場合は、 弊社製変換ケーブル「ZM-500CC」 (0.3m) を使用
温調 /PLC2Way 接続	MJ1/MJ2 : モジュラー 8 ピン	MJ1/MJ2 : モジュラー 8 ピン
ターミナルコンバータ (CN1 用)	ZM-1TC Y 端子	ZM-2TC 棒端子
プリンタポート	• パラレル接続 (PRINTER ポート) セントロニクスハーフピッチ 20 ピン • シリアル接続 (MJ1/MJ2) モジュラーコネクタ 8 ピン	• パラレル接続 なし • シリアル接続 (MJ1/MJ2) モジュラーコネクタ 8 ピン • USB 接続 USB-A ポート (PictBridge 対応プリンタに変更すると、 USB-B ポートでの接続も可能)
プリンタケーブル	• パラレル接続 弊社製 ZM-300 専用ケーブル 「ZM-300PC」  • シリアル接続 「受注生産品 TMP」で作成	• パラレル接続 なし ただし、「ZM-300PC」の代わりに、市販 USB パラレル変換ケーブル (ELECOM : UC-PGT) を使うことで置換可能 • シリアル接続 「受注生産品 TMP」で作成

項目	ZM-37*TA	ZM-57*TA
バーコードリーダー接続	<ul style="list-style-type: none"> <li>シリアル接続 (MJ1/MJ2) モジュラーコネクタ 8 ピン</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>シリアル接続 (MJ1/MJ2) モジュラーコネクタ 8 ピン</li> <li>USB 接続 USB-A ポート (USB-HID 準拠タイプのバーコードに変更すると、USB 接続が可能)</li> </ul>
保護シート	「ZM-371GS」	「ZM-570GS」
	「ZM-372GS」	「ZM-570GSN」
メモリカード機能	<ul style="list-style-type: none"> <li>カードレコーダ「ZM-1REC」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>カードレコーダ「ZM-1REC」 または USB CF カードリーダーライタ (USB-A ポートに接続)</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>内蔵 SRAM/SRAM カセット</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>内蔵 SRAM</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>CF カード</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>CF カード</li> </ul>
カードレコーダ	<ul style="list-style-type: none"> <li>ZM-1REC</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ZM-1REC</li> <li>USB CF カードリーダーライタ (USB-A ポートに接続)</li> </ul>
CF カードレコーダ	-	<ul style="list-style-type: none"> <li>USB CF カードリーダーライタ (USB-A ポートに接続)</li> </ul>

**ZM-37\*TL → ZM-57\*TL**

項目	ZM-37*TL	ZM-57*TL
表示デバイス	TFT カラー	TFT カラー
表示色	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 128 色 (ブリック 16 色)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 65,536 色 (ブリックなし)</li> <li>• 32,768 色 (ブリックあり)</li> <li>• 128 色 (ブリック 16 色)</li> </ul>
有効表示領域	10.4 インチ	10.4 インチ
パネルカット寸法 (単位 : mm)	289W × 216.2H	289W × 216.2H
表示分解能 (W × H)	640 × 480 ドット	640 × 480 ドット
タッチスイッチ方式	アナログ	アナログ
	マトリックス	マトリックス
取付角度	15 ~ 135°	15 ~ 135°
FROM	約 4.9MB (フォントにより増加あり)	約 4.5MB (フォントにより増加あり)
増設メモリカセット	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 「ZM-300EM」 : 8MB</li> <li>• 「Z3640Z00」 : 4MB</li> </ul>	なし (ラダーモニタ制限あり)
内蔵 SRAM	64KB	128KB
SRAM カセット	「ZM-300SM」 : 512KB	なし
画面転送	<ul style="list-style-type: none"> <li>• MJ1 の場合 弊社製画面転送ケーブル 「ZM-80C」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• MJ1 の場合 弊社製画面転送ケーブル「ZM-80C」</li> <li>• USB-B の場合 市販 USB ケーブル</li> </ul>
PLC 接続	CN1 : Dsub25 ピン (凹) ミリネジ	CN1 : Dsub9 ピン (凹) インチネジ  * ZM-300 用のケーブルを利用する場合は、 弊社製変換ケーブル「ZM-500CC」 (0.3m) を使用
温調 /PLC2Way 接続	MJ1/MJ2 : モジュラー 8 ピン	MJ1/MJ2 : モジュラー 8 ピン
ターミナルコンバータ (CN1 用)	ZM-1TC Y 端子	ZM-2TC 棒端子
プリンタポート	<ul style="list-style-type: none"> <li>• パラレル接続 (PRINTER ポート) セントロニクスハーフピッチ 20 ピン</li> <li>• シリアル接続 (MJ1/MJ2) モジュラーコネクタ 8 ピン</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• パラレル接続 なし</li> <li>• シリアル接続 (MJ1/MJ2) モジュラーコネクタ 8 ピン</li> <li>• USB 接続 USB-A ポート (PictBridge 対応プリンタに変更すると、 USB-B ポートでの接続も可能)</li> </ul>
プリンタケーブル	<ul style="list-style-type: none"> <li>• パラレル接続 弊社製 ZM-300 専用ケーブル 「ZM-300PC」</li> <li>• シリアル接続 「受注生産品 TMP」で作成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• パラレル接続 なし ただし、「ZM-300PC」の代わりに、市販 USB パラレル変換ケーブル (ELECOM : UC-PGT) を使うことで置換可能</li> <li>• シリアル接続 「受注生産品 TMP」で作成</li> </ul>

項目	ZM-37*TL	ZM-57*TL
バーコードリーダ接続	<ul style="list-style-type: none"> <li>シリアル接続 (MJ1/MJ2) モジュラーコネクタ 8 ピン</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>シリアル接続 (MJ1/MJ2) モジュラーコネクタ 8 ピン</li> <li>USB 接続 USB-A ポート (USB-HID 準拠タイプのバーコードに変更すると、USB 接続が可能)</li> </ul>
保護シート	「ZM-371GS」	「ZM-570GS」
	「ZM-372GS」	「ZM-570GSN」
メモリカード機能	<ul style="list-style-type: none"> <li>カードレコーダ「ZM-1REC」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>カードレコーダ「ZM-1REC」 または USB CF カードリーダーライタ (USB-A ポートに接続)</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>内蔵 SRAM/SRAM カセット</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>内蔵 SRAM</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>CF カード</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>CF カード</li> </ul>
カードレコーダ	<ul style="list-style-type: none"> <li>ZM-1REC</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ZM-1REC</li> <li>USB CF カードリーダーライタ (USB-A ポートに接続)</li> </ul>
CF カードレコーダ	-	<ul style="list-style-type: none"> <li>USB CF カードリーダーライタ (USB-A ポートに接続)</li> </ul>

**ZM-362S/SA → ZM-562SA**

項目	ZM-362S/SA	ZM-562SA
表示デバイス	TFT カラー	TFT カラー
表示色	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 32,768 色（プリンクあり）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 65,536 色（プリンクなし）</li> <li>• 32,768 色（プリンクあり）</li> </ul>
有効表示領域	8.4 インチ	8.4 インチ
パネルカット寸法 （単位：mm）	220.5W × 165.5H	220.5W × 165.5H
表示分解能（W × H）	800 × 600 ドット	800 × 600 ドット
タッチスイッチ方式	アナログ	アナログ
取付角度	15 ~ 135°	15 ~ 135°
FROM	約 4.9MB （フォントにより増加あり）	約 12.5MB （フォントにより増加あり）
増設メモリカセット	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 「ZM-300EM」：8MB</li> <li>• 「Z3640Z00」：4MB</li> </ul>	なし
内蔵 SRAM	64KB	512KB
SRAM カセット	「ZM-300SM」：512KB	なし
画面転送	<ul style="list-style-type: none"> <li>• MJ1 の場合 弊社製画面転送ケーブル 「ZM-80C」</li> <li>• LAN ポートの場合 (ZM-362SA のみ) Ethernet 転送</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• MJ1 の場合 弊社製画面転送ケーブル「ZM-80C」</li> <li>• USB-B の場合 市販 USB ケーブル</li> <li>• LAN ポートの場合 Ethernet 転送</li> </ul>
PLC 接続	CN1： Dsub25 ピン（凹） ミリネジ	CN1： Dsub9 ピン（凹） インチネジ  * ZM-300 用のケーブルを利用する場合は、 弊社製変換ケーブル「ZM-500CC」 (0.3m) を使用
温調 /PLC2Way 接続	MJ1/MJ2： モジュラー 8 ピン	MJ1/MJ2： モジュラー 8 ピン
ターミナルコンバータ (CN1 用)	ZM-1TC Y 端子	ZM-2TC 棒端子
プリンタポート	<ul style="list-style-type: none"> <li>• パラレル接続（PRINTER ポート） セントロニクスハーフピッチ 20 ピン</li> <li>• シリアル接続（MJ1/MJ2） モジュラーコネクタ 8 ピン</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• パラレル接続 なし</li> <li>• シリアル接続（MJ1/MJ2） モジュラーコネクタ 8 ピン</li> <li>• USB 接続 USB-A ポート （PictBridge 対応プリンタに変更すると、 USB-B ポートでの接続も可能）</li> </ul>
プリンタケーブル	<ul style="list-style-type: none"> <li>• パラレル接続 弊社製 ZM-300 専用ケーブル 「ZM-300PC」</li> <li>• シリアル接続 「受注生産品 TMP」で作成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• パラレル接続 なし ただし、「ZM-300PC」の代わりに、市販 USB パラレル変換ケーブル（ELECOM： UC-PGT）を使うことで置換可能</li> <li>• シリアル接続 「受注生産品 TMP」で作成</li> </ul>

項目	ZM-362S/SA	ZM-562SA
バーコードリーダ接続	<ul style="list-style-type: none"> <li>シリアル接続 (MJ1/MJ2) モジュラーコネクタ 8 ピン</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>シリアル接続 (MJ1/MJ2) モジュラーコネクタ 8 ピン</li> <li>USB 接続 USB-A ポート (USB-HID 準拠タイプのバーコードに変更すると、USB 接続が可能)</li> </ul>
保護シート	「ZM-361GS」	「ZM-560GS」
	「ZM-362GS」	「ZM-560GSN」
メモリカード機能	<ul style="list-style-type: none"> <li>カードレコーダ「ZM-1REC」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>カードレコーダ「ZM-1REC」 または USB CF カードリーダーライタ (USB-A ポートに接続)</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>内蔵 SRAM/SRAM カセット</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>内蔵 SRAM</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>CF カード</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>CF カード</li> </ul>
カードレコーダ	<ul style="list-style-type: none"> <li>ZM-1REC</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ZM-1REC</li> <li>USB CF カードリーダーライタ (USB-A ポートに接続)</li> </ul>
CF カードレコーダ	-	<ul style="list-style-type: none"> <li>USB CF カードリーダーライタ (USB-A ポートに接続)</li> </ul>

**ZM-352D → ZM-562T/TA**

項目	ZM-352D	ZM-562T/TA
表示デバイス	STN カラー	TFT カラー
表示色	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 128 色 (ブリンク 16 色)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 65,536 色 (ブリンクなし)</li> <li>• 32,768 色 (ブリンクあり)</li> <li>• 128 色 (ブリンク 16 色)</li> </ul>
有効表示領域	7.7 インチ	8.4 インチ
パネルカット寸法 (単位 : mm)	220.5W × 165.5H	220.5W × 165.5H
表示分解能 (W × H)	640 × 480 ドット	640 × 480 ドット
タッチスイッチ方式	アナログ	アナログ
取付角度	15 ~ 135°	15 ~ 135°
FROM	約 4.9MB (フォントにより増加あり)	<ul style="list-style-type: none"> <li>• ZM-562TA の場合 約 12.5MB (フォントにより増加あり)</li> <li>• ZM-562T の場合 約 4.5MB (フォントにより増加あり)</li> </ul>
増設メモ리카セット	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 「ZM-300EM」 : 8MB</li> <li>• 「Z3640Z00」 : 4MB</li> </ul>	なし (ZM-562T : ラダーモニタ制限あり)
内蔵 SRAM	64KB	<ul style="list-style-type: none"> <li>• ZM-562TA の場合 512KB</li> <li>• ZM-562T の場合 128KB</li> </ul>
SRAM カセット	「ZM-300SM」 : 512KB	なし
画面転送	<ul style="list-style-type: none"> <li>• MJ1 の場合 弊社製画面転送ケーブル 「ZM-80C」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• MJ1 の場合 弊社製画面転送ケーブル「ZM-80C」</li> <li>• USB-B の場合 市販 USB ケーブル</li> <li>• LAN ポートの場合 (ZM-562TA のみ) Ethernet 転送</li> </ul>
PLC 接続	CN1 : Dsub25 ピン (凹) ミリネジ	CN1 : Dsub9 ピン (凹) インチネジ  * ZM-300 用のケーブルを利用する場合は、 弊社製変換ケーブル「ZM-500CC」 (0.3m) を使用
温調 /PLC2Way 接続	MJ1/MJ2 : モジュラー 8 ピン	MJ1/MJ2 : モジュラー 8 ピン
ターミナルコンバータ (CN1 用)	ZM-1TC Y 端子	ZM-2TC 棒端子
プリンタポート	<ul style="list-style-type: none"> <li>• パラレル接続 (PRINTER ポート) セントロニクスハーフピッチ 20 ピン</li> <li>• シリアル接続 (MJ1/MJ2) モジュラーコネクタ 8 ピン</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• パラレル接続 なし</li> <li>• シリアル接続 (MJ1/MJ2) モジュラーコネクタ 8 ピン</li> <li>• USB 接続 USB-A ポート (PictBridge 対応プリンタに変更すると、 USB-B ポートでの接続も可能)</li> </ul>



項目	ZM-352D	ZM-562T/TA
プリンタケーブル	<ul style="list-style-type: none"> <li>• パラレル接続 弊社製 ZM-300 専用ケーブル 「ZM-300PC」</li> <li>• シリアル接続 「受注生産品 TMP」で作成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• パラレル接続 なし ただし、「ZM-300PC」の代わりに、市販 USB パラレル変換ケーブル（ELECOM : UC-PGT）を使うことで置換可能</li> <li>• シリアル接続 「受注生産品 TMP」で作成</li> </ul>
バーコードリーダー接続	<ul style="list-style-type: none"> <li>• シリアル接続（MJ1/MJ2） モジュラーコネクタ 8 ピン</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• シリアル接続（MJ1/MJ2） モジュラーコネクタ 8 ピン</li> <li>• USB 接続 USB-A ポート （USB-HID 準拠タイプのバーコードに変更 すると、USB 接続が可能）</li> </ul>
保護シート	「ZM-361GS」	「ZM-560GS」
	「ZM-362GS」	「ZM-560GSN」
メモリカード機能	<ul style="list-style-type: none"> <li>• カードレコーダ「ZM-1REC」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• カードレコーダ「ZM-1REC」 または USB CF カードリーダーライタ （USB-A ポートに接続）</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 内蔵 SRAM/SRAM カセット</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 内蔵 SRAM</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>• CF カード</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• CF カード</li> </ul>
カードレコーダ	<ul style="list-style-type: none"> <li>• ZM-1REC</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• ZM-1REC</li> <li>• USB CF カードリーダーライタ （USB-A ポートに接続）</li> </ul>
CF カードレコーダ	—	<ul style="list-style-type: none"> <li>• USB CF カードリーダーライタ （USB-A ポートに接続）</li> </ul>

**ZM-340→ ZM-540**

項目	ZM-340	ZM-540
表示デバイス	<ul style="list-style-type: none"> <li>• TFT カラー : ZM-342T</li> <li>• STN カラー : ZM-342D</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• TFT カラー : ZM-542T/TA</li> <li>• STN カラー : ZM-542D/DA</li> </ul>
表示色	32,768 色 (ブリックあり)	65,536 色 (ブリックなし) 32,768 色 (ブリックあり)
有効表示領域	5.7 インチ	5.7 インチ
パネルカット寸法 (単位 : mm)	174W × 131H	174W × 131H
表示分解能 (W × H)	320× 240 ドット	320× 240 ドット
タッチスイッチ方式	<ul style="list-style-type: none"> <li>• アナログ</li> <li>• マトリックス</li> </ul>	アナログ
取付角度	15 ~ 135°	15 ~ 135°
FROM	約 1.5MB (フォントにより増加あり)	約 4.5MB (フォントにより増加あり)
増設メモリカセット	「ZM-340EM」: 4MB	なし
内蔵 SRAM	128KB	<ul style="list-style-type: none"> <li>• ZM-542TA/DA の場合 512KB</li> <li>• ZM-542T/D の場合 128KB</li> </ul>
SRAM カセット	なし	なし
画面転送	<ul style="list-style-type: none"> <li>• MJ1 の場合 弊社製画面転送ケーブル 「ZM-80C」</li> <li>• USB-B の場合 市販 USB ケーブル</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• MJ1 の場合 弊社製画面転送ケーブル「ZM-80C」</li> <li>• USB-B の場合 市販 USB ケーブル</li> <li>• LAN ポートの場合 (ZM-542TA/DA のみ) Ethernet 転送</li> </ul>
PLC 接続	<ul style="list-style-type: none"> <li>• ZM-340 のみ MJ2 : モジュラー 8 ピン</li> <li>• ZM-340+ 「ZM-340EU」 CN1 : Dsub25 ピン (凹) ミリネジ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• ZM-540 のみ MJ2 : モジュラー 8 ピン</li> <li>• ZM-540+ 「ZM-540DU」 CN1 : Dsub9 ピン (凹) インチネジ</li> </ul> <p>* ZM-340+ 「ZM-340EU」用のケーブルを利用する場合は、弊社製変換ケーブル「ZM-500CC」(0.3m) を使用</p>
温調 /PLC2Way 接続	MJ1/MJ2 : モジュラー 8 ピン	MJ1/MJ2 : モジュラー 8 ピン
ターミナルコンバータ	ZM-1TC (ZM-340+ 「ZM-340EU」時のみ) Y 端子	ZM-2TC (ZM-540+ 「ZM-540DU」時のみ) 棒端子
Ethernet 接続	• ZM-340+ 「ZM-340EU」	→ ZM-542TA/DA

項目	ZM-340	ZM-540
通信インターフェース ユニット	<ul style="list-style-type: none"> <li>• ZM-80NU (Ethernet/FL-net)</li> <li>• ZM-80NU2 (Ethernet/FL-net)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>→受注生産品 03-3 (Ethernet)</li> <li>→受注生産品 08 (FL-net)</li> </ul>
プリンタポート	<ul style="list-style-type: none"> <li>• シリアル接続 (MJ1/MJ2)</li> <li>• モジュラーコネクタ 8 ピン</li> <li>• USB 接続</li> <li>• USB-A ポート</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• シリアル接続 (MJ1/MJ2)</li> <li>• モジュラーコネクタ 8 ピン</li> <li>• USB 接続</li> <li>• USB-A ポート</li> </ul> (PictBridge 対応プリンタに変更すると、 USB-B ポートでの接続も可能)
プリンタケーブル	<ul style="list-style-type: none"> <li>• USB 接続</li> <li>• 市販 USB ケーブル (USB-A 用)</li> <li>• または</li> <li>• 市販 USB パラレル変換ケーブル (ELECOM:UC-PGT 等)</li> <li>• シリアル接続</li> <li>• 「受注生産品 TMP」で作成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• USB 接続</li> <li>• 市販 USB ケーブル (USB-A 用)</li> <li>• または</li> <li>• 市販 USB パラレル変換ケーブル (ELECOM:UC-PGT)</li> <li>• シリアル接続</li> <li>• 「受注生産品 TMP」で作成</li> </ul>
バーコードリーダー接続	<ul style="list-style-type: none"> <li>• シリアル接続 (MJ1/MJ2)</li> <li>• モジュラーコネクタ 8 ピン</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• シリアル接続 (MJ1/MJ2)</li> <li>• モジュラーコネクタ 8 ピン</li> <li>• USB 接続</li> <li>• USB-A ポート</li> </ul> (USB-HID 準拠タイプのバーコードに変更 すると、USB 接続が可能)
保護シート	「ZM-42GS」	「ZM-540GS」
	-	「ZM-540GSN」
メモリカード機能	<ul style="list-style-type: none"> <li>• カードレコーダ「ZM-1REC」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• カードレコーダ「ZM-1REC」</li> <li>• または USB CF カードリーダーライター (USB-A ポートに接続)</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 内蔵 SRAM/SRAM カセット</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 内蔵 SRAM</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>• CF カード</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• CF カード</li> </ul>
カードレコーダ	<ul style="list-style-type: none"> <li>• ZM-1REC</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• ZM-1REC</li> <li>• USB CF カードリーダーライター (USB-A ポートに接続)</li> </ul>
CF カードレコーダ	<ul style="list-style-type: none"> <li>• USB CF カードリーダーライター (USB-A ポートに接続)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• USB CF カードリーダーライター (USB-A ポートに接続)</li> </ul>

## ハードウェアに関する注意

### 取り付け時の注意

#### 取付金具の締めつけトルク値

ZM-300	トルク値 (N・m)	ZM-500	トルク値 (N・m)
Z2812Z00	0.7 ~ 1.0	ZM-590	0.5 ~ 0.7
ZM-380	0.5 ~ 0.7	ZM-580	0.5 ~ 0.7
ZM-370	0.3 ~ 0.5	ZM-570	0.5 ~ 0.7
ZM-350/360	0.3 ~ 0.5	ZM-560	0.5 ~ 0.7
ZM-340	0.3 ~ 0.5	ZM-540	0.5 ~ 0.7

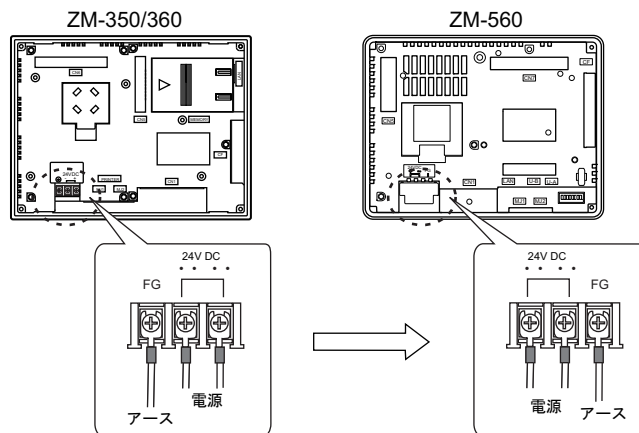
(ZM-300 と  
同じ)

#### 電源端子の位置

置き換え時に電源端子に注意が必要な機種は、以下のとおりです。

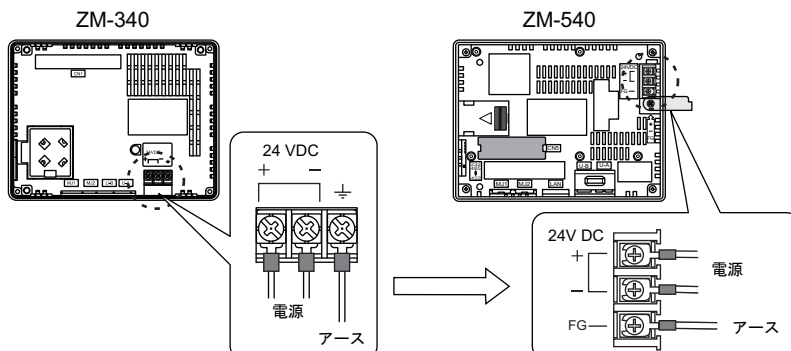
- 8 インチ

電源端子部の端子の並びが、ZM-300 と ZM-500 で異なります。



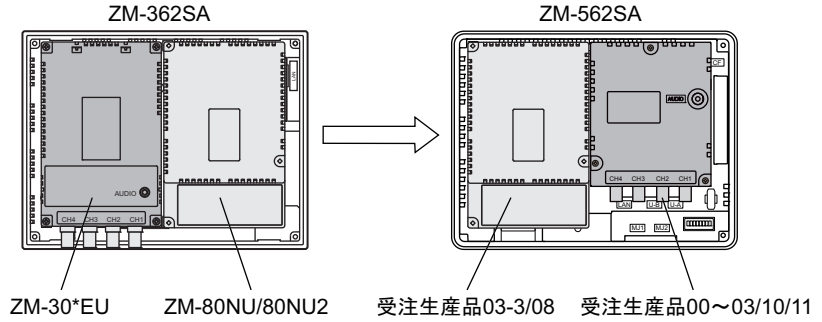
- 6 インチ

電源端子部の位置と並びが、ZM-340 と ZM-540 で異なります。



## オプションユニットの位置

8 インチの場合、オプションユニットの装着位置が、ZM-300 と ZM-500 で異なります。

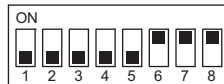


## ディップスイッチ

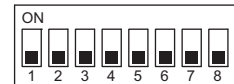
ZM-300 と ZM-500 で、ディップスイッチの内容が異なります。

- ZM-300 シリーズ / ZM-500 シリーズ

ZM-300 (工場出荷時)



ZM-500 (工場出荷時)



DIP SW No.	内容	
	ZM-300	ZM-500
1	CF 自動アップロード	CF 自動アップロード
2	未使用	CF カバーアクセス制御
3	未使用	未使用
4	未使用	未使用
5	CN1 12、13 ピン間の +SD/-SD 終端抵抗	CN1 3、4 ピン間の +SD/-SD 終端抵抗
6	MJ1 (モジュラージャック 1) 終端抵抗	MJ1 (モジュラージャック 1) 終端抵抗
7	CN1 24、25 ピン間の +RD/-RD 終端抵抗	CN1 1、2 ピン間の +RD/-RD 終端抵抗
8	MJ2 (モジュラージャック 2) 終端抵抗	MJ2 (モジュラージャック 2) 終端抵抗

• ZM-340 シリーズ /ZM-540 シリーズ

ZM-340 (工場出荷時)



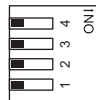
ZM-540 (工場出荷時)



DIP SW No.	内容	
	ZM-340	ZM-540
1	MJ1 (モジュージャック 1) RS-485 の終端抵抗	MJ1 (モジュージャック 1) RS-485 の終端抵抗
2	MJ2 (モジュージャック 2) RS-422/485 の SD 終端抵抗	MJ2 (モジュージャック 2) RS-422/485 の SD 終端抵抗
3	MJ2 (モジュージャック 2) RS-422/485 の RD 終端抵抗	MJ2 (モジュージャック 2) RS-422/485 の RD 終端抵抗
4	CF 自動アップロード	CF 自動アップロード

• ZM-340EU (ZM-340 用) /ZM-540DU (ZM-540 用)

ZM-340EU (工場出荷時)



ZM-540DU (工場出荷時)



DIP SW No.	内容	
	ZM-340EU	ZM-540DU
1	CN1 24、25 ピン間の +RD/-RD 終端抵抗	CN1 1、2 ピン間の +RD/-RD 終端抵抗
2	CN1 12、13 ピン間の +SD/-SD 終端抵抗	CN1 3、4 ピン間の +SD/-SD 終端抵抗
3	未使用	未使用
4	未使用	CF カバーアクセス制御

## スライドスイッチ (ZM-340/ZM-540 のみ)

ZM-340 と ZM-540 で、スライドスイッチの出荷時の設定が異なります。

(工場出荷時)



- ZM-340 : 下側 (RS-422)
- ZM-540 : 上側 (RS-232C/485)

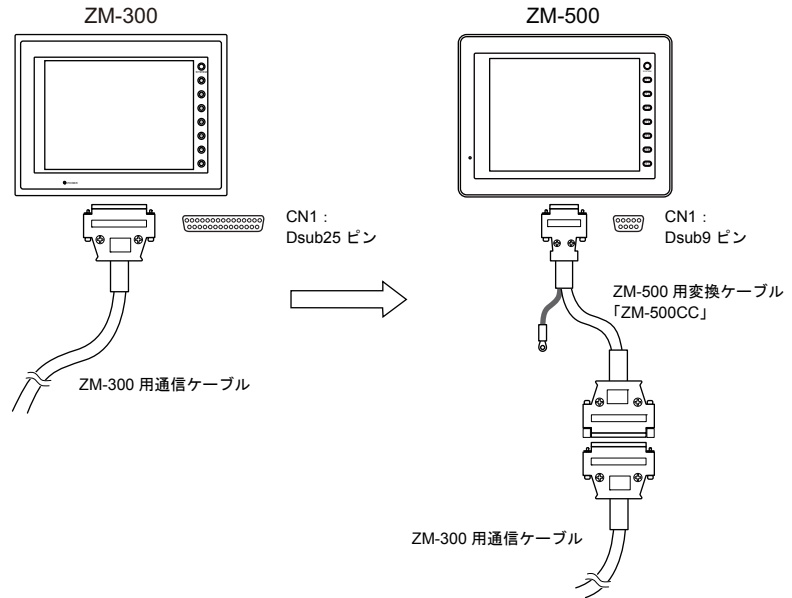
## 接続時の注意

### Dsub コネクタの違い

ZM-300 シリーズの CN1 は、Dsub25 ピンのコネクタです。(ZM-340 シリーズの場合は、オプションユニット「ZM-340EU」側の CN1 です。)  
 ZM-500 シリーズの CN1 は、Dsub9 ピンのコネクタに替わります。(ZM-540 シリーズの場合は、オプションユニット「ZM-540DU」側の CN1 です。)  
 このため、置き換え時には、変換ケーブル「ZM-500CC」(0.3m) または ZM-500 用ターミナルコンバータ「ZM-2TC」(端子台) をご用意ください。

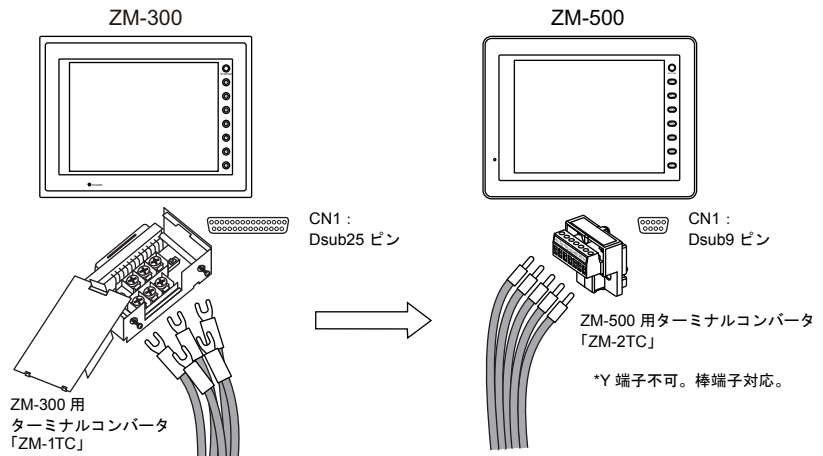
- 変換ケーブル

ZM-300 用通信ケーブルを流用するためには、「ZM-500CC」使用してください。



- ターミナルコンバータ

ZM-300 にて、「ZM-1TC」を使用して端子台接続していた場合は、ZM-500 では「ZM-2TC」を使用してください。ただし、端子台の構造が異なるため、ケーブルの先端の処理は変更が必要です。

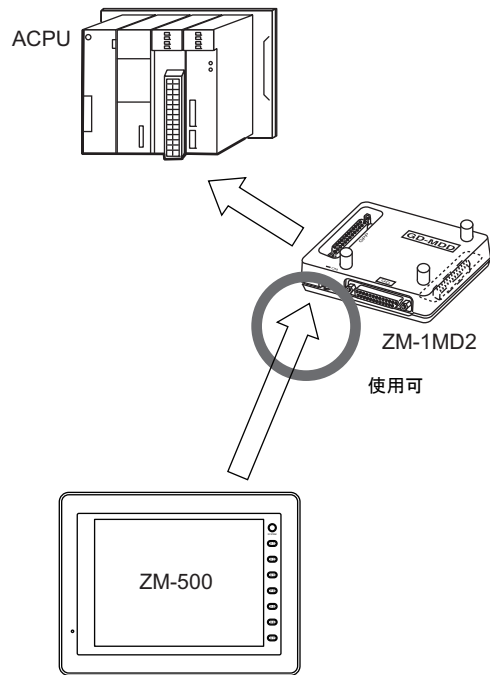


### 三菱電機 A シリーズ CPU との通信時

---

ZM-300 シリーズで、A シリーズ CPU との通信時、2 ポートアダプタとして、「ZM-1MD2」を使用することが可能です。

ZM-500 シリーズの場合、「ZM-1MD2」に置き換えてください。

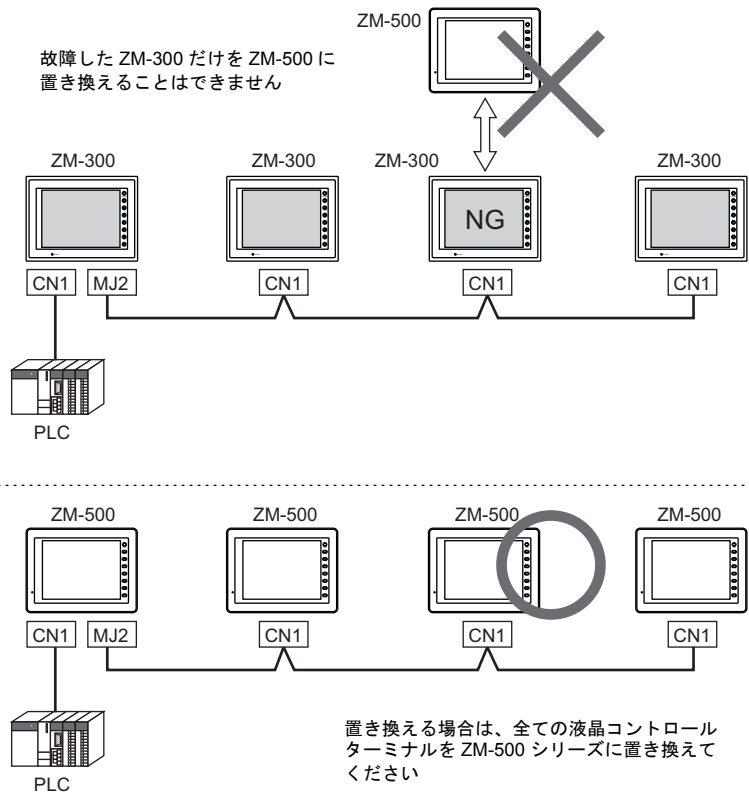




## 「マルチリンク 2」での通信時

- \* 「マルチリンク 2」では、ZM-500 と ZM-300/42 ～ 82 の混在ができる PLC 機種とできない PLC 機種があります。  
 混在できる PLC 機種の場合、[システム設定] → [接続機器設定] → [細かい設定] において、[マルチリンク 2 ZM-3/ZM\*2 混在] の設定が有効です。チェックありで混在が可能です。(混在できる PLC 機種の場合、変換時に自動的にチェックありになります。)

「マルチリンク 2」を使って、複数台の ZM-300 を 1 台の PLC と通信させている状態で、1 台の ZM-300 が故障した場合、1 台だけを ZM-500 に置き換えることは、できない場合があります。  
 できない場合、「マルチリンク 2」で使用している ZM-300 および ZM-42 ～ 82 を、全て ZM-500 に置き換えてください。



- \* 「マルチリンク」の場合は、ZM-500 と ZM-300/42 ～ 82 は混在可能です。従って、1 台だけを ZM-500 に置き換えることが可能です。

## FROM カセット

ZM-500 では FROM カセットは存在しませんが、ZM-300 に比べると、本体自体の FROM の容量が増えているので、カセットがない状態でも置換は可能です。詳しくは、下表を参照してください。

(○：あり、×：なし、－：未対応)

本体型式		組み合わせ				FROM 容量合計
		本体	ZM-300EM (8MB)	Z3640Z00* (4MB)	ZM-340EM (4MB)	
ZM-300 シリーズ	Z2812Z00	○	×	×	－	約 4.9MB
	ZM-380	○	○	×	－	約 13MB
	ZM-370	○	×	○	－	約 9MB
	ZM-340	○	－	－	×	約 1.5MB
		○	－	－	○	約 5.5MB
ZM-500 シリーズ	ZM-590 ZM-580 ZM-57**A ZM-562SA	○	－	－	－	約 12.5MB
	ZM-562TA	○	－	－	－	約 12.5MB
	ZM-57*TL ZM562T	○	－	－	－	約 4.5MB
	ZM-540	○	－	－	－	約 4.5MB

\* ラダーモニタの置き換え時の注意について、詳しくは次項を参照してください。

### ラダーモニタ (= Z3640Z00 使用時) について

ZM-300 シリーズの場合、ラダーモニタを行う場合は「Z3640Z00」が必要でした。  
ZM-500 シリーズの場合、FROM カセットは存在しませんが、ラダーモニタが使用不可の本体が存在します。使用不可の型式は以下のとおりです。

- ZM-57\*TL<sup>\*1</sup>
- ZM-562T (ZM-562TA は使用可能)<sup>\*1</sup>
- ZM-540 シリーズ

<sup>\*1</sup> PLC 機種が三菱またはオムロンの場合、CF カードを使うことで使用可能となります。

## SRAM カセット

ZM-500 では SRAM カセットは存在しませんが、ZM-300 に比べると、本体自体の SRAM の容量が増えているので、カセットがない状態でも置換は可能です。詳しくは、下表を参照してください。

(○：あり、×：なし、－：未対応)

本体型式		組み合わせ		SRAM 容量
		本体	ZM-300SM (512KB)	
ZM-300 シリーズ	Z2812Z00	○	×	128KB
		○	○	512KB
	ZM-380 ZM-370 ZM-360	○	×	64KB
		○	○	512KB
	ZM-340	○	－	128KB
		○	－	512KB
ZM-500 シリーズ	ZM-590 ZM-580 ZM-57**A ZM-562SA	○	－	512KB
	ZM-562TA	○	－	512KB
	ZM-57*TL ZM562T	○	－	128KB
	ZM-542DA/TA	○	－	512KB
	ZM-542D/T	○	－	128KB

## 輝度

本体が TFT カラー液晶タイプの ZM-300 シリーズの場合、輝度調整を、マクロ（コマンド名：BRIGHT）で行うことができます。

ZM-300 シリーズから ZM-500 シリーズに置き換えた場合、マクロの調整値が同じ値であっても、輝度が異なる場合があります。必ず ZM-500 シリーズ上で実際に輝度の状態を確認・調整後、ご使用ください。

## ビデオ表示機能

### 色について

ZM-300 と ZM-500 では、ハードウェアの構造に違いがあるため、ビデオ表示した際の表示色が多少異なります。

	ZM-301EU (ZM-300 (高機能品)) 受注生産品 00 (Z2812Z00)	受注生産品 00 (ZM-500 (高機能品)) 受注生産品 10 (ZM-500 (高機能品))
色の数	Z2812Z00 : 16,777,216 色 (モノクロ 256 階調)  ZM-360/370/380 : 32,768 色	ZM-570/580/590 : 16,777,216 色 (モノクロ 256 階調)  ZM-562SA : 262,144 色 (モノクロ 64 階調)

ビデオの画質調整を、マクロ (コマンド名 : Video2) で行っている場合、同じ値であっても、表示色が異なります。デフォルト値は以下になります。

項目	デフォルト	
	ZM-300	ZM-500
輝度	0 (暗) - 31 (明)	16
コントラスト	0 (弱) - 31 (強)	16
色の濃さ	0 (淡) - 31 (濃)	16

\* ZM-300 シリーズから ZM-500 シリーズに置き換えてビデオ表示する場合は、必ず ZM-500 シリーズ上で画質の状態を確認・調整後、ご使用ください。

### ビデオ表示スピード

ZM-300 と ZM-500 では表示スピードが異なります。  
ZM-362SA と ZM-562SA の場合の比較値は以下になります。

表示サイズ	表示コマ数 (ベース画面 1CH 表示)	
	ZM-362SA	ZM-562SA
640 × 480	約 7 コマ /1 秒	約 30 コマ /1 秒
640 × 240	約 9 コマ /1 秒	
320 × 240	約 10 コマ /1 秒	
160 × 120	約 12 コマ /1 秒	

## RGB 入力機能

ZM-300 と ZM-500 では、ハードウェアの構造に違いがあるため、RGB 入力の際の表示色が多少異なります。

	ZM-302EU (ZM-300 (高機能品))	受注生産品 01 (Z2812Z00/ ZM-500 (高機能品))	受注生産品 10/11 (ZM-500 (高機能品))
色の数	32,768 色	65,536 色 (64 階調)	ZM-570/580/590 : 16,777,216 色 (256 階調)  ZM-562SA : 262,144 色 (64 階調)

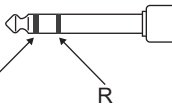
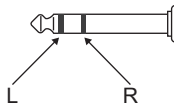
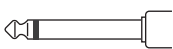
## RGB 出力機能

ZM-300 と ZM-500 では、ハードウェアの構造に違いがあるため、RGB 表示の際の表示色が多少異なります。

	ZM-303EU (ZM-300 (高機能品))	受注生産品 02 (ZM2812Z00)	受注生産品 02 (ZM-500 (高機能品))
色の数	32,768 色	32,768 色	65,536 色

## 音声出力機能

ZM-300 と ZM-500 では、ハードウェアの構造に違いがあるため、音声出力の際、仕様に違いがあります。

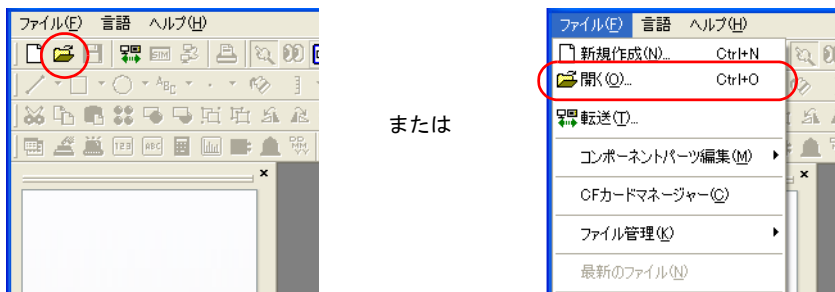
	ZM-301EU ~ 304EU (ZM-300 (高機能品))	受注生産品 00/01/02/03 (ZM2812Z00/ZM-500 (高機能品))
音声ファイル フォーマット	<ul style="list-style-type: none"> <li>• ストレート PCM</li> <li>• 量子化ビット 8 ビット</li> <li>• サンプリング周波数 8KHz</li> <li>• 音源 モノラル</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• ストレート PCM</li> <li>• 量子化ビット 8 ビット/16 ビット</li> <li>• サンプリング周波数 8KHz/16KHz</li> <li>• 音源 ステレオ / モノラル</li> </ul>
プラグ	<ul style="list-style-type: none"> <li>• ステレオ用プラグの場合</li> </ul>  <p>ZM-304EU において、L 側、R 側どちらも接続させているので、モノラルタイプの音声を再生する際でも、スピーカーのどちらからでも音が聞こえます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• ステレオ用プラグの場合</li> </ul>  <p>モノラルタイプの音声を再生する際、L 側からしか音が出ません。L 側の線をアンプにつなぐか、モノラル用プラグに変更してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• モノラル用プラグの場合</li> </ul>  <p>特に ZM-304EU との違いはありません。モノラルタイプの音声を再生する際に使用してください。</p>

## 1.3 ソフト（設定・機能）の互換性

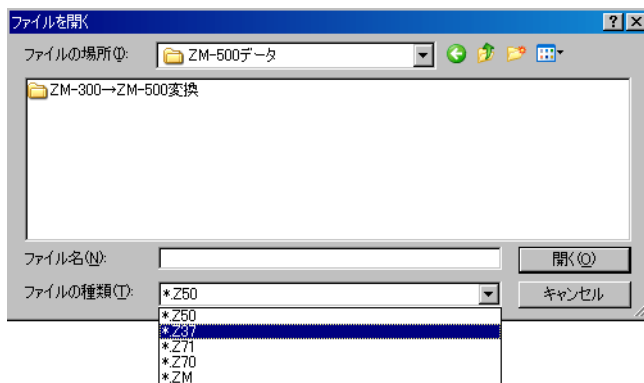
### 画面データファイルの変換方法

以下の手順でファイルを変換します。

1. ZM-71S を起動し、[開く] アイコン、または [ファイル] の [開く] をクリックします。

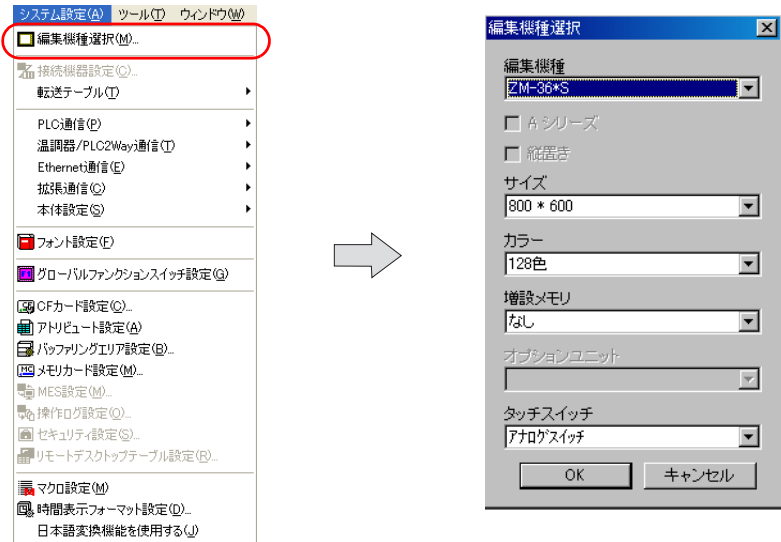


2. [ファイルを開く] ダイアログが表示されます。[ファイルの種類] を [\*.Z37] に変更します。

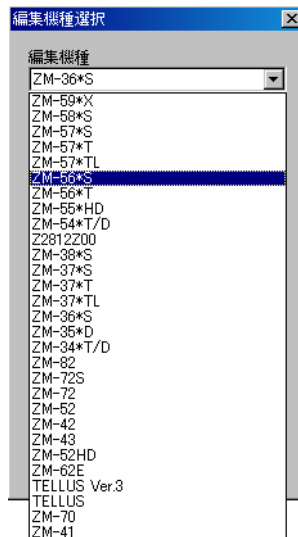


3. 変換する ZM-300 シリーズの画面データファイルを指定し、[開く] をクリックします。ZM-300 シリーズの画面データファイルが開きます。

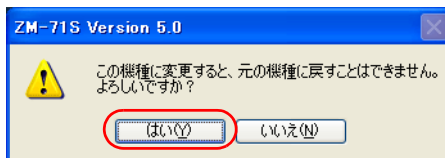
4. [システム設定] の [編集機種選択] をクリックします。[編集機種] ダイアログが表示されます。



5. 変換後の ZM-500 シリーズの機種を選択し、[OK] をクリックします。



6. 以下のようなダイアログが表示されます。[はい] をクリックします。



- \* ZM-300 データを ZM-500 データに変換すると、ZM-300 データに戻すことはできません。ご注意ください。
7. エディタ上に ZM-500 シリーズ用に変換された画面データファイルが表示されます。名前を付けて保存します。



## スイッチ

### [ディレイ] 設定

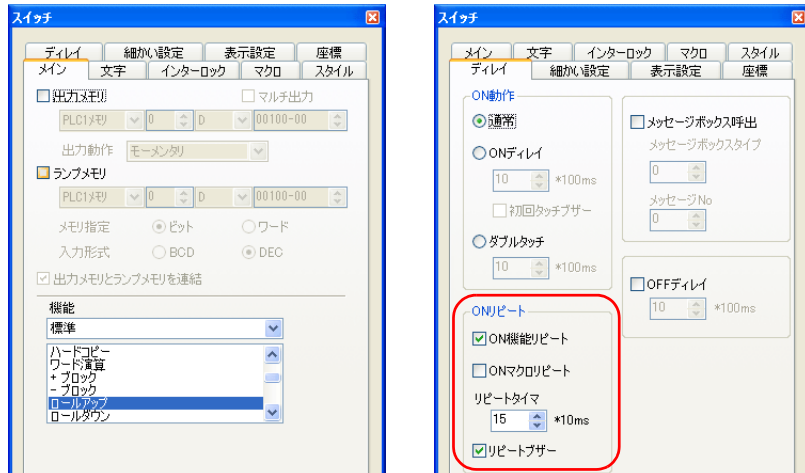
一部のスイッチに関しては、互換を保つために、ZM-500 で対応した機能「ON リピート機能」と「ダブルタッチ機能」を、自動的に設定ありで変換します。

#### 対象スイッチ一覧

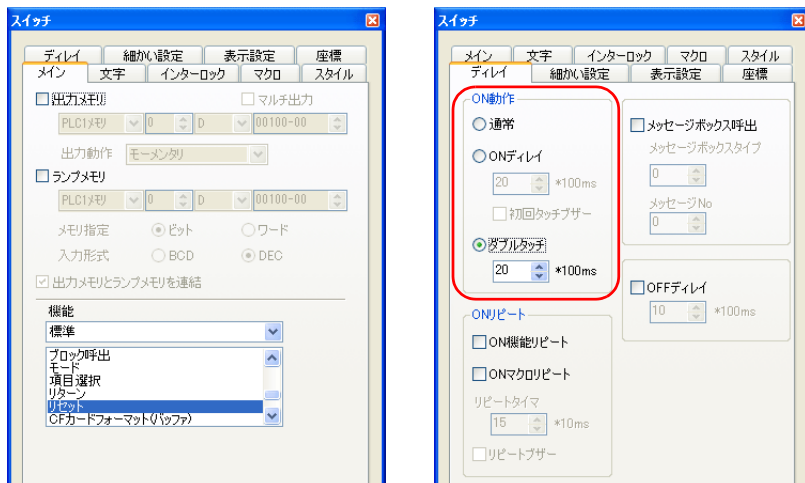
ZM-300		ZM-500	
スイッチ機能		スイッチ機能	ディレイ設定
標準	ロールアップ	ロールアップ	ON リピート機能 (150ms)
	ロールダウン	ロールダウン	
入力	文字入力	文字入力	
	スペース	スペース	
	バックスペース	バックスペース	
	DELETE	DELETE	
	+1	+1	
	-1	-1	
	加算	加算	
	減算	減算	
	←	←	
	→	→	
	↑	↑	
	↓	↓	
	ZM-30 互換 HEX キー	ZM-30 互換 HEX キー	
	切替文字入力	切替文字入力	
文字切替 (+)	文字切替 (+)		
文字切替 (-)	文字切替 (-)		
表形式データ	カーソル移動右	カーソル移動右	
	カーソル移動左	カーソル移動左	
デジスイッチ	デジスイッチ +	デジスイッチ +	
	デジスイッチ -	デジスイッチ -	
標準	リセット	リセット	ダブルタッチ機能 (2s)

## 変換例

- [機能：ロールアップ] スイッチの場合



- [機能：リセット] スイッチの場合



## [機能：カードフォーマット] スイッチについて

スイッチの [機能] において、[メモリカード：カードフォーマット] というスイッチがあります。

このスイッチは、ZM-300 の場合は、内蔵 SRAM/SRAM カセット /SRAM メモリカードのどの場合でも、SRAM の設定をフォーマットするためのスイッチとして、使用します。ZM-500 の場合は、SRAM メモリカードの場合のみ、使用します。

ZM-500 では、内蔵 SRAM については、このスイッチが無効となります。(スイッチを押しても、「ピピピッ」とエラー音がなって、受け付けません。)

SRAM のフォーマットについて、詳しくは P 1-42 「SRAM フォーマット」を参照してください。

## サンプリング

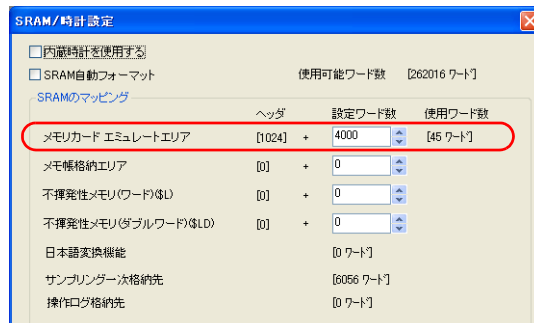
### 格納先

ZM-300 の [バッファリングエリア設定] の [格納先] の設定によって、ZM-500 での [格納先] が変わります。詳しくは下表を参照してください。

ZM-300		ZM-500			
格納先	その他の設定	一次格納先	二次格納先	その他注意点	
内部バッファ	—	DRAM	なし	—	
SRAM	内蔵 SRAM/ SRAM カセット	エミュレートエリア 設定ワード数 > 使用ワード数	SRAM	なし	エミュレートエリア ([SRAM/ 時計設定]) において、[サンプリング 一次格納先] の他に、 [エミュレートエリア] も自動的に何ワードか 設定が割り当てられま す。 <sup>*1</sup>
		エミュレートエリア 設定ワード数 = 使用ワード数	SRAM	なし	エミュレートエリア ([SRAM/ 時計設定]) において、[サンプリング 一次格納先] のみ、 自動的に割り当てられ ます。
		[ <input type="checkbox"/> CSV 出力] チェックあり	SRAM	CF カード	—
	ZM-1REC + SRAM カード	DRAM	メモリカード	[接続機器設定] の [そ その他] において、 [ <input type="checkbox"/> カードレコーダを使用する] にチェックが入ります。	
CF カード	キャッシュなし	DRAM	CF カード	サンプリング回数につ いて、詳しくは次項を 参照してください。	
	DRAM キャッシュ	DRAM	CF カード		
	SRAM キャッシュ	SRAM	CF カード		

\*1 変換後のエミュレートエリアは、以下のように、何ワードか自動的に割り当てられます。

ZM-500 では [使用ワード数] が確保できればよいので、手動で、[使用ワード数] (例では [45 ワード]) に [設定ワード数] を合わせてください。



## サンプリング回数

### 一次格納先

ZM-300 の時の [格納先] 等の設定によって、ZM-300 の [サンプリング回数] とは異なる場合があります。詳しくは下表を参照してください。

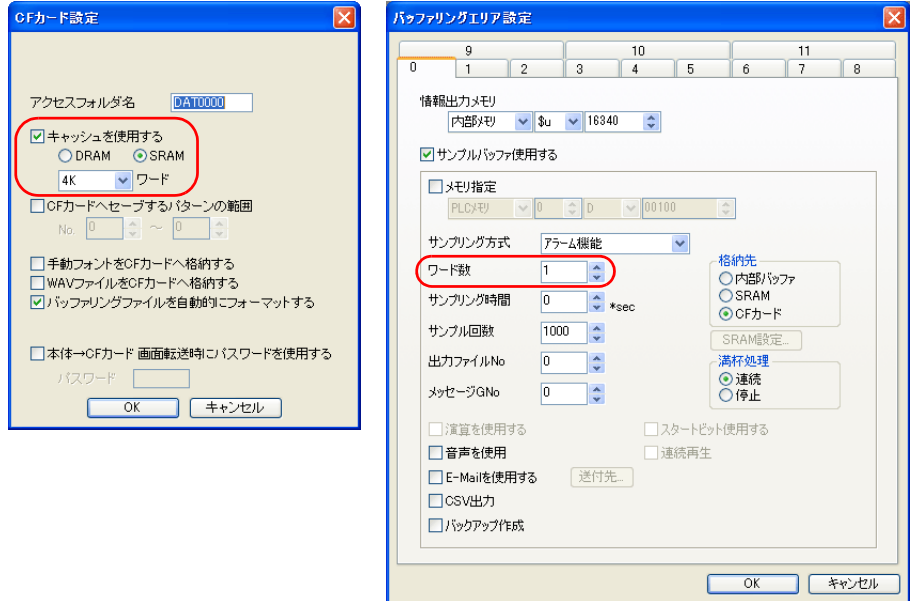
ZM-300		ZM-500	
格納先	その他の設定	一次格納先	サンプリング回数 (一次格納先)
内部バッファ	—	DRAM	ZM-300 [サンプリング回数] と同じ
SRAM	内蔵 SRAM/SRAM カセット	SRAM	ZM-300 [サンプリング回数] と同じ
	ZM-1REC + SRAM カード	DRAM	<ul style="list-style-type: none"> <li>• ビット同期 / 定時サンプル / 転送テーブル 256 ワード ÷ (2 ワード + ワード数)</li> <li>• ビットサンプル 256 ワード ÷ 3 ワード</li> <li>• リレーサンプル なし</li> <li>• アラーム機能 {256 ワード - (6 ワード × サンプルビット数) - 7 ワード} ÷ 5 ワード</li> </ul>
CF カード	キャッシュなし	DRAM	<ul style="list-style-type: none"> <li>• ビット同期 / 定時サンプル / 転送テーブル 256 ワード ÷ (2 ワード + ワード数)</li> <li>• ビットサンプル 85 回固定 (= 256 ワード ÷ 3 ワード)</li> <li>• リレーサンプル なし</li> <li>• アラーム機能 {256 ワード - (6 ワード × サンプルビット数) - 7 ワード} ÷ 5 ワード</li> </ul>
	DRAM キャッシュ	DRAM	<ul style="list-style-type: none"> <li>• ビット同期 / 定時サンプル / 転送テーブル キャッシュサイズ ÷ (2 ワード + ワード数)</li> <li>• ビットサンプル キャッシュサイズ ÷ 3 ワード</li> <li>• リレーサンプル なし</li> <li>• アラーム機能 {キャッシュサイズ - (6 ワード × サンプルビット数) - 7 ワード} ÷ 5 ワード</li> </ul>
	SRAM キャッシュ	SRAM	<ul style="list-style-type: none"> <li>• ビット同期 / 定時サンプル / 転送テーブル キャッシュサイズ ÷ (2 ワード + ワード数)</li> <li>• ビットサンプル キャッシュサイズ ÷ 3 ワード</li> <li>• リレーサンプル なし</li> <li>• アラーム機能 {キャッシュサイズ - (6 ワード × サンプルビット数) - 7 ワード} ÷ 5 ワード</li> </ul>

### 二次格納先

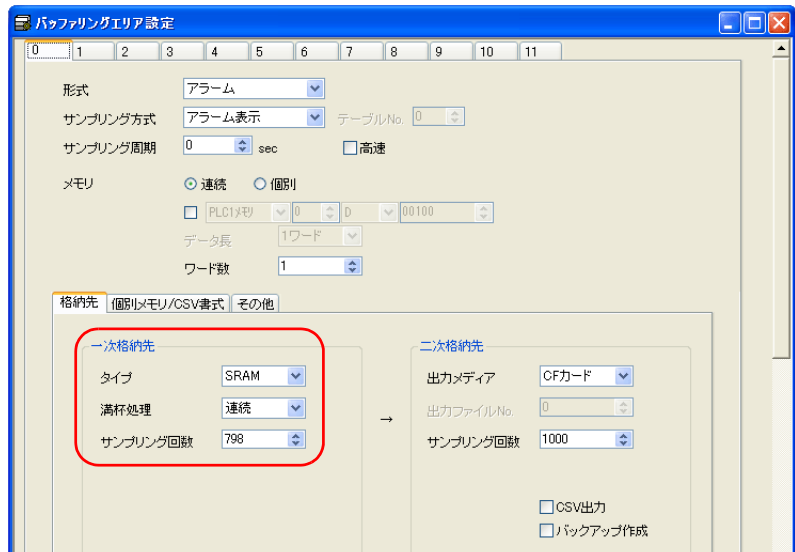
ZM-300 シリーズの [サンプリング回数] と同じ値に設定されます。

## 変換例

ZM-300 で、[格納先：CF カード] で、[SRAM キャッシュ] を使用して、以下のようにバッファリングエリアを設定します。



ZM-500 に変換すると、以下のような設定になります。



- 一次格納先の [サンプリング回数] の計算方法 (前ページ参照)  

$$\{ \text{キャッシュサイズ} - (6 \text{ ワード} \times \text{サンプリングビット数}) - 7 \text{ ワード} \} \div 5 \text{ ワード}$$

$$= \{ 4096 - (6 \times 16 \text{ ビット}) - 7 \text{ ワード} \} \div 5 \text{ ワード}$$

$$= (4096 - 96 - 7) \div 5$$

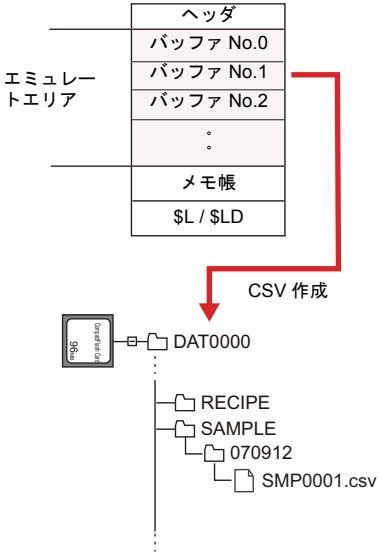
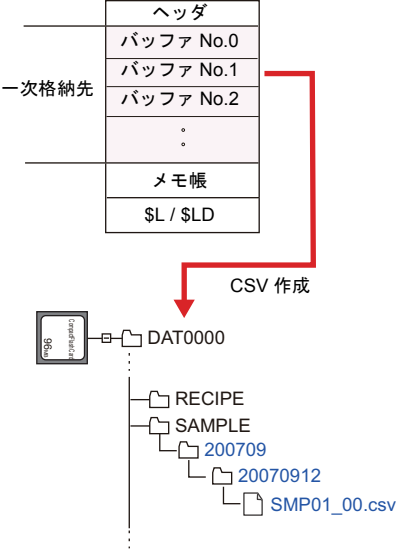
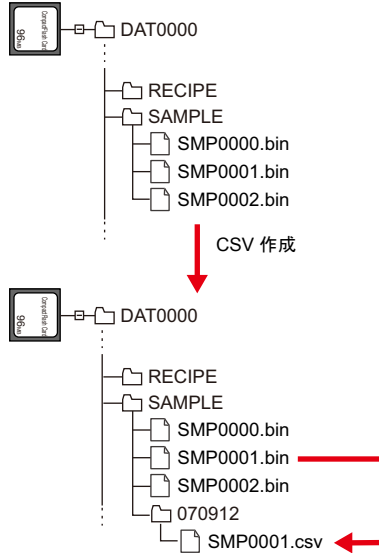
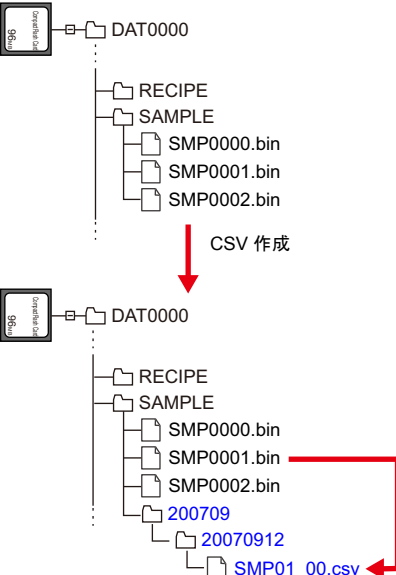
$$= 3993 \div 5$$

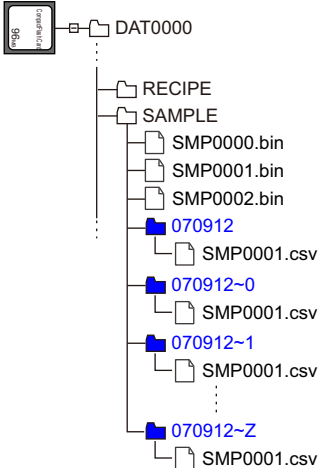
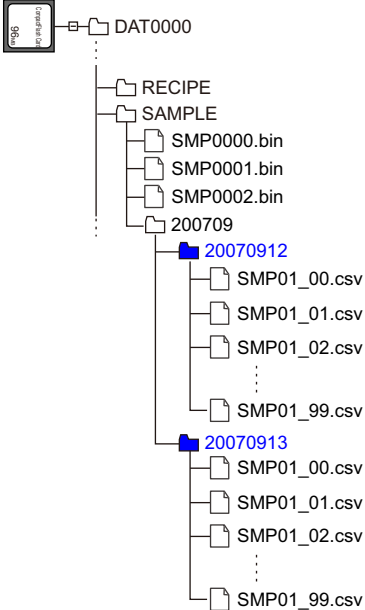
$$= 798 \text{ (余り 3)} \leftarrow \text{従って [サンプリング回数 : 798]}$$

## マクロ

サンプリング関連のマクロにおける違いが一部あります。詳しくは下表を参照してください。

コマンド / 動作	ZM-300	ZM-500
SMPL_BAK	<ul style="list-style-type: none"> <li>ファイル名 SMPxxxx.bin └── 0000 - 0011 : バッファ No.</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ファイル名 SMPxx_xx.bin └── 00 - 99 : バックアップ回数 └── 0000 - 0011 : バッファ No.</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>保存先  <p>bin ファイルは、年月日フォルダの中にコピーされます。</p> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>保存先  <p>bin ファイルは、年月フォルダ内の年月日フォルダの中にコピーされます。</p> </li> </ul>
SMPLCSV_BAK	<ul style="list-style-type: none"> <li>ファイル名 SMPxxxx.csv └── 0000 - 0011 : バッファ No.</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ファイル名 SMPxx_xx.csv └── 00 - 99 : バックアップ回数 └── 0000 - 0011 : バッファ No.</li> </ul>

コマンド / 動作	ZM-300	ZM-500
<p>→続き (SMPLCSV_BAK)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>保存先 [格納先 : SRAM] の場合</li> </ul>  <p>csv ファイルは、年月日フォルダの中に作成されます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>保存先 [一次格納先 : SRAM] [二次格納先 : なし] の場合</li> </ul>  <p>csv ファイルは、年月フォルダ内の年月日フォルダの中に作成されます。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>保存先 [格納先 : CF カード] の場合</li> </ul>  <p>csv ファイルは、年月日フォルダの中に作成されます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>保存先 [一次格納先 : SRAM] [二次格納先 : CF カード] の場合</li> </ul>  <p>csv ファイルは、年月フォルダ内の年月日フォルダの中に作成されます。</p>

コマンド / 動作	ZM-300	ZM-500
自動消去	<p data-bbox="358 243 1181 314">[システム設定] → [本体設定] → [環境設定] → [バックアップ作成時、CF カード容量が不足した場合、古いフォルダから削除する]</p> <p data-bbox="358 330 762 401">[SAMPLE] フォルダの下に出来た、[日付 (~x)] フォルダが削除対象フォルダとなります。</p>  <pre> graph TD     Root[CF Card] --- DAT0000     DAT0000 --- RECIPe     DAT0000 --- SAMPLE     SAMPLE --- SMP0000[SMP0000.bin]     SAMPLE --- SMP0001[SMP0001.bin]     SAMPLE --- SMP0002[SMP0002.bin]     SAMPLE --- D070912[070912]     D070912 --- SMP0001_0[SMP0001.csv]     SAMPLE --- D070912_0[070912~0]     D070912_0 --- SMP0001_0[SMP0001.csv]     SAMPLE --- D070912_1[070912~1]     D070912_1 --- SMP0001_1[SMP0001.csv]     SAMPLE --- D070912_Z[070912~Z]     D070912_Z --- SMP0001_Z[SMP0001.csv]     </pre>	<p data-bbox="790 330 1190 401">[SAMPLE] フォルダの下に出来た、[年月] フォルダの下に出来た、[年月日] フォルダが削除対象フォルダとなります。</p>  <pre> graph TD     Root[CF Card] --- DAT0000     DAT0000 --- RECIPe     DAT0000 --- SAMPLE     SAMPLE --- SMP0000[SMP0000.bin]     SAMPLE --- SMP0001[SMP0001.bin]     SAMPLE --- SMP0002[SMP0002.bin]     SAMPLE --- Y200709[200709]     Y200709 --- SMP01_00[SMP01_00.csv]     Y200709 --- SMP01_01[SMP01_01.csv]     Y200709 --- SMP01_02[SMP01_02.csv]     Y200709 --- SMP01_99[SMP01_99.csv]     SAMPLE --- Y20070913[20070913]     Y20070913 --- SMP01_00_13[SMP01_00.csv]     Y20070913 --- SMP01_01_13[SMP01_01.csv]     Y20070913 --- SMP01_02_13[SMP01_02.csv]     Y20070913 --- SMP01_99_13[SMP01_99.csv]     </pre>



## SRAM

## 内蔵 SRAM/SRAM カセットの場合

## SRAM/ 時計設定

SRAM の内容が一部異なります。詳しくは下表を参照してください。

ZM-300	ZM-500	備考
メモリカード エミュレートエリア	メモリカード エミュレートエリア	ZM-300 の場合： 内蔵 SRAM/SRAM カセットを使う場合に必ず設定。  ZM-500 の場合： SRAM メモリカードを使う場合のみ、必要ワード数を確保。 内蔵 SRAM でサンプリングとして使う分は、後述の「サンプリング一次格納先」で確保。
メモ帳格納エリア	←同左	—
不揮発性メモリ (ワード) (\$L)	←同左	—
不揮発性メモリ (ダブルワード) (\$LD)	←同左	—
CF カードキャッシュ	なし	ZM-300 の場合： CF カードで [キャッシュ : SRAM] の場合に自動的に確保。  ZM-500 の場合： [キャッシュ] 自体存在しない。 キャッシュの代用として [一次格納先] が存在する。
日本語変換機能	←同左	—
—	サンプリング一次格納先	ZM-300 の [バッファリングエリア] において、[格納先 : SRAM] の場合、または [格納先 : CF カード] で [キャッシュ : SRAM] の場合に、ZM-500 では [一次格納先] が [SRAM] となる。  ZM-300 において、[エミュレートエリア] または [CF カードキャッシュ] において割り当てられたワード数が、ZM-500 では [サンプリング一次格納先] として自動的に割り当てられる。
—	操作ログ格納先	ZM-500 の新機能「操作ログ」用。 (詳しくは『ZM-71S リファレンス追加機能マニュアル』を参照してください。)

## SRAM フォーマット

ZM-300 の場合と ZM-500 の場合で、SRAM フォーマットの手順が異なります。  
詳しくは下表を参照してください。

	ZM-300 (内蔵 SRAM/SRAM カセット)	ZM-500 (内蔵 SRAM)
手順 1	<ul style="list-style-type: none"> <li>バッファリングエリア設定 [格納先 : SRAM] に設定</li> <li>SRAM/ 時計設定 [エミュレートエリア] を設定</li> <li>[メモリカード] アイテムと [カードフォーマット] スイッチを画面上に配置</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>バッファリングエリア設定 [一次格納先 : SRAM]</li> <li>SRAM/ 時計設定 [サンプリング二次格納先] が確保される</li> <li>カードフォーマットスイッチ 不要</li> </ul>
手順 2	本体に画面データを転送します。	←同左
手順 3	本体上に「データにエラーがあります No. 161 (24 : )」が表示されます。 [ローカルメイン] 画面で、SRAM の 1 回目のフォーマットを行います。	本体上に「データにエラーがあります No. 161 (24 : )」が表示されます。 [メイン] 画面で、SRAM のフォーマット (*) を行います。
手順 4	本体を RUN 状態にします。 次に、「手順 1」の [カードフォーマット] スイッチを押して、2 回目のフォーマットを行います。	本体を RUN 状態にします。 [カードフォーマット] スイッチは不要です。 これで内蔵 SRAM は使用可能です。

\* ZM-500 の内蔵 SRAM を自動フォーマットすることができます。  
[SRAM/ 時計設定] において、[ SRAM 自動フォーマット] にチェックを入れると、「手順 3」のエラーは出なくなり、[メイン] 画面上の手動での SRAM フォーマット作業が不要になります。  
また、新品の ZM-500 に画面データを転送する際、上記の設定だけでは「手順 3」のエラーが消えません。その場合、[システム設定] → [本体設定] → [環境設定] において、[ SRAM を強制的にフォーマットする] にチェックを入れてください。

## SRAM カード（ZM-1REC +市販メモ리카ード）の場合

### SRAM フォーマット

---

フォーマットの手順に違いはありません。

### SRAM カード（データロギング）を ZM-500 用に置き換える方法

---

ZM-300 で保存したデータロギングデータは ZM-500 で表示できません。PC でバックアップを取った上で、カードフォーマット後に ZM-500 で新たにデータロギングを実行してください。

ZM-500 の RUN 画面上で、[機能：カードフォーマット] スイッチを押すことで、SRAM カードへのデータロギングが可能です。

- \* フォーマットしない場合、一次格納先（＝DRAM）に設定されている回数分であれば、そのままデータロギングが実行できます。  
フォーマットした時点から、二次格納先（＝メモ리카ード）へのデータロギングが実行できます。

## CF カード

### CF カードを ZM-500 用に置き換える方法

ZM-300 で使用していた CF カードを利用する場合、CF カードを使った機能において、そのまま ZM-500 で利用できるデータと利用できないデータがあります。詳しくは下表を参照してください。

ZM-300		ZM-500	対処方法
フォルダ名	ファイル名		
BITMAP	BMPxxxx.BIN	×	ZM-71S (Ver.5) において、ZM-500 のパターンデータを格納し直してください。
DSP	DSP0000.BIN	×	ZM-71S (Ver.5) または ZM-500 本体において、ZM-500 の画面データを格納し直してください。
JPEG	xxxxx.JPG JPxxxxx.JPG	○	—
MEMO	MEMxxxx.BIN	×	メモ帳データは置き換えできません。ZM-500 で新規格納してください。
RECIPE	RECxxxx.CSV xxxxxxx.CSV	○	—
SAMPLE	SMPxxxx.BIN	×	サンプリングデータは置き換えできません。ZM-500 で新規格納してください。
SNAP	VDxxxxx.JPG	○	—
SRAM	SRM0000.BIN	×	SRAM バックアップデータは置き換えできません。ZM-500 でバックアップし直してください。
WAV	WAXxxx.WAV	○	—
WEBSERV	*.SHT、*.HTML、 *.TXT など	○	—

## 通信設定

### 8Way への変換

ZM-300 シリーズを ZM-500 シリーズに変換する際、通信の種類によって、自動的に ZM-500 シリーズの 8Way (PLC1 ~ PLC8) に変換されます。詳しくは下表を参照してください。

ZM-300	ZM-500
PLC	PLC1
温調 /PLC2Way ネットワーク	PLC2
MODBUS スレーブ	PLC3
ZM-Link	PLC3
バーコードリーダー	PLC4

### 文字処理について

ZM-300 シリーズでは、[文字処理] (LSB/MSB) は、[通信パラメータ] で一括で設定しました。ZM-500 シリーズでは、各文字列表示等で、個別に設定できますが、ZM-300 シリーズから変換した場合は、[PLC1] で設定された [文字処理] が一括で反映されます。対象となるアイテムは以下のとおりです。

文字列表示 (各種ライブラリ上 / データサンプリング上等含む)
レシピモード
アトリビュート設定
バッファリングエリアの [CSV 書式]
MR-400 フォーマットテーブル

- \* [接続機器] が [バーコード] で [I/F メモリ] が PLC メモリになっている場合、ファイル変換直後は、必ず [LSB → MSB] で動きます。  
ZM-300 の際、[MSB → LSB] で動かしていた場合は、[システム設定] → [接続機器設定] → [通信設定] において、[口格納順] にチェックし、[MSB → LSB] を選んでください。

## 内部メモリ

### \$s (システムメモリ)

\$s メモリにおいて、一部、互換がないアドレスがあります。  
詳しくは、以下のとおりです。

- \$s17 (バックライト状態)  
ZM-300 の場合は 15 ビット目は未使用ですが、ZM-500 の場合、15 ビット目を使用します。  
監視に使っている場合は、15 ビット目をマスクしてください。

\$s17																																
ZM-300	<p>バックライト状態</p> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td>15</td><td>14</td><td>13</td><td>12</td><td>11</td><td>10</td><td>09</td><td>08</td><td>07</td><td>06</td><td>05</td><td>04</td><td>03</td><td>02</td><td>01</td><td>00</td> </tr> <tr> <td colspan="14"></td> <td style="text-align: right;">0: OFF    1: ON</td> </tr> </table>	15	14	13	12	11	10	09	08	07	06	05	04	03	02	01	00															0: OFF    1: ON
15	14	13	12	11	10	09	08	07	06	05	04	03	02	01	00																	
														0: OFF    1: ON																		
ZM-500	<p>バックライト状態</p> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td>15</td><td>14</td><td>13</td><td>12</td><td>11</td><td>10</td><td>09</td><td>08</td><td>07</td><td>06</td><td>05</td><td>04</td><td>03</td><td>02</td><td>01</td><td>00</td> </tr> <tr> <td colspan="2"></td> <td colspan="10">0: バックライト切れ    1: バックライト正常</td> <td colspan="2">0: OFF    1: ON</td> </tr> </table>	15	14	13	12	11	10	09	08	07	06	05	04	03	02	01	00			0: バックライト切れ    1: バックライト正常										0: OFF    1: ON		
15	14	13	12	11	10	09	08	07	06	05	04	03	02	01	00																	
		0: バックライト切れ    1: バックライト正常										0: OFF    1: ON																				

- \$s167 (SRAM 情報)  
ZM-300 の場合、内蔵 SRAM 以外に、SRAM カセット、FROM カセットが存在したため、0 ~ 2 ビット目で実装状態の確認ができました。  
ZM-500 にはカセットは存在しないため、0 ~ 2 ビット目は使用しません。

\$s167																																																																			
ZM-300	<table style="width: 100%;"> <tr> <td style="text-align: left;">MSB</td> <td style="text-align: right;">LSB</td> </tr> <tr> <td colspan="16"> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td>15</td><td>14</td><td>13</td><td>12</td><td>11</td><td>10</td><td>09</td><td>08</td><td>07</td><td>06</td><td>05</td><td>04</td><td>03</td><td>02</td><td>01</td><td>00</td> </tr> <tr> <td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td></td><td></td><td>0</td><td></td><td></td><td></td> </tr> </table> </td> </tr> <tr> <td colspan="4">                     メモリカセット情報予約 (設定: 0)                 </td> <td colspan="4">                     0: 電池正常                      1: 電池電圧低下                      2: 電池未挿入                 </td> <td colspan="4">                     0: 未実装                      1: FROM 2Mbyte (ZM-42 ~ 82)                      2: FROM 4Mbyte (ZM-42 ~ 82)                      3: SRAM 512kbyte (ZM-42 ~ 82 / 300)                      4: FROM 8Mbyte (ZM-300)                 </td> <td colspan="4">                     メモリカセット情報予約 (設定: 0)                 </td> </tr> </table>	MSB	LSB	<table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td>15</td><td>14</td><td>13</td><td>12</td><td>11</td><td>10</td><td>09</td><td>08</td><td>07</td><td>06</td><td>05</td><td>04</td><td>03</td><td>02</td><td>01</td><td>00</td> </tr> <tr> <td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td></td><td></td><td>0</td><td></td><td></td><td></td> </tr> </table>																15	14	13	12	11	10	09	08	07	06	05	04	03	02	01	00	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			0				メモリカセット情報予約 (設定: 0)				0: 電池正常 1: 電池電圧低下 2: 電池未挿入				0: 未実装 1: FROM 2Mbyte (ZM-42 ~ 82) 2: FROM 4Mbyte (ZM-42 ~ 82) 3: SRAM 512kbyte (ZM-42 ~ 82 / 300) 4: FROM 8Mbyte (ZM-300)				メモリカセット情報予約 (設定: 0)			
MSB	LSB																																																																		
<table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td>15</td><td>14</td><td>13</td><td>12</td><td>11</td><td>10</td><td>09</td><td>08</td><td>07</td><td>06</td><td>05</td><td>04</td><td>03</td><td>02</td><td>01</td><td>00</td> </tr> <tr> <td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td></td><td></td><td>0</td><td></td><td></td><td></td> </tr> </table>																15	14	13	12	11	10	09	08	07	06	05	04	03	02	01	00	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			0																							
15	14	13	12	11	10	09	08	07	06	05	04	03	02	01	00																																																				
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			0																																																							
メモリカセット情報予約 (設定: 0)				0: 電池正常 1: 電池電圧低下 2: 電池未挿入				0: 未実装 1: FROM 2Mbyte (ZM-42 ~ 82) 2: FROM 4Mbyte (ZM-42 ~ 82) 3: SRAM 512kbyte (ZM-42 ~ 82 / 300) 4: FROM 8Mbyte (ZM-300)				メモリカセット情報予約 (設定: 0)																																																							
ZM-500	<table style="width: 100%;"> <tr> <td style="text-align: left;">MSB</td> <td style="text-align: right;">LSB</td> </tr> <tr> <td colspan="16"> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td>15</td><td>14</td><td>13</td><td>12</td><td>11</td><td>10</td><td>09</td><td>08</td><td>07</td><td>06</td><td>05</td><td>04</td><td>03</td><td>02</td><td>01</td><td>00</td> </tr> <tr> <td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td></td><td></td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td> </tr> </table> </td> </tr> <tr> <td colspan="4">                     システム予約 (設定: 0)                 </td> <td colspan="4">                     0: 電池正常                      1: 電池電圧低下                      2: 電池未挿入                 </td> <td colspan="4">                     システム予約 (設定: 0)                 </td> </tr> </table>	MSB	LSB	<table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td>15</td><td>14</td><td>13</td><td>12</td><td>11</td><td>10</td><td>09</td><td>08</td><td>07</td><td>06</td><td>05</td><td>04</td><td>03</td><td>02</td><td>01</td><td>00</td> </tr> <tr> <td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td></td><td></td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td> </tr> </table>																15	14	13	12	11	10	09	08	07	06	05	04	03	02	01	00	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			0	0	0	0	システム予約 (設定: 0)				0: 電池正常 1: 電池電圧低下 2: 電池未挿入				システム予約 (設定: 0)							
MSB	LSB																																																																		
<table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td>15</td><td>14</td><td>13</td><td>12</td><td>11</td><td>10</td><td>09</td><td>08</td><td>07</td><td>06</td><td>05</td><td>04</td><td>03</td><td>02</td><td>01</td><td>00</td> </tr> <tr> <td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td></td><td></td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td> </tr> </table>																15	14	13	12	11	10	09	08	07	06	05	04	03	02	01	00	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			0	0	0	0																				
15	14	13	12	11	10	09	08	07	06	05	04	03	02	01	00																																																				
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			0	0	0	0																																																				
システム予約 (設定: 0)				0: 電池正常 1: 電池電圧低下 2: 電池未挿入				システム予約 (設定: 0)																																																											

## Ethernet 用ネットワークテーブル

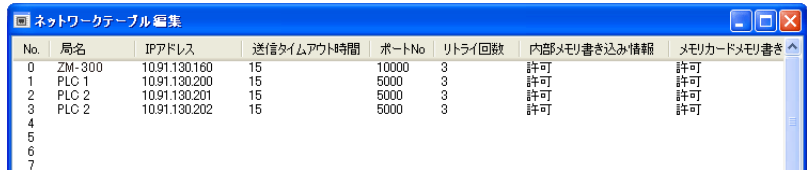
ZM-300 において、Ethernet 用のネットワークテーブルは、1 箇所にとまとめて設定する構造でした。

ZM-500 からは、Ethernet 用のネットワークテーブルは、PLC 用と液晶コントロールターミナル / PC 用に分けて設定する構造に変わりました。

具体的に例を挙げて説明します。

### 例：Ethernet 対応 PLC と接続する ZM-300

ZM-300 で、以下のように、ネットワークテーブルを登録します。



No.	局名	IPアドレス	送信タイムアウト時間	ポートNo	リトライ回数	内部メモリ書き込み情報	メモリカードメモリ書き
0	ZM-300	10.91.130.160	15	10000	3	許可	許可
1	PLC 1	10.91.130.200	15	5000	3	許可	許可
2	PLC 2	10.91.130.201	15	5000	3	許可	許可
3	PLC 2	10.91.130.202	15	5000	3	許可	許可
4							
5							
6							
7							

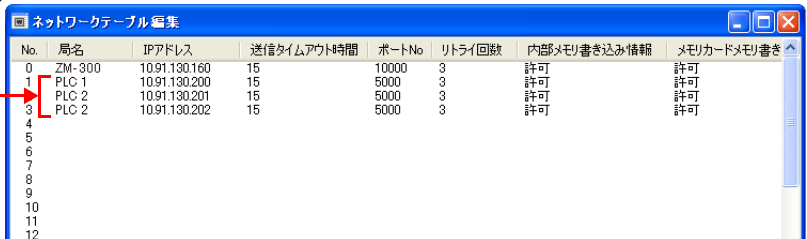
ZM-500 に変換すると、ネットワークテーブルと同じ内容が、自動的に PLC テーブルにコピーされます。

ネットワークテーブル上では、PLC の設定を削除しても問題ありません。

また、PLC テーブル上では、ZM-500 や PC の設定を削除しても問題ありません。

- ネットワークテーブル (ZM-500/PC 用)

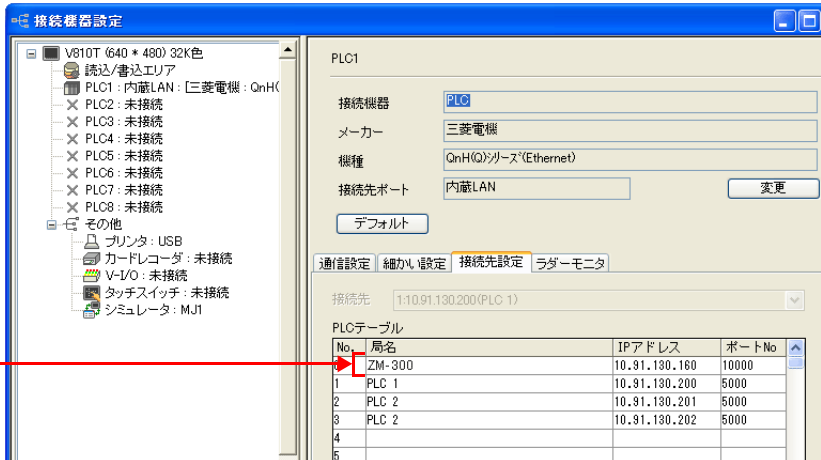
削除可



No.	局名	IPアドレス	送信タイムアウト時間	ポートNo	リトライ回数	内部メモリ書き込み情報	メモリカードメモリ書き
0	ZM-300	10.91.130.160	15	10000	3	許可	許可
1	PLC 1	10.91.130.200	15	5000	3	許可	許可
2	PLC 2	10.91.130.201	15	5000	3	許可	許可
3	PLC 2	10.91.130.202	15	5000	3	許可	許可
4							
5							
6							
7							
8							
9							
10							
11							
12							

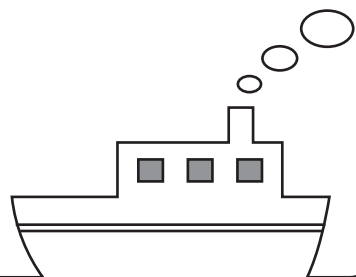
- PLC テーブル (PLC 用)

削除可



No.	局名	IPアドレス	ポートNo
0	ZM-300	10.91.130.160	10000
1	PLC 1	10.91.130.200	5000
2	PLC 2	10.91.130.201	5000
3	PLC 2	10.91.130.202	5000
4			
5			

# MEMO





## 2 ZM-42 ~ 82 シリーズ→ ZM-500 シリーズ

### 2.1 推奨機種

\* ZM-42 ~ 82 と接続中の PLC が、ZM-500 では未対応（開発中）の場合もあります。接続先の PLC 機種への対応状況を事前に弊社営業または技術相談窓口までお確かめください。

#### 本体

ZM-42 ~ 82 シリーズを ZM-500 シリーズに置き換える場合、推奨機種は以下のようになります。

	ZM-42 ~ 82 シリーズ	ZM-500 シリーズ	オプション
12 インチ	ZM-82D/DC/T	ZM-581SA	—
	ZM-82DM/TM	ZM-583SA	—
	ZM-82TV/TVC	ZM-581SA	受注生産品 00
	ZM-82TCM	ZM-583SA	受注生産品 00
10 インチ	ZM-72TS/TSC	ZM-571SA	—
	ZM-72TSV/TSVC	ZM-571SA	受注生産品 00
	ZM-72T/TC	ZM-571TA	—
	ZM-72TM/TCM	ZM-573TA	—
	ZM-72TV/TVC	ZM-571TA	受注生産品 00
	ZM-72TVM	ZM-573TA	受注生産品 00
	ZM-72D/DC	ZM-571TL	—
8 インチ	ZM-52D	ZM-562TA ZM-562T	—
		ZM-542TA ZM-542T	ZM-540DU
5.7 インチ	ZM-43T	ZM-542DA ZM-542D	ZM-540DU
	ZM-43D ZM-42D	—	—
	ZM-43L ZM-42L	—	—
8.9 インチ	ZM-62E	ZM-562TA* <sup>1</sup> ZM-562T* <sup>1</sup>	受注生産品 PAD-01* <sup>2</sup> 受注生産品 PW* <sup>3</sup>
		ZM-573TL	受注生産品 PAD002* <sup>4</sup>
8 インチ	ZM-52HD	ZM-552HA	—

\*1 ZM-562T/TA にマトリックススイッチタイプはありません。

アナログスイッチタイプへ変更するか、ZM-573TL をご使用ください。

\*2 ZM-562T/TA に置き換える際、パネルカット寸法が一回り小さくなります。そのため、パネルカットアダプタ「受注生産品 PAD-01」が必要です。

\*3 ZM-562T/TA に置き換える際、電源仕様が DC 電源固定となります。

AC 電源仕様の ZM-62E から置き換える場合は、オプションの AC/DC コンバータ「受注生産品 PW」が必要です。

- \*4 ZM-573TL に置き換える際、パネルカット寸法が一回り大きくなります。  
パネルカットを広げていただくか、パネルカットアダプタ「受注生産品 PAD002」  
が必要です。

## 通信インターフェースユニット

置き換えの推奨機種は以下のようになります。

	ZM-42 ~ 82 シリーズ		ZM-500 シリーズ	
通信 インターフェース ユニット	ZM-80NU	Ethernet/FL-net	受注生産品 03-3	Ethernet
	ZM-80NU2		受注生産品 08	FL-net

## 増設メモリカセット

ZM-500 シリーズには、増設メモリカセットはありません。

置き換えの注意事項について、FROM カセットについては P 2-24、SRAM カセットについては P 2-25 を、それぞれ参照してください。

## 2.2 ハードの互換性

### ZM-82 → ZM-58\*SA

項目	ZM-82	ZM-58*SA
表示デバイス	<ul style="list-style-type: none"> <li>• TFT カラー : ZM-82T</li> <li>• STN カラー : ZM-82D</li> </ul>	TFT カラー
表示色	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 128 色 (プリンク 16 色)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 65,536 色 (プリンクなし)</li> <li>• 32,768 色 (プリンクあり)</li> </ul>
有効表示領域	12.1 インチ	12.1 インチ
パネルカット寸法 (単位 : mm)	313W × 246.2H	313W × 246.2H
表示分解能 (W × H)	800 × 600 ドット	800 × 600 ドット
タッチスイッチ方式	アナログ マトリックス	アナログ マトリックス
取付角度	0 ~ 135°	15 ~ 135°
FROM	約 2.8MB <sup>*1</sup> (フォントにより増加あり)	約 12.5MB (フォントにより増加あり)
増設メモ리카セット	「ZM-4EM」 : 4MB	なし
内蔵 SRAM	なし	512KB
SRAM カセット	「ZM-80SM」 : 512KB	なし
画面転送	<ul style="list-style-type: none"> <li>• MJ1 : 弊社製画面転送ケーブル「ZM-80C」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• MJ1 の場合 弊社製画面転送ケーブル「ZM-80C」</li> <li>• USB-B の場合 市販 USB ケーブル</li> <li>• LAN ポートの場合 Ethernet 転送</li> </ul>
PLC 接続	CN1 : Dsub25 ピン (凹) ミリネジ	CN1 : Dsub9 ピン (凹) インチネジ  * ZM-42 ~ 82 用のケーブルを利用する場合は、弊社製変換ケーブル「ZM-500CC」(0.3m) を使用
温調 /PLC2Way 接続	MJ1/MJ2 : モジュラー 8 ピン	MJ1/MJ2 : モジュラー 8 ピン
ターミナルコンバータ (CN1 用)	ZM-1TC Y 端子	ZM-2TC 棒端子
プリンタポート	<ul style="list-style-type: none"> <li>• パラレル接続 (PRINTER ポート) セントロニクスハーフピッチ 36 ピン</li> <li>• シリアル接続 (MJ1/MJ2) モジュラーコネクタ 8 ピン</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• パラレル接続 なし</li> <li>• シリアル接続 (MJ1/MJ2) モジュラーコネクタ 8 ピン</li> <li>• USB 接続 USB-A ポート (PictBridge 対応プリンタに変更すると、 USB-B ポートでの接続も可能)</li> </ul>

項目	ZM-82	ZM-58*SA
プリンタケーブル	<ul style="list-style-type: none"> <li>• パラレル接続 弊社製 ZM-42 ~ 82 専用ケーブル「ZM-80PC」</li> <li>• シリアル接続 「受注生産品 TMP」で作成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• パラレル接続 なし ただし、「ZM-80PC」の代わりに、市販 USB パラレル変換ケーブル (ELECOM : UC-PGT) を使うことで置換可能</li> <li>• シリアル接続 「受注生産品 TMP」で作成</li> </ul>
バーコードリーダー接続	<ul style="list-style-type: none"> <li>• シリアル接続 (MJ1/MJ2) モジュラーコネクタ 8 ピン</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• シリアル接続 (MJ1/MJ2) モジュラーコネクタ 8 ピン</li> <li>• USB 接続 USB-A ポート (USB-HID 準拠タイプのバーコードに変更すると、USB 接続が可能)</li> </ul>
保護シート	「ZM-82GS」	「ZM-580GS」
メモ리카ード機能	<ul style="list-style-type: none"> <li>• カードレコーダ「ZM-1REC」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• カードレコーダ「ZM-1REC」 または USB CF カードリーダーライター (USB-A ポートに接続)</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>• SRAM カセット</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 内蔵 SRAM</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 内蔵メモ리카ードインターフェース</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• CF カード</li> </ul>
カードレコーダ	<ul style="list-style-type: none"> <li>• ZM-1REC</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• ZM-1REC</li> <li>• USB CF カードリーダーライター (USB-A ポートに接続)</li> </ul>

\*1 ハードバージョンによって、FROM の容量が異なります。  
詳しくは『ZM-42 ~ 82 ユーザーズマニュアル』を参照してください。

**ZM-72TS → ZM-57\*SA**

項目	ZM-72TS	ZM-57*SA
表示デバイス	TFT カラー	TFT カラー
表示色	<ul style="list-style-type: none"> <li>128 色 (ブリック 16 色)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>65,536 色 (ブリックなし)</li> <li>32,768 色 (ブリックあり)</li> <li>128 色 (ブリック 16 色)</li> </ul>
有効表示領域	10.4 インチ	10.4 インチ
パネルカット寸法 (単位 : mm)	289W × 216.2H	289W × 216.2H
表示分解能 (W × H)	800 × 600 ドット	800 × 600 ドット
タッチスイッチ方式	アナログ	アナログ
取付角度	0 ~ 135°	15 ~ 135°
FROM	約 2.8MB* <sup>1</sup> (フォントにより増加あり)	約 12.5MB (フォントにより増加あり)
増設メモリカセット	「ZM-4EM」: 4MB	なし
内蔵 SRAM	なし	512KB
SRAM カセット	「ZM-80SM」: 512KB	なし
画面転送	<ul style="list-style-type: none"> <li>MJ1 : 弊社製画面転送ケーブル「ZM-80C」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>MJ1 の場合 弊社製画面転送ケーブル「ZM-80C」</li> <li>USB-B の場合 市販 USB ケーブル</li> <li>LAN ポートの場合 Ethernet 転送</li> </ul>
PLC 接続	CN1 : Dsub25 ピン (凹) ミリネジ	CN1 : Dsub9 ピン (凹) インチネジ  * ZM-42 ~ 82 用のケーブルを利用する場合は、弊社製変換ケーブル「ZM-500CC」(0.3m) を使用
温調 /PLC2Way 接続	MJ1/MJ2 : モジュラー 8 ピン	MJ1/MJ2 : モジュラー 8 ピン
ターミナルコンバータ (CN1 用)	ZM-1TC Y 端子	ZM-2TC 棒端子
プリンタポート	<ul style="list-style-type: none"> <li>パラレル接続 (PRINTER ポート) セントロニクスハーフピッチ 36 ピン</li> <li>シリアル接続 (MJ1/MJ2) モジュラーコネクタ 8 ピン</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>パラレル接続 なし</li> <li>シリアル接続 (MJ1/MJ2) モジュラーコネクタ 8 ピン</li> <li>USB 接続 USB-A ポート (PictBridge 対応プリンタに変更すると、 USB-B ポートでの接続も可能)</li> </ul>
プリンタケーブル	<ul style="list-style-type: none"> <li>パラレル接続 弊社製 ZM-42 ~ 82 専用ケーブル 「ZM-80PC」</li> <li>シリアル接続 「受注生産品 TMP」で作成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>パラレル接続 なし ただし、「ZM-80PC」の代わりに、市販 USB パラレル変換ケーブル (ELECOM : UC-PGT) を使うことで置換可能</li> <li>シリアル接続 「受注生産品 TMP」で作成</li> </ul>

項目	ZM-72TS	ZM-57*SA
バーコードリーダー接続	<ul style="list-style-type: none"> <li>シリアル接続 (MJ1/MJ2) モジュラーコネクタ 8 ピン</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>シリアル接続 (MJ1/MJ2) モジュラーコネクタ 8 ピン</li> <li>USB 接続 USB-A ポート (USB-HID 準拠タイプのバーコードに変更すると、USB 接続が可能)</li> </ul>
保護シート	「ZM-80GS」	「ZM-570GS」
メモリカード機能	<ul style="list-style-type: none"> <li>カードレコーダ「ZM-1REC」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>カードレコーダ「ZM-1REC」 または USB CF カードリーダーライター (USB-A ポートに接続)</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>SRAM カセット</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>内蔵 SRAM</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>内蔵メモリカードインターフェース</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>CF カード</li> </ul>
カードレコーダ	<ul style="list-style-type: none"> <li>ZM-1REC</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ZM-1REC</li> <li>USB CF カードリーダーライター (USB-A ポートに接続)</li> </ul>

\*1 ハードバージョンによって、FROM の容量が異なります。  
詳しくは『ZM-42 ~ 82 ユーザーズマニュアル』を参照してください。

## ZM-72T → ZM-57\*TA

項目	ZM-72T	ZM-57*TA
表示デバイス	TFT カラー	TFT カラー
表示色	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 128 色 (プリンク 16 色)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 65,536 色 (プリンクなし)</li> <li>• 32,768 色 (プリンクあり)</li> <li>• 128 色 (プリンク 16 色)</li> </ul>
有効表示領域	10.4 インチ	10.4 インチ
パネルカット寸法 (単位 : mm)	289W × 216.2H	289W × 216.2H
表示分解能 (W × H)	640 × 480 ドット	640 × 480 ドット
タッチスイッチ方式	アナログ	アナログ
	マトリックス	マトリックス
取付角度	0 ~ 135°	15 ~ 135°
FROM	約 2.8MB <sup>*1</sup> (フォントにより増加あり)	約 12.5MB (フォントにより増加あり)
増設メモリカセット	「ZM-4EM」: 4MB	なし
内蔵 SRAM	なし	512KB
SRAM カセット	「ZM-80SM」: 512KB	なし
画面転送	<ul style="list-style-type: none"> <li>• MJ1 : 弊社製画面転送ケーブル 「ZM-80C」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• MJ1 の場合 弊社製画面転送ケーブル「ZM-80C」</li> <li>• USB-B の場合 市販 USB ケーブル</li> <li>• LAN ポートの場合 Ethernet 転送</li> </ul>
PLC 接続	CN1 : Dsub25 ピン (凹) ミリネジ	CN1 : Dsub9 ピン (凹) インチネジ  * ZM-42 ~ 82 用のケーブルを利用する場 合は、弊社製変換ケーブル「ZM-500CC」 (0.3m) を使用
温調 /PLC2Way 接続	MJ1/MJ2 : モジュラー 8 ピン	MJ1/MJ2 : モジュラー 8 ピン
ターミナルコンバータ (CN1 用)	ZM-1TC Y 端子	ZM-2TC 棒端子
プリンタポート	<ul style="list-style-type: none"> <li>• パラレル接続 (PRINTER ポート) セントロニクスハーフピッチ 36 ピン</li> <li>• シリアル接続 (MJ1/MJ2) モジュラーコネクタ 8 ピン</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• パラレル接続 なし</li> <li>• シリアル接続 (MJ1/MJ2) モジュラーコネクタ 8 ピン</li> <li>• USB 接続 USB-A ポート (PictBridge 対応プリンタに変更すると、 USB-B ポートでの接続も可能)</li> </ul>
プリンタケーブル	<ul style="list-style-type: none"> <li>• パラレル接続 弊社製 ZM-42 ~ 82 専用ケーブル 「ZM-80PC」</li> <li>• シリアル接続 「受注生産品 TMP」で作成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• パラレル接続 なし ただし、「ZM-80PC」の代わりに、市販 USB パラレル変換ケーブル (ELECOM : UC-PGT) を使うことで置換可能</li> <li>• シリアル接続 「受注生産品 TMP」で作成</li> </ul>



項目	ZM-72T	ZM-57*TA
バーコードリーダ接続	<ul style="list-style-type: none"> <li>シリアル接続 (MJ1/MJ2) モジュラーコネクタ 8 ピン</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>シリアル接続 (MJ1/MJ2) モジュラーコネクタ 8 ピン</li> <li>USB 接続 USB-A ポート (USB-HID 準拠タイプのバーコードに変更すると、USB 接続が可能)</li> </ul>
保護シート	「ZM-80GS」	「ZM-570GS」
メモリカード機能	<ul style="list-style-type: none"> <li>カードレコーダ「ZM-1REC」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>カードレコーダ「ZM-1REC」 または USB CF カードリーダーライター (USB-A ポートに接続)</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>SRAM カセット</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>内蔵 SRAM</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>内蔵メモリカードインターフェース</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>CF カード</li> </ul>
カードレコーダ	<ul style="list-style-type: none"> <li>ZM-1REC</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ZM-1REC</li> <li>USB CF カードリーダーライター (USB-A ポートに接続)</li> </ul>

\*1 ハードバージョンによって、FROM の容量が異なります。  
詳しくは『ZM-42 ~ 82 ユーザーズマニュアル』を参照してください。

## ZM-72D → ZM-57\*TL

項目	ZM-72D	ZM-57*TL
表示デバイス	STN カラー	TFT カラー
表示色	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 128 色 (ブリック 16 色)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 65,536 色 (ブリックなし)</li> <li>• 32,768 色 (ブリックあり)</li> <li>• 128 色 (ブリック 16 色)</li> </ul>
有効表示領域	10.4 インチ	10.4 インチ
パネルカット寸法 (単位 : mm)	289W × 216.2H	289W × 216.2H
表示分解能 (W × H)	640 × 480 ドット	640 × 480 ドット
タッチスイッチ方式	アナログ マトリックス	アナログ マトリックス
取付角度	0 ~ 135°	15 ~ 135°
FROM	約 2.8MB * <sup>1</sup> (フォントにより増加あり)	約 4.5MB (フォントにより増加あり)
増設メモ리카セット	「ZM-4EM」 : 4MB	なし
内蔵 SRAM	なし	128KB
SRAM カセット	「ZM-80SM」 : 512KB	なし
画面転送	<ul style="list-style-type: none"> <li>• MJ1 : 弊社製画面転送ケーブル 「ZM-80C」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• MJ1 の場合 弊社製画面転送ケーブル「ZM-80C」</li> <li>• USB-B の場合 市販 USB ケーブル</li> </ul>
PLC 接続	CN1 : Dsub25 ピン (凹) ミリネジ	CN1 : Dsub9 ピン (凹) インチネジ  * ZM-42 ~ 82 用のケーブルを利用する場 合は、弊社製変換ケーブル「ZM-500CC」 (0.3m) を使用
温調 /PLC2Way 接続	MJ1/MJ2 : モジュラー 8 ピン	MJ1/MJ2 : モジュラー 8 ピン
ターミナルコンバータ (CN1 用)	ZM-1TC Y 端子	ZM-2TC 棒端子
プリンタポート	<ul style="list-style-type: none"> <li>• パラレル接続 (PRINTER ポート) セントロニクスハーフピッチ 36 ピン</li> <li>• シリアル接続 (MJ1/MJ2) モジュラーコネクタ 8 ピン</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• パラレル接続 なし</li> <li>• シリアル接続 (MJ1/MJ2) モジュラーコネクタ 8 ピン</li> <li>• USB 接続 USB-A ポート (PictBridge 対応プリンタに変更すると、 USB-B ポートでの接続も可能)</li> </ul>
プリンタケーブル	<ul style="list-style-type: none"> <li>• パラレル接続 弊社製 ZM-42 ~ 82 専用ケーブル 「ZM-80PC」</li> <li>• シリアル接続 「受注生産品 TMP」で作成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• パラレル接続 なし ただし、「ZM-80PC」の代わりに、市販 USB パラレル変換ケーブル (ELECOM : UC-PGT) を使うことで置換可能</li> <li>• シリアル接続 「受注生産品 TMP」で作成</li> </ul>

項目	ZM-72D	ZM-57*TL
バーコードリーダー接続	<ul style="list-style-type: none"> <li>シリアル接続 (MJ1/MJ2) モジュラーコネクタ 8 ピン</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>シリアル接続 (MJ1/MJ2) モジュラーコネクタ 8 ピン</li> <li>USB 接続 USB-A ポート (USB-HID 準拠タイプのバーコードに変更すると、USB 接続が可能)</li> </ul>
保護シート	「ZM-80GS」	「ZM-570GS」
メモリカード機能	<ul style="list-style-type: none"> <li>カードレコーダ「ZM-1REC」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>カードレコーダ「ZM-1REC」 または USB CF カードリーダーライター (USB-A ポートに接続)</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>SRAM カセット</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>内蔵 SRAM</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>内蔵メモリカードインターフェース</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>CF カード</li> </ul>
カードレコーダ	<ul style="list-style-type: none"> <li>ZM-1REC</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ZM-1REC</li> <li>USB CF カードリーダーライター (USB-A ポートに接続)</li> </ul>

\*1 ハードバージョンによって、FROM の容量が異なります。  
詳しくは『ZM-42 ~ 82 ユーザーズマニュアル』を参照してください。

## ZM-52D → ZM-562T/TA

項目	ZM-52D	ZM-562T/TA
表示デバイス	STN カラー	TFT カラー
表示色	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 128 色 (プリンク 16 色)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 65,536 色 (プリンクなし)</li> <li>• 32,768 色 (プリンクあり)</li> <li>• 128 色 (プリンク 16 色)</li> </ul>
有効表示領域	7.7 インチ	8.4 インチ
パネルカット寸法 (単位 : mm)	220.5W × 165.5H	220.5W × 165.5H
表示分解能 (W × H)	640 × 480 ドット	640 × 480 ドット
タッチスイッチ方式	アナログ	アナログ
取付角度	0 ~ 135°	15 ~ 135°
FROM	約 2.8MB * <sup>1</sup> (フォントにより増加あり)	<ul style="list-style-type: none"> <li>• ZM-562TA の場合 約 12.5MB (フォントにより増加あり)</li> <li>• ZM-562T の場合 約 4.5MB (フォントにより増加あり)</li> </ul>
増設メモ리카セット	「ZM-4EM」: 4MB	なし
内蔵 SRAM	なし	<ul style="list-style-type: none"> <li>• ZM-562TA の場合 512KB</li> <li>• ZM-562T の場合 128KB</li> </ul>
SRAM カセット	「ZM-80SM」: 512KB	なし
画面転送	<ul style="list-style-type: none"> <li>• MJ1 : 弊社製画面転送ケーブル「ZM-80C」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• MJ1 の場合 弊社製画面転送ケーブル「ZM-80C」</li> <li>• USB-B の場合 市販 USB ケーブル</li> <li>• LAN ポートの場合 (ZM-562TA のみ) Ethernet 転送</li> </ul>
PLC 接続	CN1 : Dsub25 ピン (凹) ミリネジ	CN1 : Dsub9 ピン (凹) インチネジ  * ZM-42 ~ 82 用のケーブルを利用する場合は、弊社製変換ケーブル「ZM-500CC」(0.3m) を使用
温調 /PLC2Way 接続	MJ1/MJ2 : モジュラー 8 ピン	MJ1/MJ2 : モジュラー 8 ピン
ターミナルコンバータ (CN1 用)	ZM-1TC Y 端子	ZM-2TC 棒端子
プリンタポート	<ul style="list-style-type: none"> <li>• パラレル接続 (PRINTER ポート) セントロニクスハーフピッチ 36 ピン</li> <li>• シリアル接続 (MJ1/MJ2) モジュラーコネクタ 8 ピン</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• パラレル接続 なし</li> <li>• シリアル接続 (MJ1/MJ2) モジュラーコネクタ 8 ピン</li> <li>• USB 接続 USB-A ポート (PictBridge 対応プリンタに変更すると、 USB-B ポートでの接続も可能)</li> </ul>

項目	ZM-52D	ZM-562T/TA
プリンタケーブル	<ul style="list-style-type: none"> <li>• パラレル接続 弊社製 ZM-42 ~ 82 専用ケーブル 「ZM-80PC」</li> <li>• シリアル接続 「受注生産品 TMP」で作成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• パラレル接続 なし ただし、「ZM-80PC」の代わりに、市販 USB パラレル変換ケーブル（ELECOM : UC-PGT）を使うことで置換可能</li> <li>• シリアル接続 「受注生産品 TMP」で作成</li> </ul>
バーコードリーダー接続	<ul style="list-style-type: none"> <li>• シリアル接続（MJ1/MJ2） モジュラーコネクタ 8 ピン</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• シリアル接続（MJ1/MJ2） モジュラーコネクタ 8 ピン</li> <li>• USB 接続 USB-A ポート （USB-HID 準拠タイプのバーコードに変更 すると、USB 接続が可能）</li> </ul>
保護シート	「ZM-52GS」	「ZM-560GS」
メモ리카ード機能	<ul style="list-style-type: none"> <li>• カードレコーダ「ZM-1REC」</li> <li>• SRAM カセット</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• カードレコーダ「ZM-1REC」 または USB CF カードリーダーライター （USB-A ポートに接続）</li> <li>• 内蔵 SRAM</li> </ul>
カードレコーダ	<ul style="list-style-type: none"> <li>• ZM-1REC</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• ZM-1REC</li> <li>• USB CF カードリーダーライター （USB-A ポートに接続）</li> </ul>

\*1 ハードバージョンによって、FROM の容量が異なります。  
詳しくは『ZM-42 ~ 82 ユーザーズマニュアル』を参照してください。

## ZM-42/43→ ZM-540

項目	ZM-42/43	ZM-540
表示デバイス	<ul style="list-style-type: none"> <li>• TFT カラー : ZM-43T</li> <li>• STN カラー : ZM-42D/43D</li> <li>• STN モノクロ : ZM-42L/43L</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• TFT カラー : ZM-542T/TA</li> <li>• STN カラー : ZM-542D/DA</li> </ul>
表示色	<ul style="list-style-type: none"> <li>• ZM-42D/43D/43T 16色 (ブリックあり)</li> <li>• ZM-42L/43L モノクロ (ホワイトモード) 8階調</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• ZM-542T/TA、ZM-542D/DA 65,536色 (ブリックなし)</li> <li>32,768色 (ブリックあり)</li> <li>128色 (ブリック 16色)</li> </ul>
有効表示領域	5.7 インチ	5.7 インチ
パネルカット寸法 (単位 : mm)	174W × 131H	174W × 131H
表示分解能 (W × H)	320 × 240 ドット	320 × 240 ドット
タッチスイッチ方式	<ul style="list-style-type: none"> <li>• アナログ</li> <li>• マトリックス</li> </ul>	アナログ
取付角度	0 ~ 135°	15 ~ 135°
FROM	約 760KB (フォントにより増加あり)	約 4.5MB (フォントにより増加あり)
増設メモリカセット	「ZM-43EM」 : 4MB (ZM-43のみ)	なし
内蔵 SRAM	なし	<ul style="list-style-type: none"> <li>• ZM-542DA/TA の場合 512KB</li> <li>• ZM-542D/T の場合 128KB</li> </ul>
SRAM カセット	「ZM-43SM」 : 512KB (ZM-43のみ)	なし
画面転送	<ul style="list-style-type: none"> <li>• MJ1 : 弊社製画面転送ケーブル 「ZM-80C」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• MJ1 の場合 弊社製画面転送ケーブル「ZM-80C」</li> <li>• USB-B の場合 市販 USB ケーブル</li> <li>• LAN ポートの場合 (ZM-542DA/TA のみ) Ethernet 転送</li> </ul>
PLC 接続	CN1 : Dsub25 ピン (凹) ミリネジ	<ul style="list-style-type: none"> <li>• ZM-540 のみ MJ2 : モジュラー 8 ピン</li> </ul> <p>* ZM-42 ~ 82 用のケーブルを利用する場合は、弊社製変換ケーブル「ZM-340CC」(0.3m)を使用。ただし、三菱 A/QnA CPU 直結の場合は利用できません。別途「受注生産品 ACPU-□M」ケーブルを使用 (MJ2 と MJ1 の両方を使用)。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• ZM-540+「ZM-540DU」 CN1 : Dsub9 ピン (凹) インチネジ</li> </ul> <p>* ZM-42 ~ 82 用のケーブルを利用する場合は、弊社製変換ケーブル「ZM-500CC」(0.3m)を使用</p>
温調 /PLC2Way 接続	MJ1/MJ2 : モジュラー 8 ピン	MJ1/MJ2 : モジュラー 8 ピン

項目	ZM-42/43	ZM-540
ターミナルコンバータ	ZM-1TC Y 端子	ZM-2TC (ZM-540+「ZM-540DU」時のみ) 棒端子
プリンタポート	<ul style="list-style-type: none"> <li>• パラレル接続 (PRINTER ポート) セントロニクスハーフピッチ 36 ピン</li> <li>• シリアル接続 (MJ1/MJ2) モジュラーコネクタ 8 ピン</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• パラレル接続 なし</li> <li>• シリアル接続 (MJ1/MJ2) モジュラーコネクタ 8 ピン</li> <li>• USB 接続 USB-A ポート (PictBridge 対応プリンタに変更すると、USB-B ポートでの接続も可能)</li> </ul>
プリンタケーブル	<ul style="list-style-type: none"> <li>• パラレル接続 弊社製 ZM-42 ~ 82 専用ケーブル「ZM-80PC」</li> <li>• シリアル接続 「受注生産品 TMP」で作成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• パラレル接続 なし ただし、「ZM-80PC」の代わりに、市販 USB パラレル変換ケーブル (ELECOM : UC-PGT) を使うことで置換可能</li> <li>• シリアル接続 「受注生産品 TMP」で作成</li> </ul>
バーコードリーダ接続	<ul style="list-style-type: none"> <li>• シリアル接続 (MJ1/MJ2) モジュラーコネクタ 8 ピン</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• シリアル接続 (MJ1/MJ2) モジュラーコネクタ 8 ピン</li> <li>• USB 接続 USB-A ポート (USB-HID 準拠タイプのバーコードに変更すると、USB 接続が可能)</li> </ul>
保護シート	「ZM-42GS」	「ZM-540GS」
メモリカード機能	カードレコーダ「ZM-1REC」	カードレコーダ「ZM-1REC」 または USB CF カードリーダライタ (USB-A ポートに接続)
カードレコーダ	<ul style="list-style-type: none"> <li>• ZM-1REC</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• ZM-1REC</li> <li>• USB CF カードリーダライタ (USB-A ポートに接続)</li> </ul>

## ZM-62E → ZM-562T/TA

項目	ZM-62E	ZM-562T/TA
表示デバイス	高輝度 EL	TFT カラー
表示色	● 2色（黒色 / 黄橙色） + プリント	● 65,536 色（プリントなし） ● 32,768 色（プリントあり） ● 128 色（プリント 16 色）
有効表示領域	8.9 インチ	8.4 インチ
パネルカット寸法 （単位：mm）	277W × 192H	220.5W × 165.5H  * 弊社製パネルアダプタ「受注生産品 PAD-01」を使用 <sup>*1</sup>
表示分解能（W × H）	640 × 400 ドット	640 × 480 ドット <sup>*2</sup>
タッチスイッチ方式	マトリックス	アナログ  * マトリックス対応品に置き換える場合は、ZM-573TL を使用。パネルカットを大きくする必要あり。弊社製パネルアダプタ「受注生産品 PAD002」を使うと、パネルカットはそのままでも取付可能。ただし従来よりも奥行きが必要となります。
電源仕様	● AC 電源 ● DC 電源	DC 電源のみ  * AC 電源タイプを置き換える場合は、弊社製 AC 電源ユニット「受注生産品 PW」を使用
取付角度	0 ~ 135°	15 ~ 135°
FROM	約 760KB （フォントにより増加あり）	● ZM-562TA の場合 約 12.5MB（フォントにより増加あり） ● ZM-562T の場合 約 4.5MB（フォントにより増加あり）
内蔵 SRAM	8KB	● ZM-562TA の場合 512KB ● ZM-562T の場合 128KB
画面転送	● MJ1 : 弊社製画面転送ケーブル「ZM-80C」	● MJ1 の場合 弊社製画面転送ケーブル「ZM-80C」 ● USB-B の場合 市販 USB ケーブル ● LAN ポートの場合（ZM-562TA のみ） Ethernet 転送
PLC 接続	CN1 : Dsub25 ピン（凹） ミリネジ	CN1 : Dsub9 ピン（凹） インチネジ  * ZM-42 ~ 82 用のケーブルを利用する場合は、弊社製変換ケーブル「ZM-500CC」（0.3m）を使用
温調 / PLC2Way 接続	MJ1/MJ2 : モジュラー 8 ピン	MJ1/MJ2 : モジュラー 8 ピン
ターミナルコンバータ （CN1 用）	—	ZM-2TC 棒端子



項目	ZM-62E	ZM-562T/TA
プリンタポート	<ul style="list-style-type: none"> <li>• パラレル接続 (PRINTER ポート) セントロニクスハーフピッチ 36 ピン</li> <li>• シリアル接続 (MJ1/MJ2) モジュラーコネクタ 8 ピン</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• パラレル接続 なし</li> <li>• シリアル接続 (MJ1/MJ2) モジュラーコネクタ 8 ピン</li> <li>• USB 接続 USB-A ポート (PictBridge 対応プリンタに変更すると、USB-B ポートでの接続も可能)</li> </ul>
プリンタケーブル	<ul style="list-style-type: none"> <li>• パラレル接続 弊社製 ZM-42 ~ 82 専用ケーブル「ZM-80PC」</li> <li>• シリアル接続 「受注生産品 TMP」で作成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• パラレル接続 なし ただし、「ZM-80PC」の代わりに、市販 USB パラレル変換ケーブル (ELECOM : UC-PGT) を使うことで置換可能</li> <li>• シリアル接続 「受注生産品 TMP」で作成</li> </ul>
バーコードリーダー接続	<ul style="list-style-type: none"> <li>• シリアル接続 (MJ1/MJ2) モジュラーコネクタ 8 ピン</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• シリアル接続 (MJ1/MJ2) モジュラーコネクタ 8 ピン</li> <li>• USB 接続 USB-A ポート (USB-HID 準拠タイプのバーコードに変更すると、USB 接続が可能)</li> </ul>
保護シート	「0JUGSSHETZ61E」	「ZM-560GS」
防水保護カバー	「0JUWPSHETZ61E」	不要
メモリカード機能	カードレコーダ「ZM-1REC」	カードレコーダ「ZM-1REC」 または USB CF カードリーダーライタ (USB-A ポートに接続)
カードレコーダ	<ul style="list-style-type: none"> <li>• ZM-1REC</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• ZM-1REC</li> <li>• USB CF カードリーダーライタ (USB-A ポートに接続)</li> </ul>

\*1 パネルアダプタ装着時、フロントパネルは IP65 準拠の保護構造は保てません。

\*2 解像度が異なるため、自動的に ZM-62E の画面を ZM-562T/TA の画面の中央に表示させる機能に対応していません。詳しくは P 2-29 を参照してください。

**ZM-52HD → ZM-552HA**

項目	ZM-52HD	ZM-552HA
表示デバイス	STN カラー	TFT カラー
表示色	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 128 色（プリンク 16 色）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 65,536 色（プリンクなし）</li> <li>• 32,768 色（プリンクあり）</li> <li>• 128 色（プリンク 16 色）</li> </ul>
有効表示領域	7.7 インチ	8.4 インチ
表示分解能（W × H）	640 × 480 ドット	640 × 480 ドット
タッチスイッチ方式	アナログ	アナログ
FROM	約 2.8MB （フォントにより増加あり）	約 12.5MB（フォントにより増加あり）
内蔵 SRAM	なし	512KB
画面転送	<ul style="list-style-type: none"> <li>• MJ1： 弊社製画面転送ケーブル 「ZM-80C」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• USB-B の場合 市販 USB ケーブル</li> <li>• LAN ポートの場合 Ethernet 転送</li> </ul>
PLC 接続	端子台 TB1： （RS-232C/RS-422/RS-485）	端子台 TB2：RS-232C TB3：RS-422/485
バーコードリーダー接続	<ul style="list-style-type: none"> <li>• シリアル接続（MJ1） モジュラーコネクタ 8 ピン</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 端子台 TB2：RS-232C</li> </ul>
保護シート	「受注生産品 608-GSN10」	「受注生産品 608-GSN10」で代用可能
ケーブル	「受注生産品」	「受注生産品 C」
取付金具	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 壁掛け用金具 「受注生産品 WF」</li> <li>• 壁掛け用金具・壁側のみ 「受注生産品 WF1」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 壁掛け用金具 「受注生産品 WF」</li> <li>• 壁掛け用金具・壁側のみ 「受注生産品 WF1」</li> </ul>
スタンド	「受注生産品」	「受注生産品 ST」

## ハードウェアに関する注意

### 取り付け時の注意

#### 取付金具の締めつけトルク値

ZM-42 ~ 82	トルク値 (N・m)	ZM-500	トルク値 (N・m)
ZM-82	0.5 ~ 0.7	ZM-580	0.5 ~ 0.7
ZM-72	0.5 ~ 0.7	ZM-570	0.5 ~ 0.7
ZM-52D	0.3 ~ 0.5	ZM-562T/TA	0.5 ~ 0.7
ZM-42/43	0.3 ~ 0.5	ZM-540	0.5 ~ 0.7

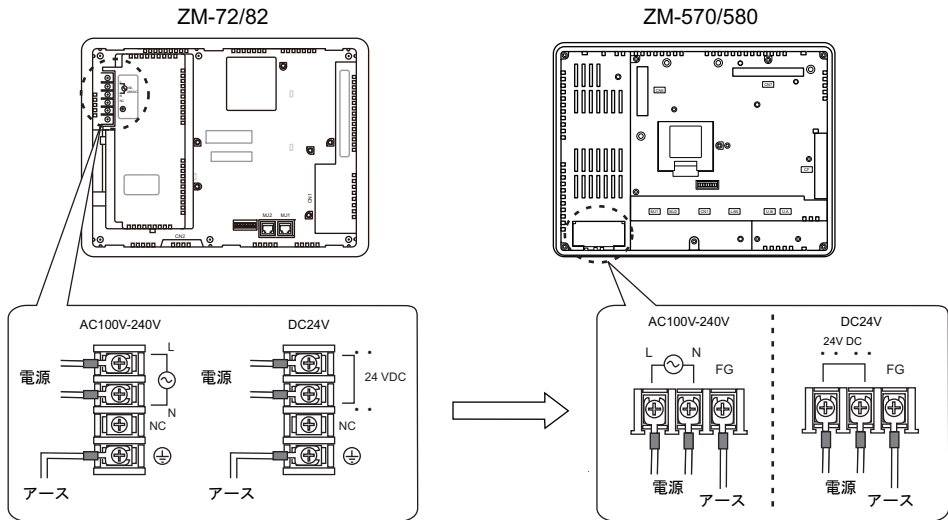
(ZM-42 ~ 82  
と同じ)

(ZM-42 ~ 82  
と同じ)

#### 電源端子の位置

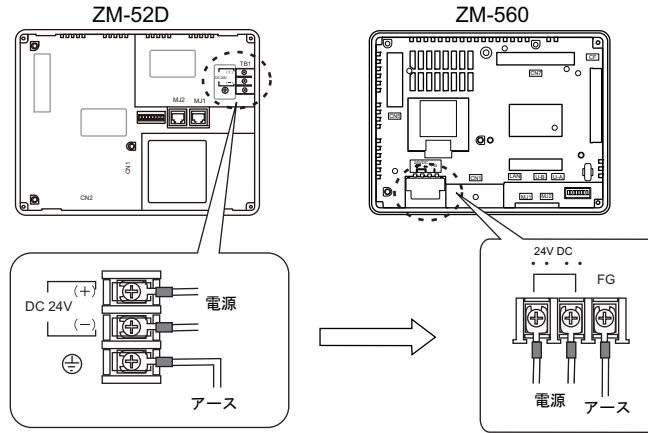
置き換え時に電源端子に注意が必要な機種は、以下のとおりです。

- 12/10 インチ  
電源端子部の端子の位置と並びが、ZM-42 ~ 82 と ZM-500 で異なります。



• 8 インチ

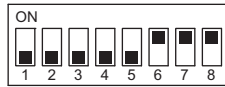
電源端子部の端子の位置と並びが、ZM-42 ~ 82 と ZM-500 で異なります。



## ディップスイッチ

ZM-42 ~ 82 と ZM-500 で、ディップスイッチの内容が異なります。

ZM-42~82 (工場出荷時)



ZM-560~590 (工場出荷時)



ZM-540 (工場出荷時)



DIP SW No.	内容		
	ZM-42 ~ 82	ZM-560 ~ 590	ZM-540
1	メモリ増設 2 (ZM-42 は対象外)	CF 自動アップロード	MJ1 (モジュージャック 1) 終端抵抗
2	未使用	CF カバーアクセス制御	MJ2 (モジュージャック 2) SD 終端抵抗
3	未使用	未使用	MJ2 (モジュージャック 2) RD 終端抵抗
4	未使用	未使用	CF 自動アップロード
5	未使用	CN1 3、4 ピン間の +SD/-SD 終端抵抗	—
6	MJ1 (モジュージャック 1) 終端抵抗	MJ1 (モジュージャック 1) 終端抵抗	—
7	CN1 24、25 ピン間の +RD/-RD 終端抵抗	CN1 1、2 ピン間の +RD/-RD 終端抵抗	—
8	MJ2 (モジュージャック 2) 終端抵抗 *1	MJ2 (モジュージャック 2) 終端抵抗	—

\*1 ハードバージョンが小文字のアルファベットの場合 (大文字のアルファベットの場合：未使用)

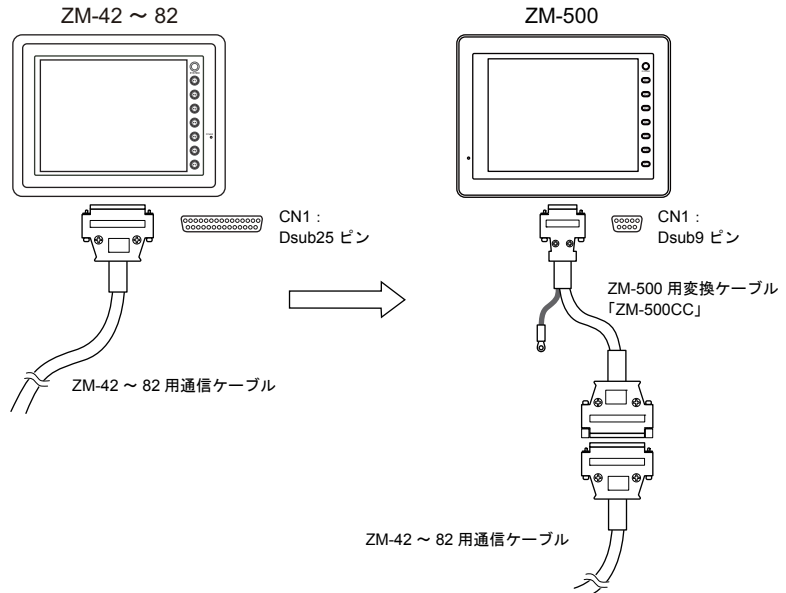
## 接続時の注意

### Dsub コネクタの違い

ZM-42 ~ 82 シリーズの CN1 は、Dsub25 ピンのコネクタです。  
ZM-500 シリーズの CN1 は、Dsub9 ピンのコネクタに替わります。  
このため、置き換え時には、変換ケーブル「ZM-500CC」(0.3m) または ZM-500 用ターミナルコンバータ「ZM-2TC」(端子台) をご用意ください。

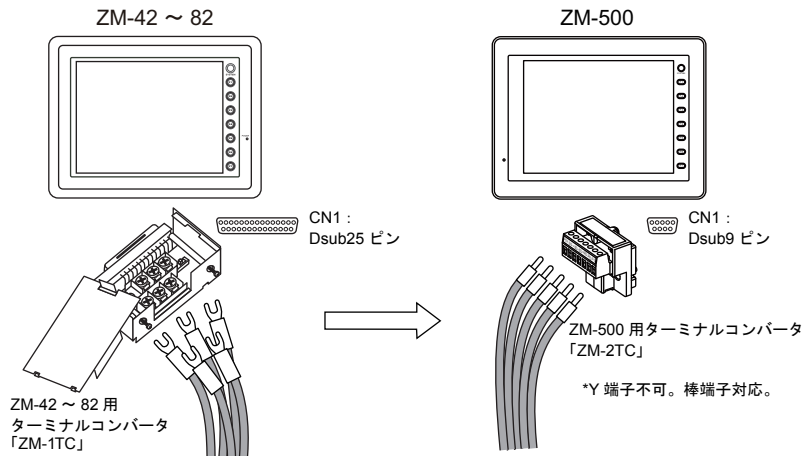
- 変換ケーブル

ZM-42 ~ 82 用通信ケーブルを流用するためには、「ZM-500CC」使用してください。



- ターミナルコンバータ

ZM-42 ~ 82 にて、「ZM-1TC」を使用して端子台接続していた場合は、ZM-500 では「ZM-2TC」を使用してください。ただし、端子台の構造が異なるため、ケーブルの先端の処理は変更が必要です。

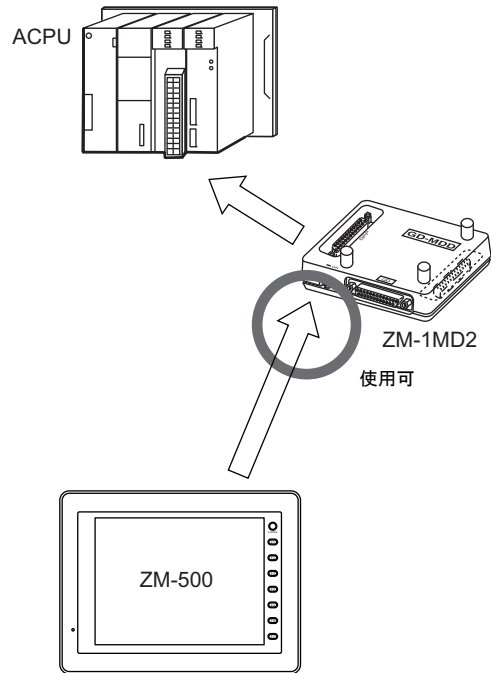


### 三菱電機 A シリーズ CPU との通信時

---

ZM-42 ~ 82 シリーズで、A シリーズ CPU との通信時、2 ポートアダプタとして、「ZM-1MD2」を使用することが可能です。

ZM-500 シリーズの場合、「ZM-1MD2」に置き換えてください。



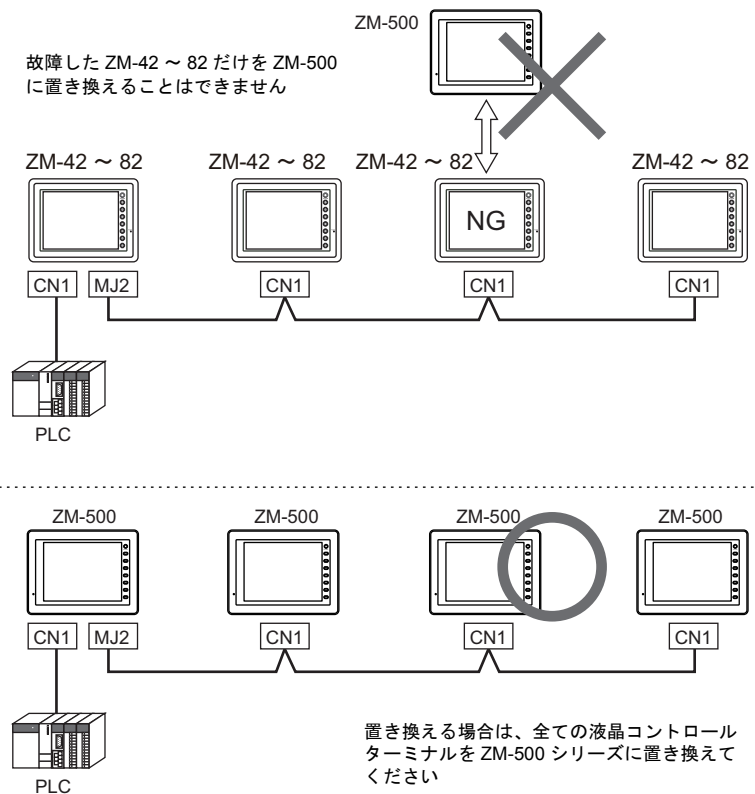
## 「マルチリンク 2」での通信時

\* 「マルチリンク 2」では、ZM-500 と ZM-42 ~ 82/300 の混在ができる PLC 機種とできない PLC 機種があります。

混在できる PLC 機種の場合、[システム設定] → [接続機器設定] → [細かい設定]において、[マルチリンク 2 ZM-3/ZM\*2 混在] の設定が有効です。チェックありで混在が可能です。(混在できる PLC 機種の場合、変換時に自動的にチェックありになります。)

「マルチリンク 2」を使って、複数台の ZM-42 ~ 82 を 1 台の PLC と通信させている状態で、1 台の ZM-42 ~ 82 が故障した場合、1 台だけを ZM-500 に置き換えることは、できない場合があります。

できない場合、「マルチリンク 2」で使用している ZM-42 ~ 82 および ZM-300 を、全て ZM-500 に置き換えてください。



\* 「マルチリンク」の場合は、ZM-500 と ZM-42 ~ 82/300 は混在可能です。従って、1 台だけを ZM-500 に置き換えることが可能です。

## FROM カセット

ZM-500 では FROM カセットは存在しませんが、ZM-42 ~ 82 に比べると、本体自体の FROM の容量が増えているので、カセットがない状態でも置換は可能です。  
詳しくは、下表を参照してください。

(○：あり、×：なし、－：未対応)

本体型式		組み合わせ			FROM 容量合計
		本体	ZM-4EM (4MB)	ZM-43EM (4MB)	
ZM-42 ~ 82 シリーズ	ZM-82	○	×	－	約 2.8MB <sup>*1</sup>
	ZM-72 ZM-52	○	○	－	約 6.8MB <sup>*1</sup>
	ZM-43	○	－	×	約 760KB
		○	－	○	約 4.8MB
	ZM-42	○	－	－	約 760KB
	ZM-62E	○	－	－	約 760KB
	ZM-52HD	○	－	－	約 2.8MB
ZM-500 シリーズ	ZM-590 ZM-580 ZM-57**A ZM-562SA	○	－	－	約 12.5MB
	ZM-562TA ZM-552HA	○	－	－	約 12.5MB
	ZM-57*TL ZM-562T	○	－	－	約 4.5MB
	ZM-542TA/DA	○	－	－	約 4.5MB

\*1 ハードバージョンによって、FROM の容量が異なります。  
詳しくは『ZM-42 ~ 82 ユーザーズマニュアル』を参照してください。



## SRAM カセット

ZM-500 では SRAM カセットは存在しませんが、本体自体の SRAM の容量が増えているので、カセットがない状態でも置換は可能です。  
詳しくは、下表を参照してください。

(○：あり、×：なし、－：未対応)

本体型式		組み合わせ			SRAM 容量
		本体	ZM-80SM (512KB)	ZM-43SM (512KB)	
ZM-42 ~ 82 シリーズ	ZM-82	×	×	－	なし
	ZM-72 ZM-52	×	○	－	512KB
	ZM-43	×	－	×	なし
		×	－	○	512KB
	ZM-42	×	－	－	なし
	ZM-62E	○	－	－	8KB
ZM-52HD	×	－	－	なし	
ZM-500 シリーズ	ZM-590 ZM-580 ZM-57**A ZM-562SA	○	－	－	512KB
	ZM-562TA ZM-552HA	○	－	－	512KB
	ZM-57*TL ZM-562T	○	－	－	128KB
	ZM-542TA/DA	○	－	－	512KB
	ZM-542T/D	○	－	－	128KB

## ビデオ表示機能

### 色について

ZM-42 ~ 82 と ZM-500 では、ハードウェアの構造に違いがあるため、ビデオ表示した際の表示色が多少異なります。

	ZM-42 ~ 82	受注生産品 00/10 (ZM-500 (高機能品))
色の数	260,000 色	ZM-570/580/590 : 16,777,216 色 (モノクロ 256 階調)  ZM-562SA : 262,144 色 (モノクロ 64 階調)

ビデオの画質調整を、マクロ (コマンド名 : Video) で行っている場合、同じ値であっても、表示色が異なります。デフォルト値は以下になります。

項目		デフォルト	
		ZM-42 ~ 82	ZM-500
輝度	ZM-42 ~ 82 : 0 (暗) - 255 (明) ZM-500 : 0 (暗) - 31 (明)	171	16
コントラスト	ZM-42 ~ 82 : 0 (弱) - 255 (強) ZM-500 : 0 (弱) - 31 (強)	24	16
色の濃さ	ZM-42 ~ 82 : 0 (淡) - 255 (濃) ZM-500 : 0 (淡) - 31 (濃)	44	16

\* ZM-42 ~ 82 シリーズから ZM-500 シリーズに置き換えてビデオ表示する場合は、必ず ZM-500 シリーズ上で画質の状態を確認・調整後、ご使用ください。

### ビデオ表示スピード

ZM-42 ~ 82 と ZM-500 では表示スピードがほぼ同じです。

表示サイズ	表示コマ数 (ベース画面 1CH 表示)	
	ZM-42 ~ 82	ZM-500 (高機能品)
640 × 480	約 30 コマ / 1 秒	約 30 コマ / 1 秒
640 × 240		
320 × 240		
160 × 120		

## RGB 入力機能

ZM-42 ~ 82 と ZM-500 では、ハードウェアの構造に違いがあるため、RGB 入力の際の表示色が多少異なります。

	ZM-42 ~ 82	受注生産品 01 (ZM-500 (高機能品))	受注生産品 10/11 (ZM-500 (高機能品))
色の数	262,144 色	65,536 色	ZM-570/580/590 : 16,777,216 色 (モノクロ 256 階調)  ZM-562SA : 262,144 色 (モノクロ 64 階調)

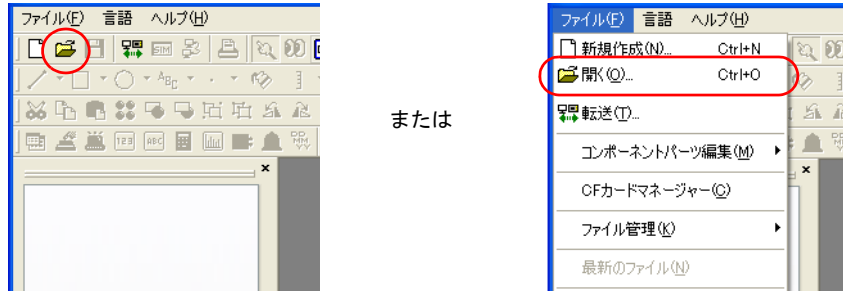
## 2.3 ソフト（設定・機能）の互換性

### 画面データファイルの変換方法

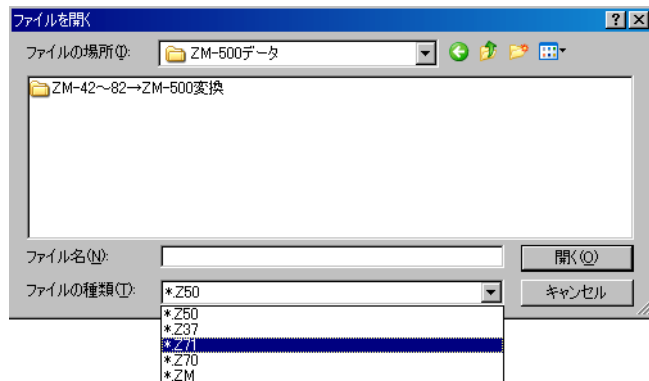
#### ZM-42 ~ 82（ZM-62E を除く） → ZM-500 の場合

以下の手順でファイルを変換します。

1. ZM-71S を起動し、[開く] アイコン、または [ファイル] の [開く] をクリックします。

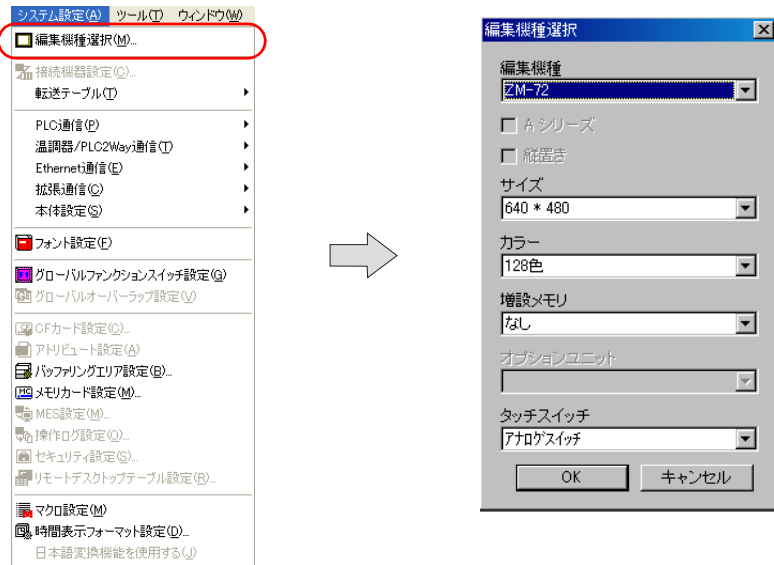


2. [ファイルを開く] ダイアログが表示されます。[ファイルの種類] を [\*.\*Z71] に変更します。

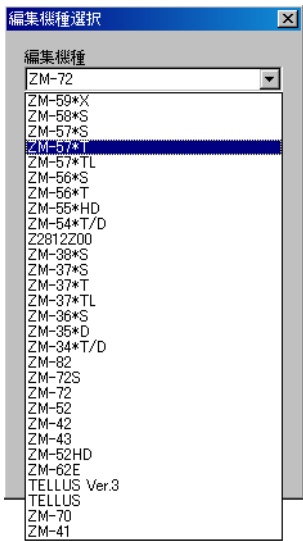


3. 変換する ZM-42 ~ 82 シリーズの画面データファイルを指定し、[開く] をクリックします。ZM-42 ~ 82 シリーズの画面データファイルが開きます。

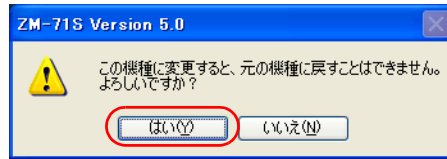
4. [システム設定] の [編集機種選択] をクリックします。[編集機種] ダイアログが表示されます。



5. 変換後の ZM-500 シリーズの機種を選択し、[OK] をクリックします。



6. 以下のようなダイアログが表示されます。[はい] をクリックします。

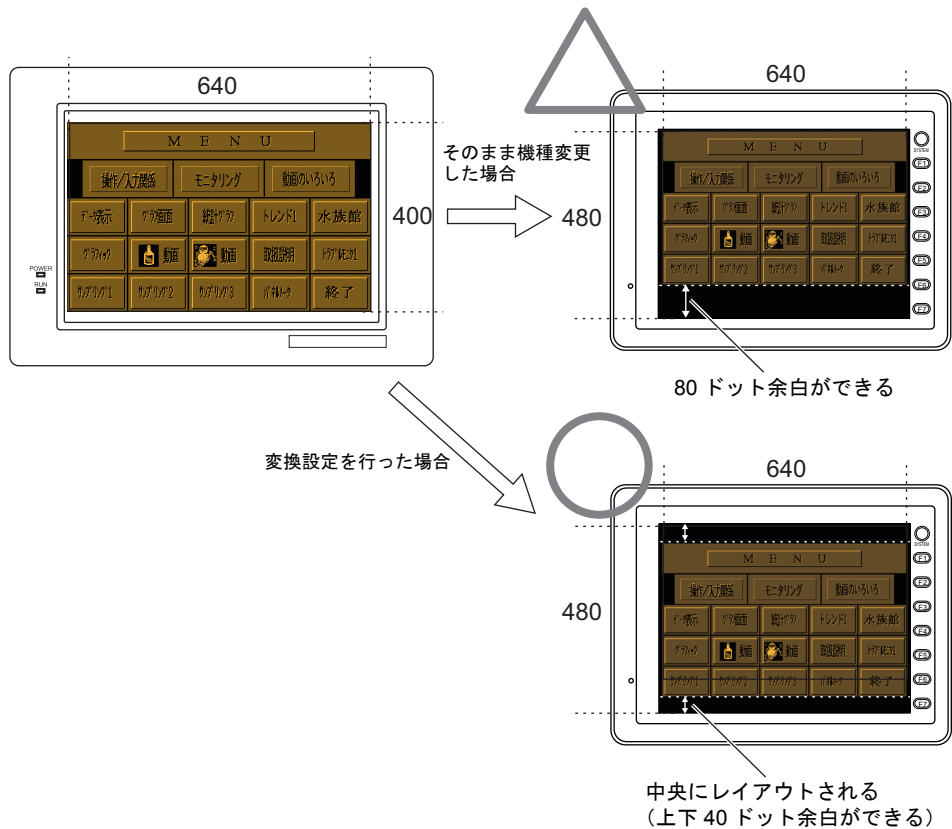


- \* ZM-42 ~ 82 データを ZM-500 データに変換すると、ZM-42 ~ 82 データに戻すことはできません。ご注意ください。

7. エディタ上に ZM-500 シリーズ用に変換された画面データファイルが表示されます。名前を付けて保存します。

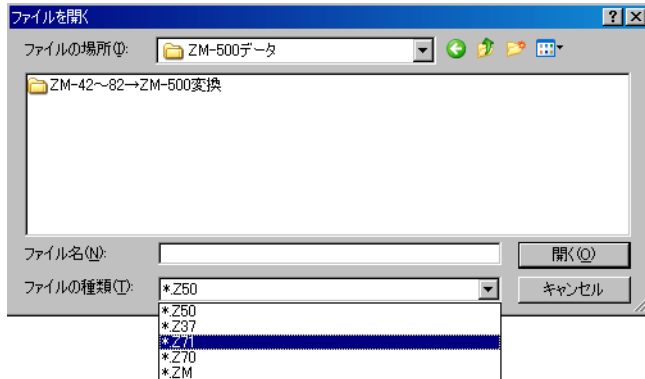
## ZM-62E → ZM-562T/TA の場合（128 色のみ有効）

ZM-62E の画面データを ZM-562T/TA の画面データに変換する場合、解像度が異なるため、画面のサイズやレイアウトが崩れる可能性があります。そこで解像度をそのままに、ZM-562T/TA の中央にレイアウトする変換手順を用意しています。（ただし [カラー] が [128 色] の場合のみ有効な手順です。）

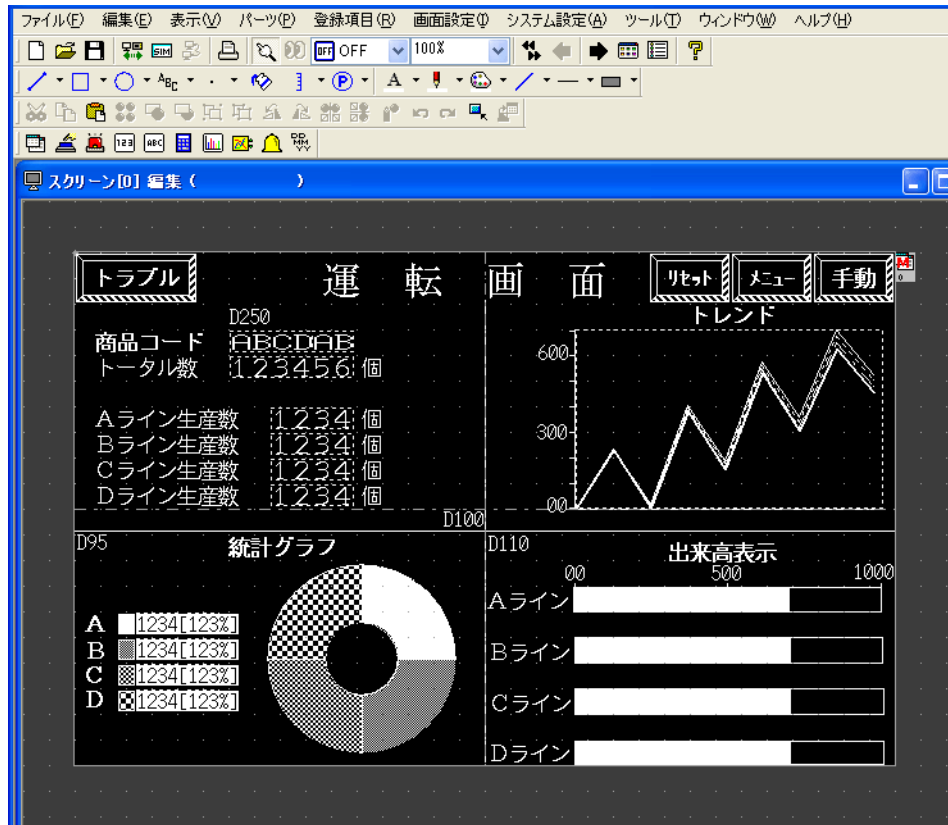


以下の手順でファイルを変換します。

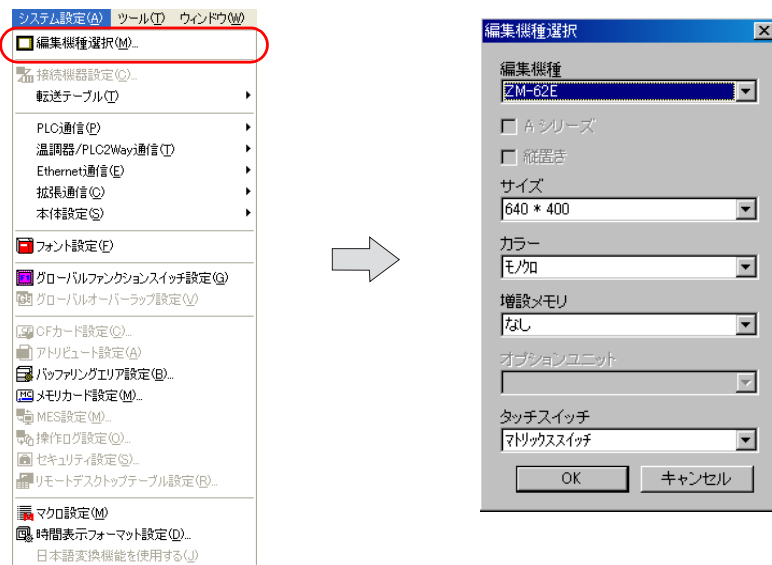
1. ZM-71S を起動し、[開く] アイコン、または [ファイル] の [開く] をクリックします。
2. [ファイルを開く] ダイアログが表示されます。[ファイルの種類] を [\*Z71] に変更します。



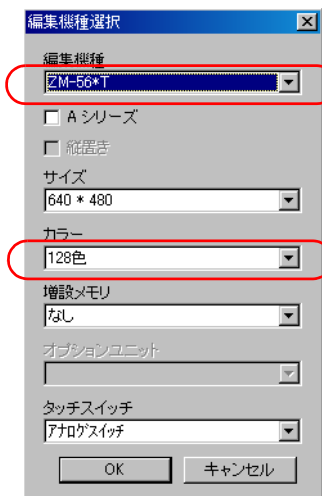
3. 変換する ZM-62E の画面データファイルを指定し、[開く] をクリックします。ZM-62E の画面データファイルが開きます。



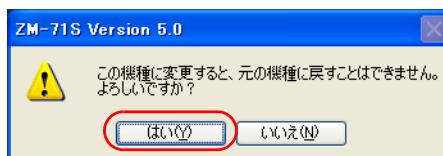
4. [システム設定] の [編集機種選択] をクリックします。[編集機種] ダイアログが表示されます。



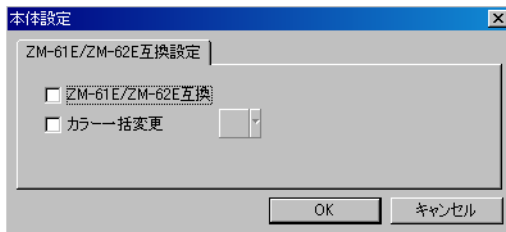
5. [ZM-56\*T] を選択し、必ず [カラー : 128 色] を選択し、[OK] をクリックします。



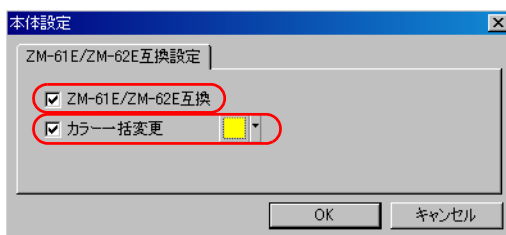
6. 以下のようなダイアログが表示されます。[はい] をクリックします。



7. 以下のようなダイアログが表示されます。

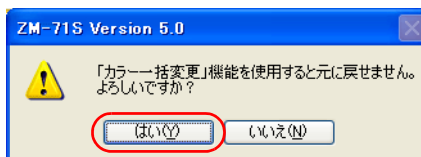


8. [  ZM-61E/ZM-62E 互換 ] にチェックを入れます。  
また、[  カラー一括変更 ] にチェックを入れると、ZM-62E のように、2 色の画面  
に変換できます。

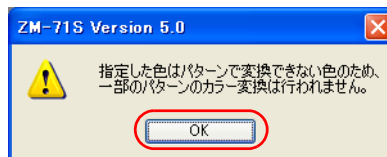


\* ZM-62E でプリンク設定を使っている場合、選択するカラーは基本の 16 色の中から  
選んでください。プリンク色が選んだ色とは異なる色で表示されます。

9. [OK] をクリックします。以下のようなダイアログが表示されます。[はい] をク  
リックします。

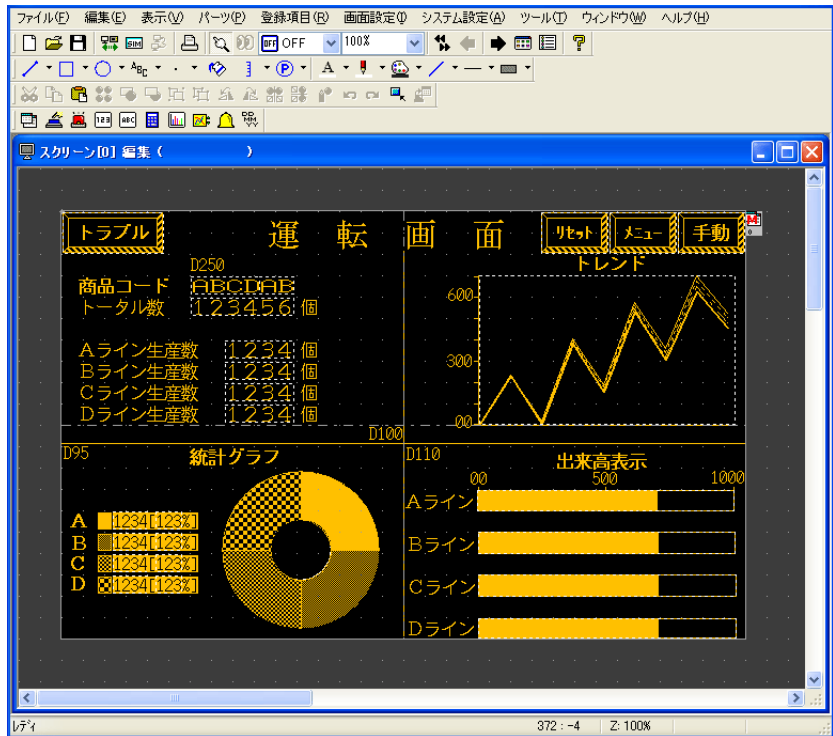


\* パターンを使っている画面データを変換した場合、以下のようなメッセージが出ま  
す。この場合、パターンの色はそのまま残ることになります。  
[OK] をクリックします。





10. 画面が、8. で選択したカラーと黒色の2色表示になって、変換されます。



\* ZM-62E データを ZM-56\*T データに変換すると、ZM-62E データに戻すことはできません。ご注意ください。

11. エディタ上に ZM-56\*T 用に変換された画面データファイルが表示されます。名前を付けて保存します。

\* ZM-62E からの変換データにおいて、スイッチ/ランプの描画モードが [XOR] のパーツの場合、エディタ上で ON 表示させると、スイッチ/ランプ上の文字列が見えなくなります。このデータを本体に転送すると、本体上では反転表示されて、ZM-62E と同様に正しく文字が表示されます。

## スイッチ

### [ディレイ] 設定

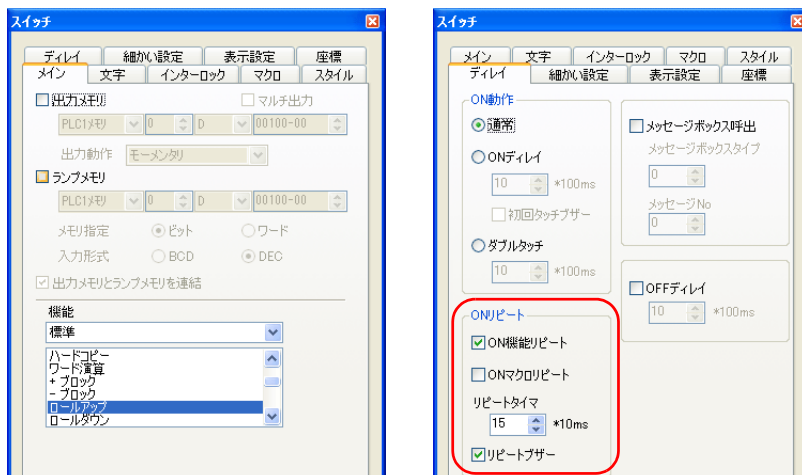
一部のスイッチに関しては、互換を保つために、ZM-500 に対応した機能「ON リピート機能」と「ダブルタッチ機能」を、自動的に設定ありで変換します。

#### 対象スイッチ一覧

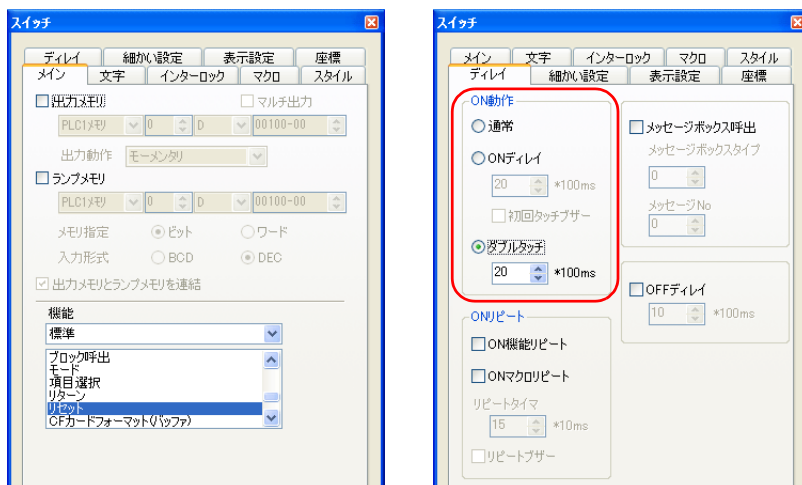
ZM-42 ~ 82		ZM-500		
スイッチ機能		スイッチ機能	ディレイ設定	
標準	ロールアップ	ロールアップ	ON リピート機能 (150ms)	
	ロールダウン	ロールダウン		
入力	文字入力	文字入力		
	スペース	スペース		
	バックスペース	バックスペース		
	DELETE	DELETE		
	+1	+1		
	-1	-1		
	←	←		
	→	→		
	↑	↑		
↓	↓			
表形式データ	カーソル移動右	カーソル移動右		
	カーソル移動左	カーソル移動左		
デジスイッチ	デジスイッチ +	デジスイッチ +		
	デジスイッチ -	デジスイッチ -		
標準	リセット	リセット		ダブルタッチ機能 (2s)

## 変換例

- [機能：ローラアップ] スイッチの場合



- [機能：リセット] スイッチの場合



## [機能：カードフォーマット] スイッチについて

スイッチの [機能] において、[メモリカード：カードフォーマット] というスイッチがあります。

このスイッチは、ZM-42 ~ 82 の場合、SRAM カセット /SRAM メモリカードのどちらでも、SRAM の設定をフォーマットするためのスイッチとして、使用します。

ZM-500 の場合は、SRAM メモリカードの場合のみ、使用します。

ZM-500 では、内蔵 SRAM については、このスイッチが無効となります。

(スイッチを押しても、「ピピピッ」とエラー音がなって、受け付けません。)

SRAM のフォーマットについて、詳しくは P 2-38 「SRAM フォーマット」を参照してください。

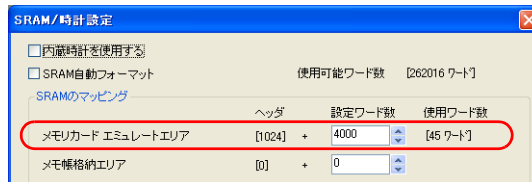
## サンプリング

### 格納先

ZM-42 ~ 82 の [バッファリングエリア設定] の [格納先] の設定によって、ZM-500 での [格納先] が変わります。詳しくは下表を参照してください。

ZM-42 ~ 82		ZM-500		
格納先	その他の設定	一次格納先	二次格納先	その他 注意点
内部バッファ	—	DRAM	なし	—
SRAM	SRAM カセット	SRAM	なし	エミュレートエリア ([SRAM/時計設定]) において、[サンプリング一次格納先] の他に、[エミュレートエリア] も自動的に何ワードか設定が割り当てられます。 <sup>*1</sup>
				エミュレートエリア ([SRAM/時計設定]) において、[サンプリング一次格納先] のみ、自動的に割り当てられます。
	SRAM カード ZM-1REC + SRAM カード	DRAM	メモリカード	[接続機器設定] の [その他] において、[□カードレコーダを使用する] にチェックが入ります。

<sup>\*1</sup> 変換後のエミュレートエリアは、以下のように、何ワードか自動的に割り当てられます。ZM-500 では [使用ワード数] が確保できればよいので、手動で、[使用ワード数] (例では [45 ワード]) に [設定ワード数] を合わせてください。



### サンプリング回数

#### 一次格納先

詳しくは下表を参照してください。

ZM-42 ~ 82		ZM-500	
格納先	その他の設定	一次格納先	サンプリング回数 (一次格納先)
内部バッファ	—	DRAM	ZM-42 ~ 82 [サンプリング回数] と同じ
SRAM	SRAM カセット	SRAM	ZM-42 ~ 82 [サンプリング回数] と同じ
	SRAM カード ZM-1REC + SRAM カード	DRAM	<ul style="list-style-type: none"> <li>ビット同期 / 定時サンプル / 転送テーブル 256 ワード ÷ (2 ワード + ワード数)</li> <li>ビットサンプル 256 ワード ÷ 3 ワード</li> <li>リレーサンプル なし</li> <li>アラーム機能 {256 ワード - (6 ワード × サンプルビット数) - 7 ワード} ÷ 5 ワード</li> </ul>

## 二次格納先

ZM-42 ~ 82		ZM-500	
格納先	その他の設定	二次格納先	サンプリング回数（一次格納先）
SRAM	SRAM カード ZM-1REC + SRAM カード	メモ리카ード	ZM-42 ~ 82 [サンプリング回数] と 同じ

## SRAM

### SRAM カセットの場合

#### SRAM/ 時計設定

SRAM の内容が一部異なります。詳しくは下表を参照してください。

ZM-42 ~ 82	ZM-500	備考
メモ리카ード エミュレートエリア	メモ리카ード エミュレートエリア	ZM-42 ~ 82 の場合： SRAM カセットを使う場合に必ず設定。  ZM-500 の場合： SRAM メモ리카ードを使う場合のみ、必要ワード 数を確保。内蔵 SRAM でサンプリングとして使う 分は、後述の「サンプリング一次格納先」で確保。
メモ帳格納エリア	←同左	—
不揮発性メモリ (ワード) (\$L)	←同左	—
不揮発性メモリ (ダブルワード) (\$LD)	←同左	—

## SRAM フォーマット

ZM-42 ~ 82 の場合と ZM-500 の場合で、SRAM フォーマットの手順が異なります。詳しくは下表を参照してください。

	ZM-42 ~ 82 (SRAM カセット)	ZM-500 (内蔵 SRAM)
手順 1	<ul style="list-style-type: none"> <li>バッファリングエリア設定 [格納先 : SRAM] に設定</li> <li>SRAM/ 時計設定 [エミュレートエリア] を設定</li> <li>[メモリカード] アイテムと [カードフォーマット] スイッチを画面上に配置</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>バッファリングエリア設定 [一次格納先 : SRAM]</li> <li>SRAM/ 時計設定 [サンプリング二次格納先] が確保される</li> <li>カードフォーマットスイッチ 不要</li> </ul>
手順 2	本体に画面データを転送します。	←同左
手順 3	本体上に「データにエラーがあります No. 161 (24 : )」が表示されます。 [ローカルメイン] 画面で、SRAM の 1 回目のフォーマットを行います。	本体上に「データにエラーがあります No. 161 (24 : )」が表示されます。 [メイン] 画面で、SRAM のフォーマット (*) を行います。
手順 4	本体を RUN 状態にします。 次に、「手順 1」の [カードフォーマット] スイッチを押して、2 回目のフォーマットを行います。	本体を RUN 状態にします。 [カードフォーマット] スイッチは不要です。 これで内蔵 SRAM は使用可能です。

\* ZM-500 の内蔵 SRAM を自動フォーマットすることができます。  
[SRAM/ 時計設定] において、[ SRAM 自動フォーマット] にチェックを入れると、「手順 3」のエラーは出なくなり、[メイン] 画面上の手動での SRAM フォーマット作業が不要になります。  
また、新品の ZM-500 に画面データを転送する際、上記の設定だけでは「手順 3」のエラーが消えません。その場合、[システム設定] → [本体設定] → [環境設定] において、[ SRAM を強制的にフォーマットする] にチェックを入れてください。

## SRAM カード（市販メモリカード）の場合

### SRAM フォーマット

---

フォーマットの手順に違いはありません。

### SRAM カード（データロギング）を ZM-500 用に置き換える方法

---

ZM-42 ~ 82 で保存したデータロギングデータは ZM-500 で表示できません。PC でバックアップを取った上で、カードフォーマット後に ZM-500 で新たにデータロギングを実行してください。

ZM-500 の RUN 画面上で、[機能：カードフォーマット] スイッチを押すことで、SRAM カードへのデータロギングが可能です。

- \* フォーマットしない場合、一次格納先（＝DRAM）に設定されている回数分であれば、そのままデータロギングが実行できます。  
フォーマットした時点から、二次格納先（＝メモリカード）へのデータロギングが実行できます。

## 通信設定

### 8Way への変換

ZM-42 ~ 82 シリーズを ZM-500 シリーズに変換する際、通信の種類によって、自動的に ZM-500 シリーズの 8Way (PLC1 ~ PLC8) に変換されます。詳しくは下表を参照してください。

ZM-42 ~ 82	ZM-500
PLC	PLC1
温調 / PLC2Way ネットワーク	PLC2
MODBUS スレーブ	PLC3
ZM-Link	PLC3
バーコードリーダー	PLC4

### 文字処理について

ZM-42 ~ 82 シリーズでは、[文字処理] (LSB/MSB) は、[通信パラメータ] で一括で設定しました。ZM-500 シリーズでは、各文字列表示等で、個別に設定できますが、ZM-42 ~ 82 シリーズから変換した場合は、[PLC1] で設定された [文字処理] が一括で反映されます。

対象となるアイテムは以下のとおりです。

文字列表示 (各種ライブラリ上 / データサンプリング上等含む)
MR-400 フォーマットテーブル

- \* [接続機器] が [バーコード] で [I/F メモリ] が PLC メモリになっている場合、ファイル変換直後は、必ず [LSB → MSB] で動きます。  
ZM-42 ~ 82 の際、[MSB → LSB] で動かしていた場合は、[システム設定] → [接続機器設定] → [通信設定] において、[口格納順] にチェックし、[MSB → LSB] を選んでください。



## 内部メモリ

### \$s (システムメモリ)

\$s メモリにおいて、一部、互換がないアドレスがあります。  
詳しくは、以下のとおりです。

- \$s17 (バックライト状態)  
ZM-42 ~ 82 の場合は 15 ビット目は未使用ですが、ZM-500 の場合、15 ビット目を  
使用します。  
監視に使っている場合は、15 ビット目をマスクしてください。

\$s17																																
ZM-42 ~ 82	<p>バックライト状態</p> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td>15</td><td>14</td><td>13</td><td>12</td><td>11</td><td>10</td><td>09</td><td>08</td><td>07</td><td>06</td><td>05</td><td>04</td><td>03</td><td>02</td><td>01</td><td>00</td> </tr> <tr> <td colspan="14"></td> <td style="text-align: right;">0: OFF    1: ON</td> </tr> </table>	15	14	13	12	11	10	09	08	07	06	05	04	03	02	01	00															0: OFF    1: ON
15	14	13	12	11	10	09	08	07	06	05	04	03	02	01	00																	
														0: OFF    1: ON																		
ZM-500	<p>バックライト状態</p> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td>15</td><td>14</td><td>13</td><td>12</td><td>11</td><td>10</td><td>09</td><td>08</td><td>07</td><td>06</td><td>05</td><td>04</td><td>03</td><td>02</td><td>01</td><td>00</td> </tr> <tr> <td colspan="2"></td> <td colspan="10" style="text-align: center;">0: バックライト切れ    1: バックライト正常</td> <td colspan="2" style="text-align: right;">0: OFF    1: ON</td> </tr> </table>	15	14	13	12	11	10	09	08	07	06	05	04	03	02	01	00			0: バックライト切れ    1: バックライト正常										0: OFF    1: ON		
15	14	13	12	11	10	09	08	07	06	05	04	03	02	01	00																	
		0: バックライト切れ    1: バックライト正常										0: OFF    1: ON																				

- \$s167 (SRAM 情報)  
ZM-42 ~ 82 の場合、SRAM カセット、FROM カセットが存在したため、0 ~ 2  
ビット目で実装状態の確認ができました。  
ZM-500 にはカセットは存在しないため、0 ~ 2 ビット目は使用しません。

\$s167																																									
ZM-42 ~ 82	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; text-align: center;">MSB</td> <td style="width: 50%; text-align: center;">LSB</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;"> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td>15</td><td>14</td><td>13</td><td>12</td><td>11</td><td>10</td><td>09</td><td>08</td><td>07</td><td>06</td><td>05</td><td>04</td><td>03</td><td>02</td><td>01</td><td>00</td> </tr> <tr> <td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td></td><td></td><td>0</td><td></td><td></td><td></td> </tr> </table> </td> <td style="text-align: center;"> <p>0: 未実装 1: FROM 2Mbyte (ZM-42 ~ 82) 2: FROM 4Mbyte (ZM-42 ~ 82) 3: SRAM 512kbyte (ZM-42 ~ 82 / 300) 4: FROM 8Mbyte (ZM-300)</p> </td> </tr> <tr> <td colspan="2" style="text-align: center;"> <p>メモリカセット情報予約 (設定: 0)    0: 電池正常    1: 電池電圧低下    2: 電池未挿入</p> </td> </tr> <tr> <td colspan="2" style="text-align: center;"> <p>メモリカセット情報予約 (設定: 0)</p> </td> </tr> </table>	MSB	LSB	<table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td>15</td><td>14</td><td>13</td><td>12</td><td>11</td><td>10</td><td>09</td><td>08</td><td>07</td><td>06</td><td>05</td><td>04</td><td>03</td><td>02</td><td>01</td><td>00</td> </tr> <tr> <td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td></td><td></td><td>0</td><td></td><td></td><td></td> </tr> </table>	15	14	13	12	11	10	09	08	07	06	05	04	03	02	01	00	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			0				<p>0: 未実装 1: FROM 2Mbyte (ZM-42 ~ 82) 2: FROM 4Mbyte (ZM-42 ~ 82) 3: SRAM 512kbyte (ZM-42 ~ 82 / 300) 4: FROM 8Mbyte (ZM-300)</p>	<p>メモリカセット情報予約 (設定: 0)    0: 電池正常    1: 電池電圧低下    2: 電池未挿入</p>		<p>メモリカセット情報予約 (設定: 0)</p>	
MSB	LSB																																								
<table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td>15</td><td>14</td><td>13</td><td>12</td><td>11</td><td>10</td><td>09</td><td>08</td><td>07</td><td>06</td><td>05</td><td>04</td><td>03</td><td>02</td><td>01</td><td>00</td> </tr> <tr> <td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td></td><td></td><td>0</td><td></td><td></td><td></td> </tr> </table>	15	14	13	12	11	10	09	08	07	06	05	04	03	02	01	00	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			0				<p>0: 未実装 1: FROM 2Mbyte (ZM-42 ~ 82) 2: FROM 4Mbyte (ZM-42 ~ 82) 3: SRAM 512kbyte (ZM-42 ~ 82 / 300) 4: FROM 8Mbyte (ZM-300)</p>								
15	14	13	12	11	10	09	08	07	06	05	04	03	02	01	00																										
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			0																													
<p>メモリカセット情報予約 (設定: 0)    0: 電池正常    1: 電池電圧低下    2: 電池未挿入</p>																																									
<p>メモリカセット情報予約 (設定: 0)</p>																																									
ZM-500	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; text-align: center;">MSB</td> <td style="width: 50%; text-align: center;">LSB</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;"> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td>15</td><td>14</td><td>13</td><td>12</td><td>11</td><td>10</td><td>09</td><td>08</td><td>07</td><td>06</td><td>05</td><td>04</td><td>03</td><td>02</td><td>01</td><td>00</td> </tr> <tr> <td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td></td><td></td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td> </tr> </table> </td> <td style="text-align: center;"> <p>システム予約 (設定: 0)</p> </td> </tr> <tr> <td colspan="2" style="text-align: center;"> <p>システム予約 (設定: 0)    0: 電池正常    1: 電池電圧低下    2: 電池未挿入</p> </td> </tr> <tr> <td colspan="2" style="text-align: center;"> <p>システム予約 (設定: 0)</p> </td> </tr> </table>	MSB	LSB	<table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td>15</td><td>14</td><td>13</td><td>12</td><td>11</td><td>10</td><td>09</td><td>08</td><td>07</td><td>06</td><td>05</td><td>04</td><td>03</td><td>02</td><td>01</td><td>00</td> </tr> <tr> <td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td></td><td></td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td> </tr> </table>	15	14	13	12	11	10	09	08	07	06	05	04	03	02	01	00	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			0	0	0	0	<p>システム予約 (設定: 0)</p>	<p>システム予約 (設定: 0)    0: 電池正常    1: 電池電圧低下    2: 電池未挿入</p>		<p>システム予約 (設定: 0)</p>	
MSB	LSB																																								
<table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td>15</td><td>14</td><td>13</td><td>12</td><td>11</td><td>10</td><td>09</td><td>08</td><td>07</td><td>06</td><td>05</td><td>04</td><td>03</td><td>02</td><td>01</td><td>00</td> </tr> <tr> <td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td></td><td></td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td> </tr> </table>	15	14	13	12	11	10	09	08	07	06	05	04	03	02	01	00	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			0	0	0	0	<p>システム予約 (設定: 0)</p>								
15	14	13	12	11	10	09	08	07	06	05	04	03	02	01	00																										
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			0	0	0	0																										
<p>システム予約 (設定: 0)    0: 電池正常    1: 電池電圧低下    2: 電池未挿入</p>																																									
<p>システム予約 (設定: 0)</p>																																									

## Ethernet 用ネットワークテーブル

ZM-42 ~ 82 において、Ethernet 用のネットワークテーブルは、1 箇所まとめて設定する構造でした。

ZM-500 からは、Ethernet 用のネットワークテーブルは、PLC 用と液晶コントロールターミナル / PC 用に分けて設定する構造に変わりました。

具体的に例を挙げて説明します。

### 例：Ethernet 対応 PLC と接続する ZM-42 ~ 82

ZM-42 ~ 82 で、以下のように、ネットワークテーブルを登録します。

No.	局名	IPアドレス	送信タイムアウト時間	ポートNo	リトライ回数	内部メモリ書き込み情報	メモ리카ードメモリ書き
0	ZM-42	10.91.130.160	15	10000	3	許可	許可
1	PLC 1	10.91.130.200	15	5000	3	許可	許可
2	PLC 2	10.91.130.201	15	5000	3	許可	許可
3	PLC 2	10.91.130.202	15	5000	3	許可	許可
4							
5							
6							
7							

ZM-500 に変換すると、ネットワークテーブルと同じ内容が、自動的に PLC テーブルにコピーされます。

ネットワークテーブル上では、PLC の設定を削除しても問題ありません。

また、PLC テーブル上では、ZM-500 や PC の設定を削除しても問題ありません。

- ネットワークテーブル (ZM-500/PC 用)

削除可

No.	局名	IPアドレス	送信タイムアウト時間	ポートNo	リトライ回数	内部メモリ書き込み情報	メモ리카ードメモリ書き
0	ZM-42	10.91.130.160	15	10000	3	許可	許可
1	PLC 1	10.91.130.200	15	5000	3	許可	許可
2	PLC 2	10.91.130.201	15	5000	3	許可	許可
3	PLC 2	10.91.130.202	15	5000	3	許可	許可
4							
5							
6							
7							
8							
9							
10							
11							
12							

- PLC テーブル (PLC 用)

削除可

No.	局名	IPアドレス	ポートNo
0	ZM-300	10.91.130.160	10000
1	PLC 1	10.91.130.200	5000
2	PLC 2	10.91.130.201	5000
3	PLC 2	10.91.130.202	5000
4			
5			

## 3 ZM-41/70 シリーズ→ ZM-500 シリーズ

### 3.1 推奨機種

ZM-41/70 シリーズを ZM-500 シリーズに置き換える場合、推奨機種は以下のようになります。

	ZM-41/70 シリーズ	ZM-500 シリーズ	オプション
10 インチ	ZM-70	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 画面の 2 点押し機能使用 ZM-573TA ZM-573TL</li> <li>• 画面の 2 点押し機能未使用 ZM-571TA ZM-571TL</li> </ul>	—
5.7 インチ	ZM-41D	ZM-542TA <sup>*1</sup> ZM-542T <sup>*1</sup> ZM-542DA <sup>*1</sup> ZM-542D <sup>*1</sup>	ZM-540DU
	ZM-41L	—	—

\*1 ZM-540 シリーズにマトリックススイッチタイプはありません。  
アナログスイッチタイプへ変更してください。  
ただし、画面の 2 点押し機能は使用できません。

## 3.2 ハードの互換性

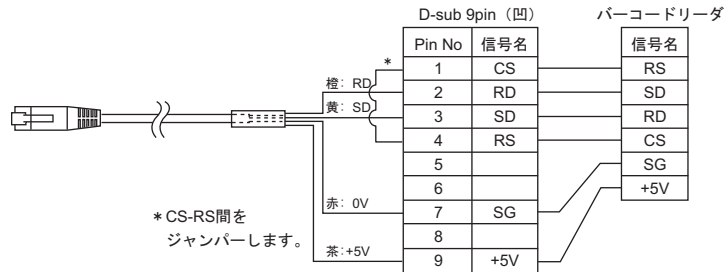
### ZM-70 → ZM-57\*TA/TL

項目	ZM-70	ZM-57*TA/TL
表示デバイス	<ul style="list-style-type: none"> <li>● ZM-70T : TFT カラー</li> <li>● ZM-70D : STN カラー</li> </ul>	TFT カラー
表示色	<ul style="list-style-type: none"> <li>● ZM-70T : 16 色 /8 色</li> <li>● ZM-70D : 16 色 /8 色</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 65,536 色 (ブリックなし)</li> <li>● 32,768 色 (ブリックあり)</li> <li>● 128 色 (ブリック 16 色)</li> </ul>
有効表示領域	10.4 インチ	10.4 インチ
パネルカット寸法 (単位 : mm)	317W × 229H	289W × 216.2H 弊社オプションの取付パネルアダプタ「ZM-300PD」使用 <sup>*1</sup>
表示分解能 (W × H)	640 × 480 ドット	640 × 480 ドット
タッチスイッチ方式	● マトリックス	<ul style="list-style-type: none"> <li>● アナログ</li> <li>● マトリックス</li> </ul>
取付角度	0 ~ 135°	15 ~ 135°
FROM	<ul style="list-style-type: none"> <li>● ROM Ver. 1.12 以降 約 1MB</li> <li>● ROM Ver. 1.00 ~ 1.11 約 512KB</li> </ul> (フォントにより増加あり)	約 12.5MB (フォントにより増加あり)
画面転送	CN1 : 弊社製画面転送ケーブル 「ZM-60C」 または 弊社製画面転送ケーブル「ZM-80C」 + 変換アダプタ「ADP25-M」	<ul style="list-style-type: none"> <li>● MJ1 の場合 弊社製画面転送ケーブル「ZM-80C」</li> <li>● USB-B の場合 市販 USB ケーブル</li> <li>● LAN ポートの場合 (ZM-57*TA のみ) Ethernet 転送</li> </ul>
PLC 接続	CN1 : Dsub25 ピン (凹) ミリネジ  RS-422 端子台 : Y 端子	CN1 : Dsub9 ピン (凹) インチネジ  * ZM-41/70 用のケーブルを利用する場合は、弊社製変換ケーブル「ZM-500CC」(0.3m) を使用
プリンタポート	CN2 : セントロニクス 14 ピン (パラレル接続)	<ul style="list-style-type: none"> <li>● パラレル接続 なし</li> <li>● シリアル接続 (MJ1/MJ2) モジュラーコネクタ 8 ピン</li> <li>● USB 接続 USB-A ポート (PictBridge 対応プリンタに変更すると、 USB-B ポートでの接続も可能)</li> </ul>
プリンタケーブル	● PC-9801 用標準プリンタケーブル	<ul style="list-style-type: none"> <li>● パラレル接続 なし ただし、市販 USB パラレル変換ケーブル (ELECOM : UC-PGT) を使うことで置換可能</li> <li>● シリアル接続 「受注生産品 TMP」で作成</li> </ul>

項目	ZM-70	ZM-57*TA/TL
バーコードリーダ接続	—	<ul style="list-style-type: none"> <li>シリアル接続 (MJ1/MJ2) 弊社製バーコードリーダケーブル「ZM-80BC」で MJ ↔ Dsub9 ピン変換ケーブル作成<sup>*2</sup></li> <li>USB 接続 USB-A ポート (USB-HID 準拠タイプのバーコードに変更すると、USB 接続が可能)</li> </ul>
保護シート	—	「ZM-570GS」
メモリカード機能	—	<ul style="list-style-type: none"> <li>カードレコーダ「ZM-1REC」</li> <li>内蔵 SRAM</li> <li>CF カード</li> </ul>
メモリカードへの画面データの保存	—	<ul style="list-style-type: none"> <li>カードレコーダ「ZM-1REC」</li> <li>CF カード</li> </ul>
市販メモリカード	<ul style="list-style-type: none"> <li>画面転送用 FLASH SRAM</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ZM-71S で読み込み、ZM-500 用データに変換してから使用</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>データロギング / メモリマネージャ機能 SRAM</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「メモリカード設定」の内容が一致している場合：そのまま使用可能</li> <li>「メモリカード設定」の内容が一致していない場合：フォーマット後使用可能</li> </ul>
外部 I/O	—	本体 + ZM-322ME (オプション) で対応

\*1 パネルアダプタ装着時、フロントパネルは IP65 準拠の保護構造は保てません。

\*2 MJ ↔ Dsub9 ピン変換ケーブル配線図



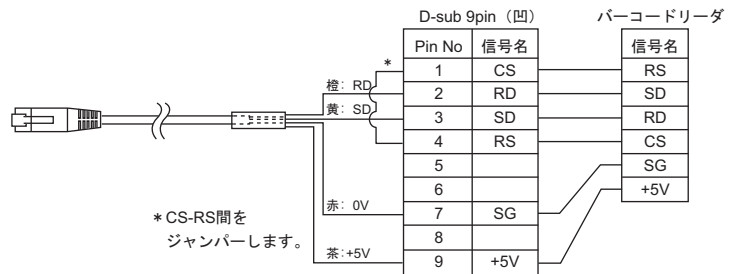
## ZM-41→ ZM-540

項目	ZM-41	ZM-540
表示デバイス	<ul style="list-style-type: none"> <li>• ZM-41D : STN カラー</li> <li>• ZM-41L : STN ブルーモード</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• TFT カラー : ZM-542T/TA</li> <li>• STN カラー : ZM-542D/DA</li> </ul>
表示色	<ul style="list-style-type: none"> <li>• ZM-41D : 16 色 /8 色</li> </ul>	65,536 色 (プリンクなし) 32,768 色 (プリンクあり) 128 色 (プリンク 16 色)
有効表示領域	5.7 インチ	5.7 インチ
パネルカット寸法 (単位 : mm)	199 W × 147 H	174W × 131H  弊社オプション品の取付パネルアダプタ「受注生産品 PAD」使用*1
表示分解能 (W × H)	320× 240 ドット	320× 240 ドット
タッチスイッチ方式	マトリックス	アナログ
取付角度	0 ~ 135°	15 ~ 135°
FROM	約 512KB (フォントにより増加あり)	約 4.5MB (フォントにより増加あり)
画面転送	CN2 : 弊社製画面転送ケーブル 「ZM-60C」 または 弊社製画面転送ケーブル「ZM-80C」 +変換アダプタ「ADP25-M」	<ul style="list-style-type: none"> <li>• MJ1 の場合 弊社製画面転送ケーブル「ZM-80C」</li> <li>• USB-B の場合 市販 USB ケーブル</li> <li>• LAN ポートの場合 (ZM-542DA/TA のみ) Ethernet 転送</li> </ul>
PLC 接続	CN2 : Dsub25 ピン (凹) ミリネジ	<ul style="list-style-type: none"> <li>• ZM-540 のみ MJ2 : モジュラー 8 ピン</li> </ul> <p>* ZM-41 用のケーブルを利用する場合は、 弊社製変換ケーブル「ZM-340CC」 (0.3m) を使用。ただし、三菱 A/QnA CPU 直結の場合は利用できません。別途 「受注生産品 ACPU- □ M」ケーブルを使用 (MJ2 と MJ1 の両方を使用)。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• ZM-540+ 「ZM-540DU」 CN1 : Dsub9 ピン (凹) インチネジ</li> </ul> <p>* ZM-70 用のケーブルを利用する場合は、 弊社製変換ケーブル「ZM-500CC」 (0.3m) を使用。</p>
プリンタポート	CN4 : セントロニクス 14 ピン (パラレル接続)	<ul style="list-style-type: none"> <li>• パラレル接続 なし</li> <li>• シリアル接続 (MJ1/MJ2) モジュラーコネクタ 8 ピン</li> <li>• USB 接続 USB-A ポート (PictBridge 対応プリンタに変更すると、 USB-B ポートでの接続も可能)</li> </ul>

項目	ZM-41	ZM-540
プリンタケーブル	<ul style="list-style-type: none"> <li>PC-9801 用標準プリンタケーブル</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>パラレル接続 なし ただし、市販 USB パラレル変換ケーブル (ELECOM : UC-PGT) を使うことで置換可能</li> <li>シリアル接続 「受注生産品 TMP」で作成</li> </ul>
バーコードリーダー接続	—	<ul style="list-style-type: none"> <li>シリアル接続 (MJ1/MJ2) 弊社製バーコードリーダーケーブル「ZM-80BC」で MJ ↔ Dsub9 ピン変換ケーブル作成<sup>*2</sup></li> <li>USB 接続 USB-A ポート (USB-HID 準拠タイプのバーコードに変更すると、USB 接続が可能)</li> </ul>
保護シート	—	「ZM-540GS」
メモ리카ードへの画面データの保存	—	<ul style="list-style-type: none"> <li>カードレコーダ「ZM-1REC」</li> <li>CF カード</li> </ul>
市販メモ리카ード	<ul style="list-style-type: none"> <li>画面転送用 FLASH/SRAM</li> </ul>	ZM-71S で読み込み、ZM-500 用データに変換してから使用

\*1 パネルアダプタ装着時、フロントパネルは IP65 準拠の保護構造は保てません。

\*2 MJ ↔ Dsub9 ピン変換ケーブル配線図



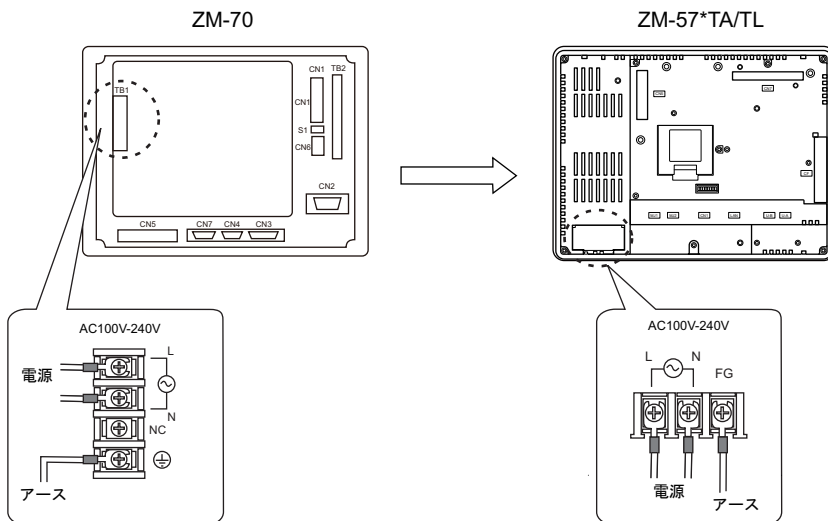
## ハードウェアに関する注意

### 取り付け時の注意

#### 電源端子の位置

置き換え時に電源端子に注意が必要な機種は、以下のとおりです。

- ZM-70  
電源端子部の端子の位置と並びが、ZM-70 と ZM-500 で異なります。





## 接続時の注意

### Dsub コネクタの違い

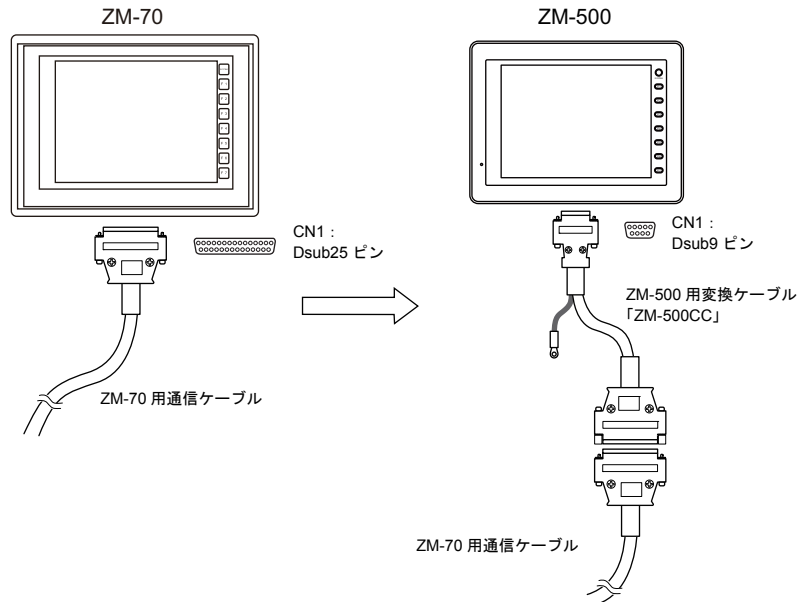
ZM-70 シリーズは、CN1 は Dsub25 ピンのコネクタ、TB2 は RS-422 通信用の端子台となります。

ZM-500 シリーズの CN1 は、Dsub9 ピンのコネクタに替わります。

このため、置き換え時には、変換ケーブル「ZM-500CC」(0.3m) または ZM-500 用ターミナルコンバータ「ZM-2TC」(端子台) をご用意ください。

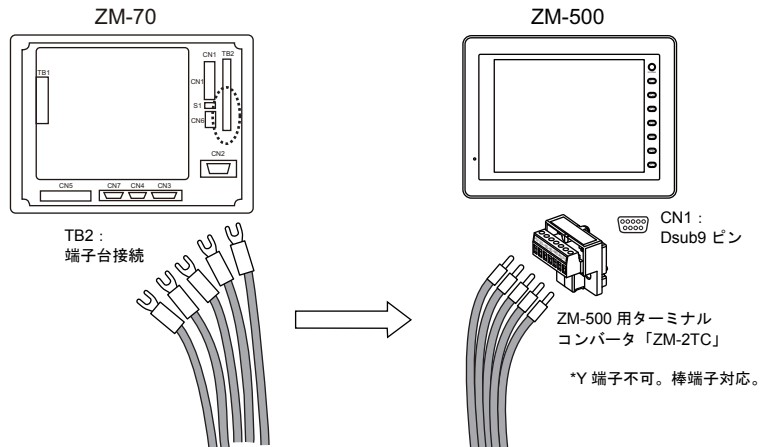
- 変換ケーブル

ZM-70 用通信ケーブルを流用するためには、「ZM-500CC」使用してください。



- RS-422 端子台接続

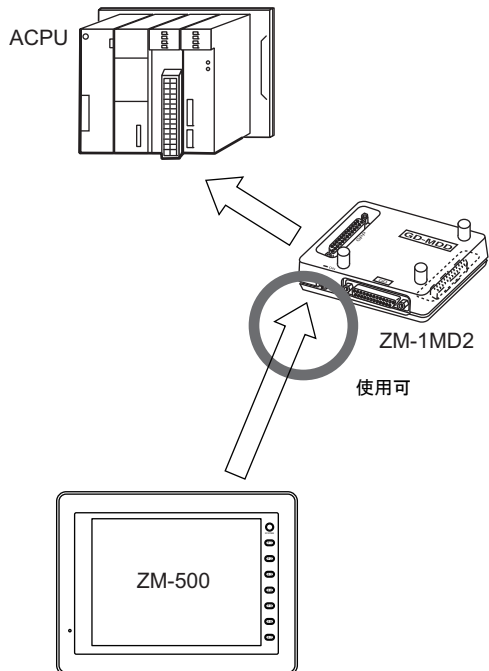
ZM-70 の TB2 を使用して端子台接続していた場合、ZM-500 では「ZM-2TC」を使用してください。ただし、端子台の構造が異なるため、ケーブルの先端の処理は変更が必要です。



### 三菱電機 A シリーズ CPU との通信時

---

ZM-41/70 シリーズで、A シリーズ CPU との通信時、2ポートアダプタとして、「ZM-1MD2」を使用することが可能です。  
ZM-500 シリーズの場合、「ZM-1MD2」に置き換えてください。

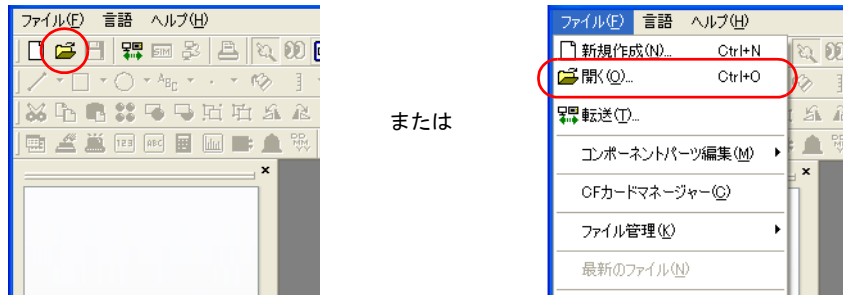


### 3.3 ソフト（設定・機能）の互換性

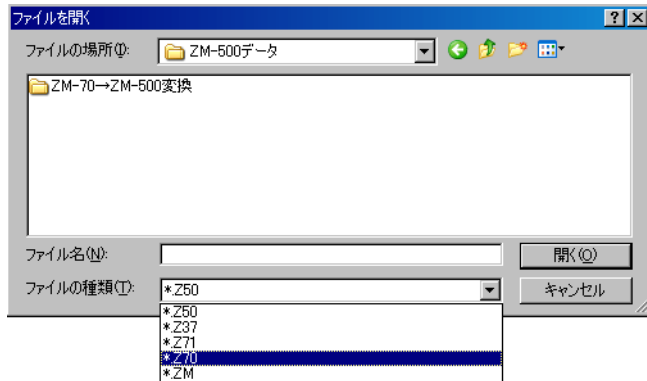
#### 画面データファイルの変換方法

以下の手順でファイルを変換します。

1. ZM-71S を起動し、[開く] アイコン、または [ファイル] の [開く] をクリックします。

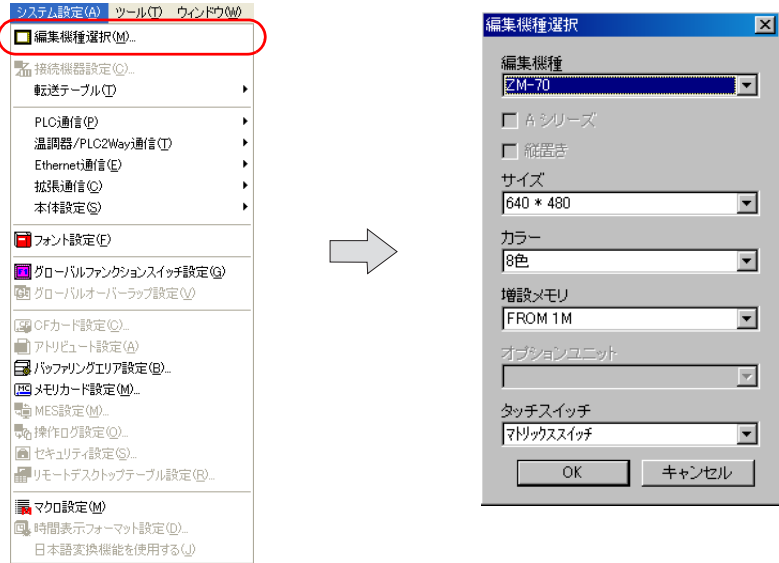


2. [ファイルを開く] ダイアログが表示されます。[ファイルの種類] を [\*.\*Z70] に変更します。

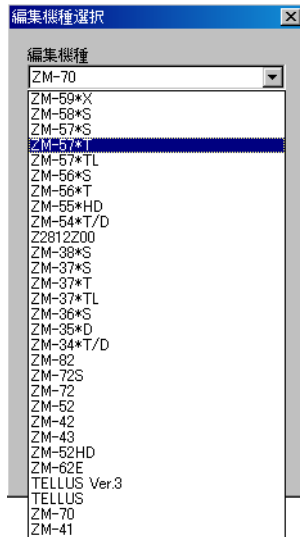


3. 変換する ZM-41/70 シリーズの画面データファイルを指定し、[開く] をクリックします。ZM-41/70 シリーズの画面データファイルが開きます。

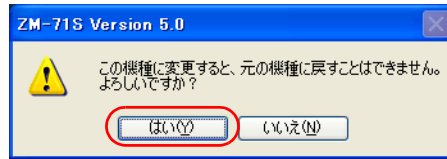
4. [システム設定] の [編集機種選択] をクリックします。[編集機種] ダイアログが表示されます。



5. 変換後の ZM-500 シリーズの機種を選択し、[OK] をクリックします。

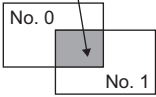
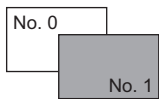
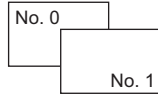
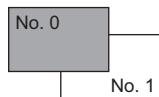
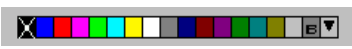


6. 以下のようなダイアログが表示されます。[はい] をクリックします。



- \* ZM-41/70 データを ZM-500 データに変換すると、ZM-41/70 データに戻すことはできません。ご注意ください。
7. エディタ上に ZM-500 シリーズ用に変換された画面データファイルが表示されます。名前を付けて保存します。

## データの互換性

項目	ZM-41/70	ZM-500
スイッチ [動作：ICON2]	あり	なし 自動的に [動作：ICON] に変換します
スイッチ	<p>スイッチが2個重なった場合、重なった場所を押すと後から配置した方が反応する ここを押したとき</p>  <p>ZM-41/70 本体で No. 1 が反応する</p> 	<p>エディタ上は、配置順で決まります。No. (または DIV No.) の小さい方が先に配置された状態とみなされて下、大きい方が上になります。</p>  <p>[本体設定] の [環境設定] のメニュー [<input type="checkbox"/>スイッチが重なった時、上のスイッチを有効にする]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• チェックあり：上のスイッチが反応 (ZM-41/70 と同じ動作)</li> <li>• チェックなし：下のスイッチ (先に配置した方) が反応</li> </ul> <p>No. 0 が反応する</p> 
数値表示	<p>オーバーフロー時には上の桁を表示する</p> <p>例) D100 = 1234 の場合 4桁表示 = 「1234」 2桁表示 = 「12」</p>	<p>オーバーフロー時には以下のように表示する</p> <p>例) D100 = 1234 の場合 4桁表示 = 「1234」 2桁表示 = 「--」</p> <p>* [本体設定] の [環境設定] のメニュー [<input type="checkbox"/>数値表示：オーバーフロー時、有効桁表示] チェックありの場合は、「34」と表示されます。</p>
XOR 表示	-	<p>[本体設定] の [環境設定] のメニュー [<input type="checkbox"/>128色で使用する]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• チェックあり：ZM-41/70 と同じ表示</li> <li>• チェックなし：基本8色のみ同じ表示</li> </ul>  <p>基本8色のみ XOR      その他の色を使った XOR 表示は互換なし</p>
バーコード接続	<p>ボーレート 2400bps をサポート</p>	<p>ボーレート 2400bps を未サポート</p>

## スイッチ

一部のスイッチに関しては、互換を保つために、ZM-500 に対応した機能「ON リpeat機能」と「ダブルタッチ機能」を、自動的に設定ありで変換します。

### 対象スイッチ一覧

ZM-41/70		ZM-500		
スイッチ機能		スイッチ機能	ディレイ設定	
標準	ロールアップ	ロールアップ	ON リpeat機能 (150ms)	
	ロールダウン	ロールダウン		
入力	文字入力	文字入力		
	スペース	スペース		
	バックスペース	バックスペース		
	DELETE	DELETE		
	+1	+1		
	-1	-1		
	←	←		
	→	→		
	↑	↑		
	↓	↓		
標準	リセット	リセット		ダブルタッチ機能 (2s)

### 【機能：カードフォーマット】スイッチについて

スイッチの【機能】において、【メモ리카ード：カードフォーマット】というスイッチがあります。  
このスイッチは、ZM-41/70 の場合、SRAM メモ리카ードの設定をフォーマットするためのスイッチとして、使用します。  
ZM-500 の場合は、SRAM メモ리카ードの場合のみ、使用します。内蔵 SRAM については、このスイッチが無効となります。(スイッチを押しても、「ピピピッ」とエラー音がなっており、受け付けません。)

## SRAM

## サンプリング

ZM-41/70 の [バッファリングエリア設定] の [格納先] の設定によって、ZM-500 での [格納先] が変わります。詳しくは下表を参照してください。

ZM-41/70	ZM-500					
格納先	変換後どうするか？	一次格納先	二次格納先	必要な設定手順	格納先	注意点
内部バッファ	変換直後	DRAM	なし	—	DRAM	—
SRAM	変換直後	DRAM	メモリカード	—	DRAM	[一次格納先]である [DRAM] に設定された回数分格納される。メモリカードには保存されない。
	SRAM メモリカードに格納する場合	DRAM	メモリカード	手動で [接続機器設定] の [その他] において、[ <input type="checkbox"/> カードレコーダを使用する] にチェックを入れ、ZM-1REC + SRAM メモリカードをセットする。さらに、RUN 中画面上の [カードフォーマット] スイッチを押すことで、SRAM メモリカードに格納が可能。	DRAM および SRAM メモリカード	—
	内蔵 SRAM に格納する場合	SRAM に変更	なしに変更	[サンプリング回数] を、変換直後の [二次格納先] と同じ回数まで増やす。 [カードフォーマット] スイッチは不要。	内蔵 SRAM	—
	CF カードに格納する場合	DRAM または SRAM に変更	CF カードに変更	—	DRAM または SRAM および CF カード	—



## SRAM メモリカード（市販メモリカード）

### SRAM フォーマット

---

フォーマットの手順に違いはありません。

### SRAM カード（データロギング）を ZM-500 用に置き換える方法

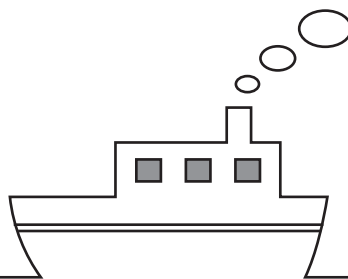
---

ZM-41/70 で保存したデータロギングデータは ZM-500 で表示できません。PC でバックアップを取った上で、カードフォーマット後に ZM-500 で新たにデータロギングを実行してください。

ZM-500 の RUN 画面上で、[機能：カードフォーマット] スイッチを押すことで、SRAM カードへのデータロギングが可能です。

- \* フォーマットしない場合、一次格納先（＝DRAM）に設定されている回数分であれば、そのままデータロギングが実行できます。  
フォーマットした時点から、二次格納先（＝メモリカード）へのデータロギングが実行できます。

# MEMO



## 4 ZM-30/40/61 シリーズ→ ZM-500 シリーズ

### 4.1 推奨機種

ZM-30/40/61 シリーズを ZM-500 シリーズに置き換える場合、対応機種は以下のようになります。

ZM-30/40/60 シリーズ	ZM-500 シリーズ	オプション
ZM-61T	<ul style="list-style-type: none"> <li>画面の 2 点押し機能使用 ZM-573TA ZM-573TL</li> <li>画面の 2 点押し機能未使用 ZM-571TA/572TA ZM-571TL</li> </ul>	-
ZM-61E	ZM-562TA ZM-562T	-
ZM-30	ZM-542TA <sup>*1</sup> ZM-542T <sup>*1</sup>	ZM-540DU
ZM-40	ZM-542D <sup>*1</sup>	

\*1 ZM-540 シリーズにマトリックススイッチタイプはありません。  
アナログスイッチタイプへ変更してください。  
ただし、画面の 2 点押し機能は使用できません。

## 4.2 ハードの互換性

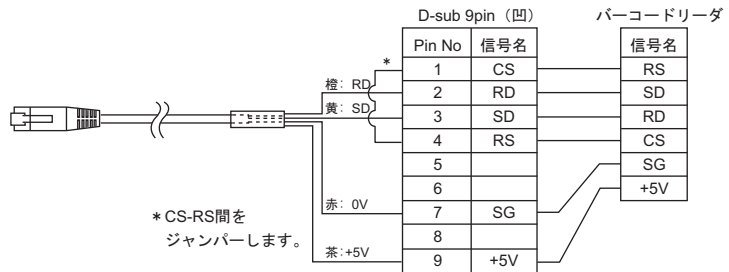
### ZM-61T→ZM-57\*TA/TL

項目	ZM-61T	ZM-57*TA/TL
表示デバイス	TFT カラー	TFT カラー
表示色	16 色	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 65,536 色 (ブリンクなし)</li> <li>• 32,768 色 (ブリンクあり)</li> <li>• 128 色 (ブリンク 16 色)</li> </ul>
有効表示領域	9.8 インチ	10.4 インチ
パネルカット寸法 (単位 : mm)	317W × 229H	289W × 216.2H 弊社オプションの取付パネルアダプタ「ZM-300PD」使用 <sup>*1</sup>
表示分解能 (W × H)	640 × 400 ドット	640 × 480 ドット
タッチスイッチ方式	<ul style="list-style-type: none"> <li>• マトリックス</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• アナログ</li> <li>• マトリックス</li> </ul>
取付角度	0 ~ 135°	15 ~ 135°
画面転送	CN1 : 弊社製画面転送ケーブル「ZM-60C」 または 弊社製画面転送ケーブル「ZM-80C」 +変換アダプタ「ADP25-M」	<ul style="list-style-type: none"> <li>• MJ1 の場合                弊社製画面転送ケーブル「ZM-80C」</li> <li>• USB-B の場合                市販 USB ケーブル</li> <li>• LAN ポートの場合 (ZM-57*TA のみ)                Ethernet 転送</li> </ul>
PLC 接続	CN1 : Dsub25 ピン (凹) ミリネジ	CN1 : Dsub9 ピン (凹) インチネジ  * ZM-61T 用のケーブルを利用する場合は、 弊社製変換ケーブル「ZM-500CC」 (0.3m) を使用
	RS-422 端子台 : Y 端子	ZM-2TC 棒端子
プリンタポート	<ul style="list-style-type: none"> <li>• CN2: セントロニクス 14 ピン (パラレル接続)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• パラレル接続 なし</li> <li>• シリアル接続 (MJ1/MJ2) モジュラーコネクタ 8 ピン</li> <li>• USB 接続 USB-A ポート (PictBridge 対応プリンタに変更すると、 USB-B ポートでの接続も可能)</li> </ul>
プリンタケーブル	<ul style="list-style-type: none"> <li>• PC-9801 用標準プリンタケーブル</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• パラレル接続 なし ただし、市販 USB パラレル変換ケーブル (ELECOM : UC-PGT) を使うことで置換可能</li> <li>• シリアル接続 「受注生産品 TMP」で作成</li> </ul>

項目	ZM-61T	ZM-57*TA/TL
バーコードリーダ接続	—	<ul style="list-style-type: none"> <li>シリアル接続 (MJ1/MJ2) 弊社製バーコードリーダケーブル「ZM-80BC」で MJ ↔ Dsub9 ピン変換ケーブル作成<sup>*2</sup></li> <li>USB 接続 USB-A ポート (USB-HID 準拠タイプのバーコードに変更すると、USB 接続が可能)</li> </ul>
保護シート	—	「ZM-570GS」
防水保護カバー	—	不要 標準で IP65 準拠
メモリカード機能	—	<ul style="list-style-type: none"> <li>カードレコーダ「ZM-1REC」</li> <li>内蔵 SRAM</li> <li>CF カード</li> </ul>
メモリカードへの画面データの保存	—	<ul style="list-style-type: none"> <li>カードレコーダ「ZM-1REC」</li> <li>CF カード</li> </ul>
市販メモリカード	<ul style="list-style-type: none"> <li>画面転送用 FLASH SRAM</li> <li>データロギング/ メモリマネージャ機能 SRAM</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ZM-30S/31S で保存し、ZM-71S で読み込み、ZM-500 用データに変換してから使用</li> </ul>
		—

\*1 パネルアダプタ装着時、フロントパネルは IP65 準拠の保護構造は保てません。

\*2 MJ ↔ Dsub9 ピン変換ケーブル配線図



## ZM-61E → ZM-562T/TA

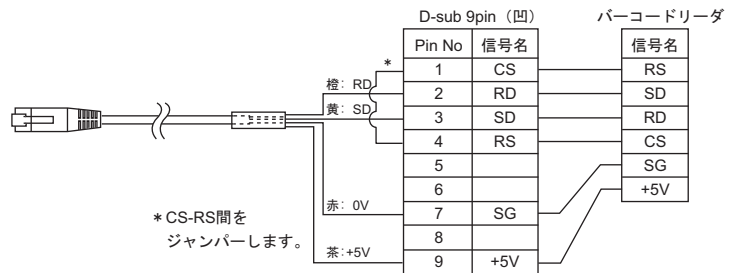
項目	ZM-61E	ZM-562T/TA
表示デバイス	高輝度 EL	TFT カラー
表示色	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 2色（黒色 / 黄橙色） + プリント</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 65,536 色（プリントなし）</li> <li>• 32,768 色（プリントあり）</li> <li>• 128 色（プリント 16 色）</li> </ul>
有効表示領域	8.9 インチ	8.4 インチ
パネルカット寸法 (単位 : mm)	277W × 192H	220.5W × 165.5H  * 弊社製パネルアダプタ「受注生産品 PAD-01」を使用 <sup>*1</sup>
表示分解能 (W × H)	640 × 400 ドット	640 × 480 ドット <sup>*2</sup>
タッチスイッチ方式	マトリックス	アナログ  * マトリックス対応品に置き換える場合は、ZM-573TL を使用。パネルカットを大きくする必要あり。弊社製パネルアダプタ「受注生産品 PAD002」を使うと、パネルカットはそのままでも取付可能。ただし従来よりも奥行きが必要となります。
電源仕様	<ul style="list-style-type: none"> <li>• AC 電源</li> </ul>	DC 電源のみ  * AC 電源タイプを置き換える場合は、弊社製 AC 電源ユニット「受注生産品 PW」を使用
取付角度	0 ~ 135°	15 ~ 135°
画面転送	CN1 : 弊社製画面転送ケーブル「ZM-60C」 または 弊社製画面転送ケーブル「ZM-80C」 + 変換アダプタ「ADP25-M」	<ul style="list-style-type: none"> <li>• MJ1 の場合 弊社製画面転送ケーブル「ZM-80C」</li> <li>• USB-B の場合 市販 USB ケーブル</li> <li>• LAN ポートの場合（ZM-562TA のみ） Ethernet 転送</li> </ul>
PLC 接続	CN1 : Dsub25 ピン（凹） ミリネジ	CN1 : Dsub9 ピン（凹） インチネジ * ZM-61E 用のケーブルを利用する場合は、 弊社製変換ケーブル「ZM-500CC」 (0.3m) を使用
	RS-422 端子台 : Y 端子	ZM-2TC 棒端子
プリンタポート	<ul style="list-style-type: none"> <li>• CN2: セントロニクス 14 ピン(パラレル接続)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• パラレル接続 なし</li> <li>• シリアル接続 (MJ1/MJ2) モジュラーコネクタ 8 ピン</li> <li>• USB 接続 USB-A ポート (PictBridge 対応プリンタに変更すると、 USB-B ポートでの接続も可能)</li> </ul>

項目	ZM-61E	ZM-562T/TA
プリンタケーブル	<ul style="list-style-type: none"> <li>PC-9801 用標準プリンタケーブル</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>パラレル接続 なし ただし、市販 USB パラレル変換ケーブル (ELECOM : UC-PGT) を使うことで置換可能</li> <li>シリアル接続 「受注生産品 TMP」で作成</li> </ul>
バーコードリーダ接続	—	<ul style="list-style-type: none"> <li>シリアル接続 (MJ1/MJ2) 弊社製バーコードリーダケーブル「ZM-80BC」で MJ ↔ Dsub9 ピン変換ケーブル作成<sup>*3</sup></li> <li>USB 接続 USB-A ポート (USB-HID 準拠タイプのバーコードに変更すると、USB 接続が可能)</li> </ul>
保護シート	「0JUGSSHETZ61E」	「ZM-560GS」
防水保護カバー	「0JUWPSHETZ61E」	不要 標準で IP65 準拠
メモリカード機能	—	<ul style="list-style-type: none"> <li>カードレコーダ「ZM-1REC」</li> <li>内蔵 SRAM</li> <li>CF カード</li> </ul>
メモリカードへの画面データの保存	—	<ul style="list-style-type: none"> <li>カードレコーダ「ZM-1REC」</li> <li>CF カード</li> </ul>
市販メモリカード	<ul style="list-style-type: none"> <li>画面転送用 FLASH SRAM</li> <li>データロギング/ メモリアマネージャ機能 SRAM</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ZM-30S/31S で保存し、ZM-71S で読み込み、ZM-500 用データに変換してから使用</li> </ul>
		—

\*1 パネルアダプタ装着時、フロントパネルは IP65 準拠の保護構造は保てません。

\*2 解像度が異なるため、自動的に ZM-61E の画面を ZM-562T/TA の画面の中央に表示させる機能に対応しています。詳しくは P 4-12 を参照してください。

\*3 MJ ↔ Dsub9 ピン変換ケーブル配線図



## ZM-30→ ZM-540

項目	ZM-30	ZM-540
表示デバイス	<ul style="list-style-type: none"> <li>• ZM-30E : 高輝度 EL</li> <li>• ZM-30L : STN モノクロ (ホワイトモード)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• TFT カラー : ZM-542T/TA</li> <li>• STN カラー : ZM-542D/DA</li> </ul>
表示色	<ul style="list-style-type: none"> <li>• ZM-30E : 2 色 (オレンジ / 黒)</li> <li>• ZM-30L : 2 色 (白 / 黒)</li> </ul>	65,536 色 (ブリックなし) 32,768 色 (ブリックあり) 128 色 (ブリック 16 色)
有効表示領域	4.7 インチ	5.7 インチ
パネルカット寸法 (単位 : mm)	158.5 W × 122.5 H	174W × 131H  * パネルカットを大きくする必要あり。 弊社製パネルアダプタ「受注生産品 PAD001」を使うと、パネルカットはそのまま取付可能。ただし従来よりも奥行きが必要となります。また IP65 は準拠できません。
表示分解能 (W × H)	320× 240 ドット	320× 240 ドット
タッチスイッチ方式	マトリックス	アナログ
取付角度	0 ~ 135°	15 ~ 135°
画面転送	CN2 : 弊社製画面転送ケーブル 「ZM-30C」	<ul style="list-style-type: none"> <li>• MJ1 の場合 弊社製画面転送ケーブル「ZM-80C」</li> <li>• USB-B の場合 市販 USB ケーブル</li> <li>• LAN ポートの場合 (ZM-542DA/TA のみ) Ethernet 転送</li> </ul>
PLC 接続	CN2 : Dsub15 ピン (凹) ミリネジ	<ul style="list-style-type: none"> <li>• ZM-540 のみ MJ2 : モジュラー 8 ピン<sup>*1</sup></li> <li>• ZM-540+ 「ZM-540DU」 CN1 : Dsub9 ピン (凹) インチネジ<sup>*2</sup></li> </ul> <p>* ZM-30 用のケーブルはそのままでは使えません。ZM-500 用のケーブルに変更するか、改造してください。</p>
保護シート	—	「ZM-540GS」
メモリカードへの 画面データの保存	—	<ul style="list-style-type: none"> <li>• カードレコーダ「ZM-1REC」</li> <li>• CF カード</li> </ul>
市販メモリカード	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 画面転送用 FLASH/SRAM</li> </ul>	ZM-30S/31S で保存し、ZM-71S で読み込み、ZM-500 用データに変換してから使用



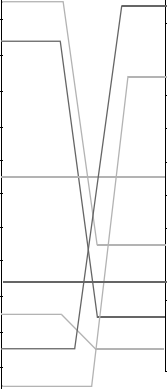
\*1 ZM-30E/L (CN2) と ZM-540 (MJ2) のコネクタが異なるため、通信ケーブルはそのまま使用できません。以下のピン配列を参考にコネクタの変換が必要です。

ZM-30E/L CN2 (Dsub15 ピン)

ZM-540 MJ2 (モジュラーコネクタ 8 ピン)

ピン No.	信号名	内容
1	FG	フレームグラウンド
2	RD	RS-232C 受信データ
3	SD	RS-232C 送信データ
4	CS	RS-232C CS 送信許可
5	RS	RS-232C RS 送信要求
6		
7	SG	シグナルグラウンド
8		
9	COM	出力コモン
10	+RD	RS-422 受信データ (+)
11	-RD	RS-422 受信データ (-)
12	+SD	RS-422 送信データ (+)
13	-SD	RS-422 送信データ (-)
14	RUN	RUN 信号
15	BZ	ブザー信号

ピン No.	信号名	内容
1	+SD/RD	RS-485 データ (+)
	+SD	RS-422 送信データ (+)
2	-SD/RD	RS-485 データ (-)
	-SD	RS-422 送信データ (-)
3	+5V	外部供給 +5V MAX150mA
4		
5	SG	シグナルグラウンド
6		
7	RD	RS-232C 受信データ
	+RD	RS-422 受信データ (+)
8	SD	RS-232C 送信データ
	-RD	RS-422 受信データ (-)



ZM-540 側面のスライドスイッチ  
上 : RS-232C  
下 : RS-422

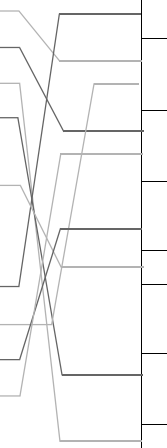
\*2 ZM-30E/L と ZM-540DU のコネクタが異なるため、通信ケーブルはそのまま使用できません。以下のピン配列を参考にコネクタの変換が必要です。

ZM-30E/L CN2 (Dsub15 ピン)

ZM-540DU CN1 (Dsub9 ピン)

ピン No.	信号名	内容
1	FG	フレームグラウンド
2	RD	RS-232C 受信データ
3	SD	RS-232C 送信データ
4	CS	RS-232C CS 送信許可
5	RS	RS-232C RS 送信要求
6		
7	SG	シグナルグラウンド
8		
9	COM	出力コモン
10	+RD	RS-422 受信データ (+)
11	-RD	RS-422 受信データ (-)
12	+SD	RS-422 送信データ (+)
13	-SD	RS-422 送信データ (-)
14	RUN	RUN 信号
15	BZ	ブザー信号

ピン No.	信号名		内容
	232C	422	
1	NC	+RD	未使用
			RS-422 受信データ (+)
2	RD	-RD	RS-232C 受信データ
			RS-422 受信データ (-)
3	SD	-SD	RS-232C 送信データ
			RS-422 送信データ (-)
4	NC	+SD	未使用
			RS-422 送信データ (+)
5	SG	SG	シグナルグラウンド
6	NC	+RS	未使用
			RS-422RS 送信データ (+)
7	RS	-RS	RS-232C RS 送信要求
			RS-422RS 送信データ (-)
8	CS	NC	RS-232C CS 送信許可
			未使用
9	NC	+5V	未使用
			終端抵抗用



## ZM-40→ ZM-540

項目	ZM-40	ZM-540
表示デバイス	<ul style="list-style-type: none"> <li>• ZM-40D : STN カラー</li> <li>• ZM-40L : STN モノクロ (ブルーモード)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• TFT カラー : ZM-542T/TA</li> <li>• STN カラー : ZM-542D/DA</li> </ul>
表示色	16 色	65,536 色 (プリンクなし) 32,768 色 (プリンクあり) 128 色 (プリンク 16 色)
有効表示領域	5.7 インチ	5.7 インチ
パネルカット寸法 (単位 : mm)	199 W × 147 H	174W × 131H  弊社オプション品の取付パネルアダプタ「受注生産品 PAD」使用 <sup>*1</sup>
表示分解能 (W × H)	320× 240 ドット	320× 240 ドット
タッチスイッチ方式	マトリックス	アナログ
取付角度	0 ~ 135°	15 ~ 135°
画面転送	CN2 : 弊社製画面転送ケーブル「ZM-60C」 または 弊社製画面転送ケーブル「ZM-80C」 +変換アダプタ「ADP25-M」	<ul style="list-style-type: none"> <li>• MJ1 の場合 弊社製画面転送ケーブル「ZM-80C」</li> <li>• USB-B の場合 市販 USB ケーブル</li> <li>• LAN ポートの場合 (ZM-542DA/TA のみ) Ethernet 転送</li> </ul>
PLC 接続	CN2 : Dsub25 ピン (凹) ミリネジ	<ul style="list-style-type: none"> <li>• ZM-540 のみ MJ2 : モジュラー 8 ピン</li> </ul> <p>* ZM-40 用のケーブルを利用する場合は、弊社製変換ケーブル「ZM-340CC」(0.3m)を使用。ただし、三菱 A/QnA CPU 直結の場合は利用できません。別途「受注生産品 ACPU-□M」ケーブルを使用 (MJ2 と MJ1 の両方を使用)。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• ZM-540+「ZM-540DU」 CN1 : Dsub9 ピン (凹) インチネジ</li> </ul> <p>* ZM-40 用のケーブルを利用する場合は、弊社製変換ケーブル「ZM-500CC」(0.3m)を使用</p>
プリンタポート	CN4 : セントロニクス 14 ピン (パラレル接続)	<ul style="list-style-type: none"> <li>• パラレル接続 なし</li> <li>• シリアル接続 (MJ1/MJ2) モジュラーコネクタ 8 ピン</li> <li>• USB 接続 USB-A ポート (PictBridge 対応プリンタに変更すると、USB-B ポートでの接続も可能)</li> </ul>

項目	ZM-40	ZM-540
プリンタケーブル	<ul style="list-style-type: none"> <li>PC-9801 用標準プリンタケーブル</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>パラレル接続なし ただし、市販 USB パラレル変換ケーブル (ELECOM : UC-PGT) を使うことで置換可能</li> <li>シリアル接続 「受注生産品 TMP」で作成</li> </ul>
保護シート	—	「ZM-540GS」
メモリカードへの画面データの保存	—	<ul style="list-style-type: none"> <li>カードレコーダ「ZM-1REC」</li> <li>CF カード</li> </ul>
市販メモリカード	<ul style="list-style-type: none"> <li>画面転送用 FLASH/SRAM</li> </ul>	ZM-30S/31S で保存し、ZM-71S で読み込み、ZM-500 用データに変換してから使用

\*1 パネルアダプタ装着時、フロントパネルは IP65 準拠の保護構造は保てません。

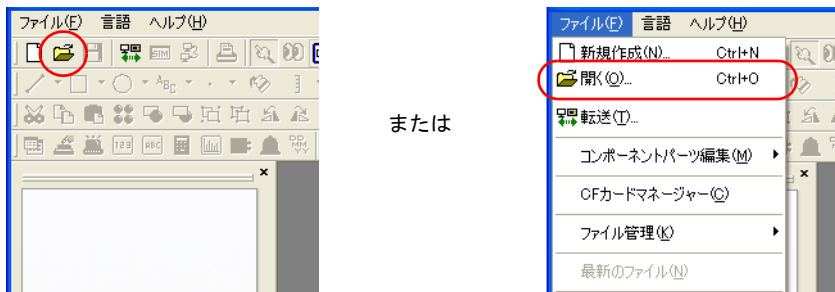
## 4.3 ソフト（設定・機能）の互換性

### 画面データファイルの変換方法

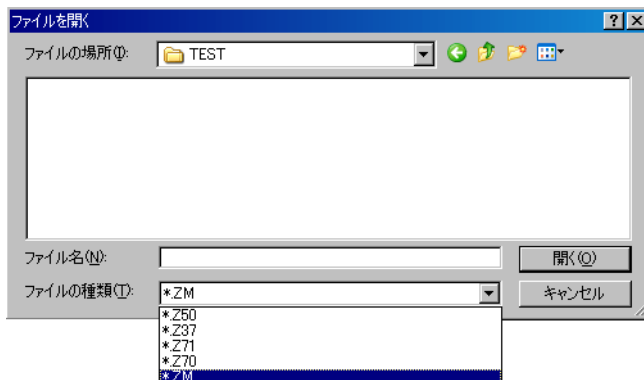
#### ZM-30/40/61T → ZM-500 の場合

以下の手順でファイルを変換します。

1. ZM-71S を起動し、[開く] アイコン、または [ファイル] の [開く] をクリックします。



2. [ファイルを開く] ダイアログが表示されます。[ファイルの種類] を [\*ZM] に変更します。



3. 変換する ZM-30/40/61 シリーズの画面データファイルを指定し、[開く] をクリックします。

4. [システム設定] の [編集機種] ダイアログが表示されます。変換後の ZM-500 シリーズの機種を選択し、[OK] をクリックします。

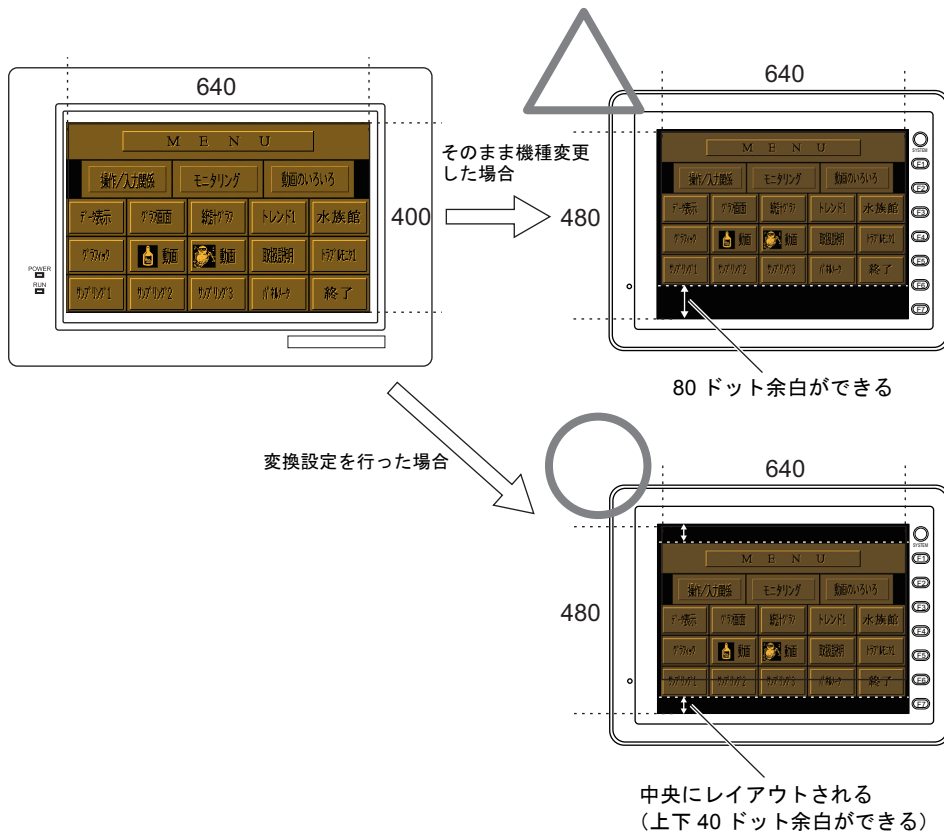


5. エディタ上に ZM-500 シリーズ用に変換された画面データファイルが表示されます。
6. 名前を付けて保存します。

## ZM-61E → ZM-562T/TA の場合（128 色のみ有効）

ZM-61E の画面データを ZM-562T/TA の画面データに変換する場合、解像度が異なるため、画面のサイズやレイアウトが崩れる可能性があります。

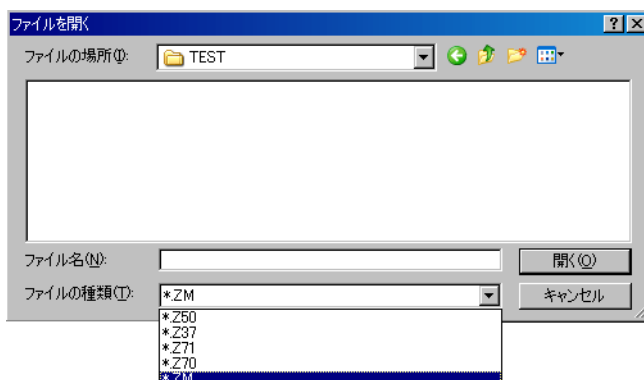
そこで解像度をそのままに、ZM-562T/TA の中央にレイアウトする変換手順を用意しています。（ただし [カラー] が [128 色] の場合のみ有効な手順です。）



以下の手順でファイルを変換します。

1. ZM-71S を起動し、[開く] アイコン、または [ファイル] の [開く] をクリックします。

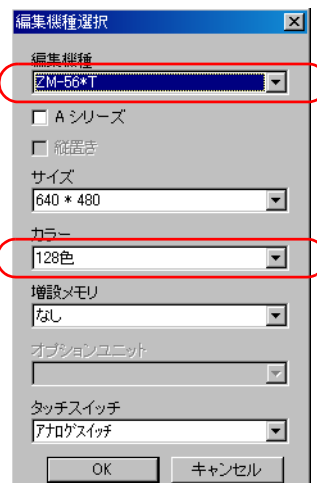
2. [ファイルを開く] ダイアログが表示されます。[ファイルの種類] を [\*ZM] に変更します。



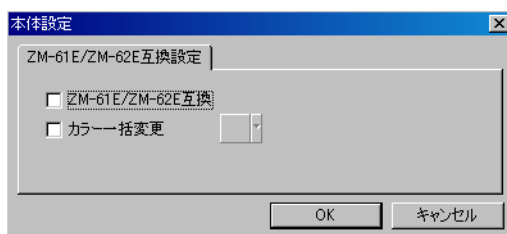
3. 変換する ZM-61E の画面データファイルを指定し、[開く] をクリックします。[編集機種] ダイアログが表示されます。



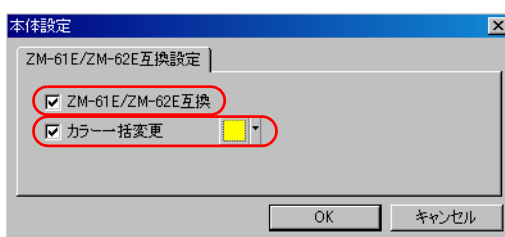
4. [ZM-56\*T] を選択し、必ず [カラー : 128 色] を選択し、[OK] をクリックします。



5. 以下のようなダイアログが表示されます。

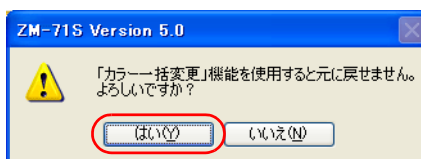


6. [  ZM-61E/ZM-62E 互換 ] にチェックを入れます。  
また、[  カラー一括変更 ] にチェックを入れると、ZM-61E のように、2 色の画面に変換できます。

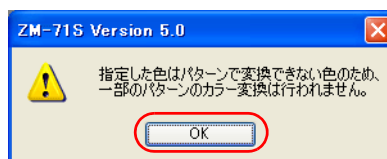


- \* ZM-61E でプリンク設定を使っている場合、選択するカラーは基本の 16 色の中から選んでください。プリンク色が選んだ色とは異なる色で表示されます。

7. [OK] をクリックします。以下のようなダイアログが表示されます。[はい] をクリックします。

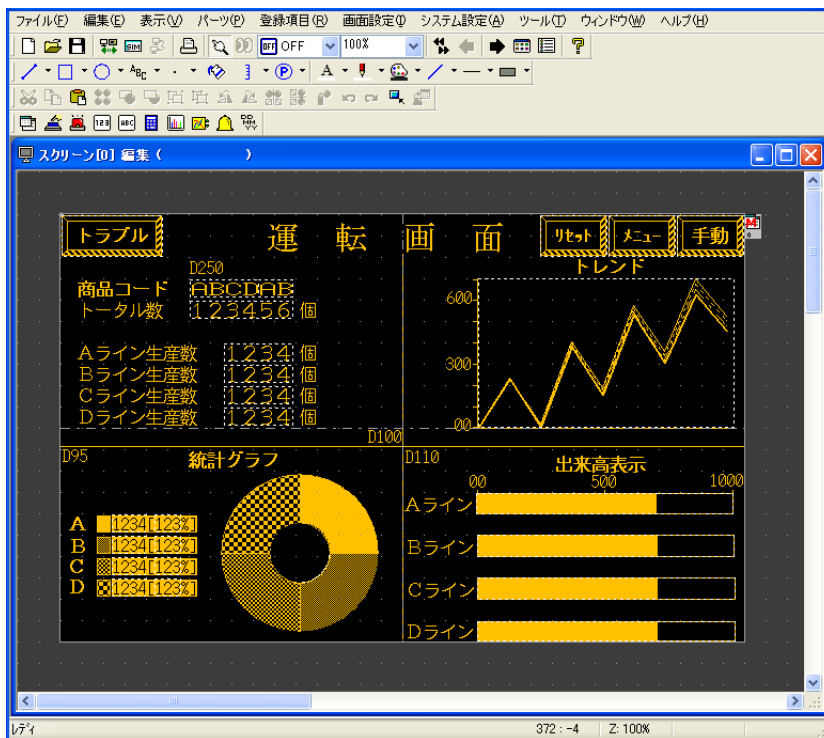


- \* パターンを使っている画面データを変換した場合、以下のようなメッセージが出ます。この場合、パターンの色はそのまま残ることになります。[OK] をクリックします。





8. 画面が、8. で選択したカラーと黒色の 2 色表示になって、変換されます。



- \* ZM-61E データを ZM-562T/TA データに変換すると、ZM-61E データに戻すことはできません。ご注意ください。
9. エディタ上に ZM-562T/TA 用に変換された画面データファイルが表示されます。名前を付けて保存します。
- \* ZM-61E からの変換データにおいて、スイッチ/ランプの描画モードが [XOR] のパーツの場合、エディタ上で ON 表示させると、スイッチ/ランプ上の文字列が見えなくなります。このデータを本体に転送すると、本体上では反転表示されて、ZM-61E と同様に正しく文字が表示されます。

## 画面サイズの調整

機種によって、画面の解像度が異なります。以下の方法でサイズ調整を行ってください。

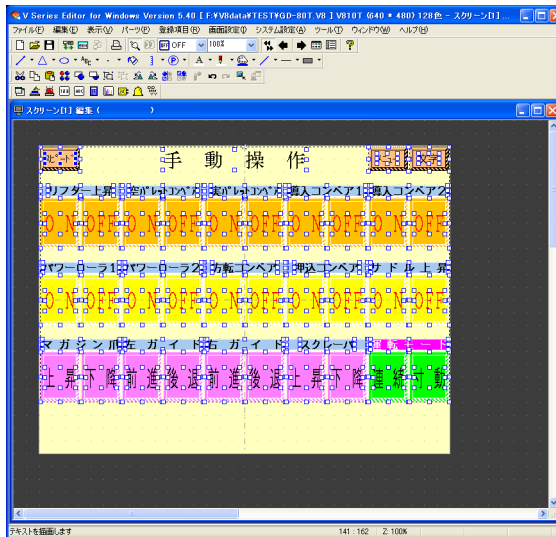
- \* ただし、マトリックスタイプの ZM-500 に機種変更する場合、スイッチグリッドがずれるおそれがあるため、以下の拡大方法は使用できません。

例として、ZM-61T の画面を ZM-57\*TA に変換した場合で説明します。

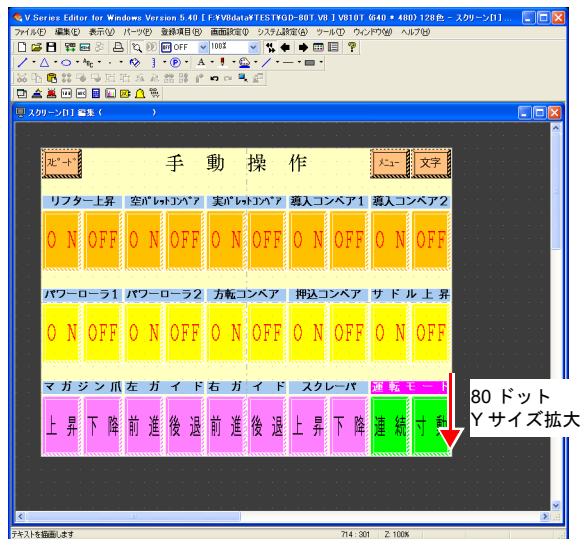
この場合、縦 80 ドット分、下に空欄が出来てしまうので、その空欄を埋めるように画面サイズを調整する手順となります。

1. [表示] → [表示環境一括変更] → [グリッド] メニューにおいて、[ON グリッド]、および [スイッチの配置をスイッチグリッドで行う] のチェックを外します。

2. 画面上のアイテムを全て選択します。


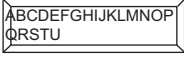


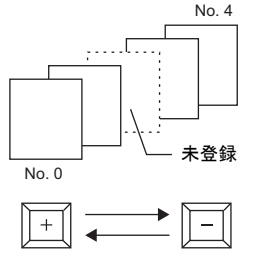
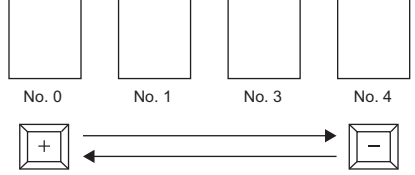
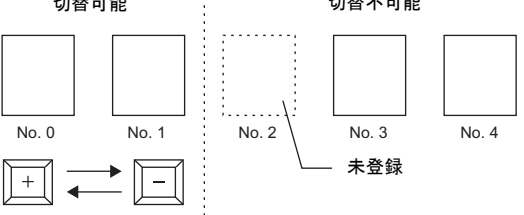
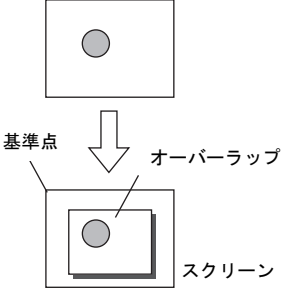
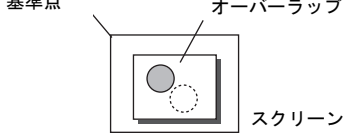
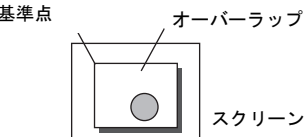
3. 選択アイテムの画面下の中央部分のハンドルを下方方向にドラッグし、ZM-500の画面サイズに合わせます。

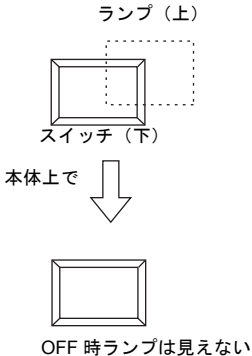
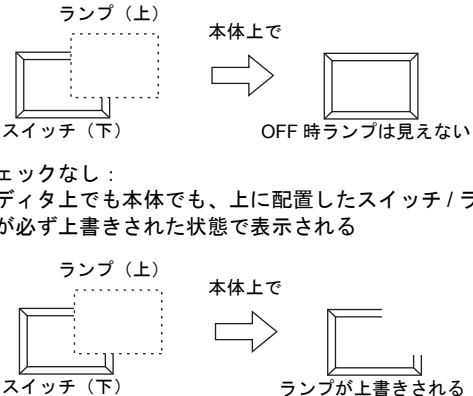
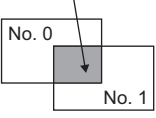
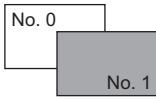
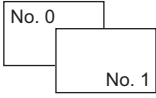
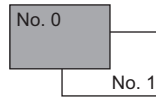




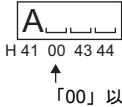
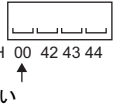
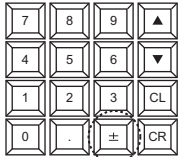
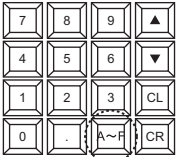
- \* ただし、円や多角形が含まれた画面では、縦方向のみサイズ調整を行おうとしても、縦横等倍でしかサイズ調整が行えません。サイズ調整時には、円や多角形を外して調整してください。

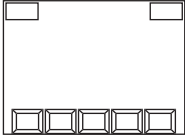
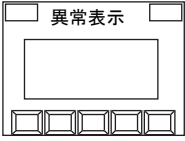
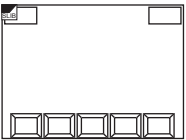
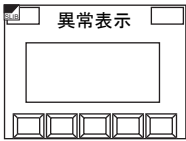
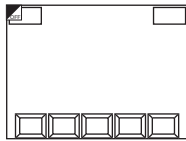
## 互換機能

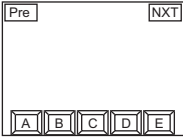

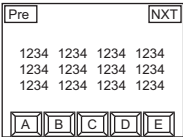
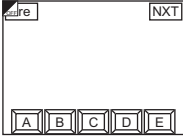

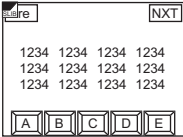
項目	ZM-30/40/61	ZM-500																
連続ブザー音	読込エリア n の 10 ビット目が ON の間、ブザーが鳴り続ける	[本体設定] の [環境設定] メニュー [ <input type="checkbox"/> 連続ブザー音使用する] • チェックあり: ZM-30/40/61 と同じ動作 • チェックなし: 10 ビット目無効																
オーバーラップのビット指令	読込エリア n+1 の 12 ビット目が ON の間、オーバーラップが表示する (画面を切り換えても表示する)	[本体設定] の [環境設定] メニュー [ <input type="checkbox"/> オーバーラップをレベル動作させる] • チェックあり: ZM-30/40/61 と同じ動作 • チェックなし: 12 ビット目はエッジ認識となる (画面を切り換えるとオーバーラップは消える)																
文字入力モード	[書込] キーを押した後、続けて文字を入力することができる	[本体設定] の [環境設定] メニュー [ <input type="checkbox"/> 文字入力モードで 1 文字目の入力は、文字列をクリアする] • チェックあり: ZM-30/40/61 と同じ動作 • チェックなし: クリアキーを押してから入力する																
カレンダー表示	メッセージ編集内に曜日用のメッセージを登録する	[カレンダーパーツ] として変換され、各カレンダーパーツ内の [曜日メッセージ設定] メニューに、自動的にメッセージ編集内のメッセージをコピーし、登録する																
バーコードリーダー	[バーコード設定] の [I/F メモリ] で設定したメモリアドレスに入る「読込メモリ数」はワード単位	[本体設定] の [環境設定] メニュー [ <input type="checkbox"/> バーコードの読み込みデータ数をワード単位で出力する] • チェックあり: ZM-30/40/61 と同じ表示 (ワード単位) • チェックなし: バイト単位																
リレーモード / ページモード / ダイレクトモード [動作: スイッチ / ランプ] の場合	メッセージがスイッチ / ランプの領域からはみ出る場合、はみ出た部分は表示しない 例 スイッチ  「O」の後ろに「P..U」までメッセージが続く	[本体設定] の [環境設定] メニュー [ <input type="checkbox"/> モード動作: スイッチ / ランプのときメッセージを ZM-30/40/61 と同じにする] • チェックあり: ZM-30/40/61 と同じ表示 • チェックなし: はみ出た部分は折り返して表示される 																
数値表示	オーバーフロー時には下の桁を表示する 例 D100 = 1234 の場合 4 桁表示 = 「1234」 2 桁表示 = 「34」	[本体設定] の [環境設定] メニュー [ <input type="checkbox"/> 数値表示: オーバーフロー時、有効桁表示] • チェックあり: ZM-30/40/61 と同じ表示 • チェックなし: 以下の表示 4 桁表示 = 「1234」 2 桁表示 = 「-」																
数値表示	[数字形式: BCD] の場合、以下のように本体で表示する <table border="1" data-bbox="371 1437 625 1717"> <thead> <tr> <th>PLC 側</th> <th>ZM-30/40/61 側</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0~9</td> <td>0~9</td> </tr> <tr> <td>A</td> <td>. / .</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>: / :</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>- / -</td> </tr> <tr> <td>D</td> <td>+ / +</td> </tr> <tr> <td>E</td> <td>(スペース)</td> </tr> <tr> <td>F</td> <td>(スペース)</td> </tr> </tbody> </table>	PLC 側	ZM-30/40/61 側	0~9	0~9	A	. / .	B	: / :	C	- / -	D	+ / +	E	(スペース)	F	(スペース)	[本体設定] の [環境設定] メニュー [ <input type="checkbox"/> 数値表示: BCD の時、A ~ F 特殊表示] • チェックあり: ZM-30/40/61 と同じ表示 • チェックなし: 「A」 ~ 「F」 は全て「0」表示
PLC 側	ZM-30/40/61 側																	
0~9	0~9																	
A	. / .																	
B	: / :																	
C	- / -																	
D	+ / +																	
E	(スペース)																	
F	(スペース)																	

項目	ZM-30/40/61	ZM-500
<p>テンキーブロックの切替 (テンキーモード、[動作：+ブロック/−ブロック] スイッチ)</p>	<p>切替の対象となる [ブロック No.] の [開始] と [終了] の間に未登録のテンキーブロックがあった場合でも切替を行う</p> <p>例</p>  <p>未登録も含めて全てのブロックを切り替える</p>	<p>[本体設定] の [環境設定] メニュー [<input type="checkbox"/> +/- ブロック SW 操作時、存在しないテンキーブロックをスキップする]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• チェックあり：未登録のブロックをスキップする</li> </ul>  <ul style="list-style-type: none"> <li>• チェックなし：未登録のブロックの前でブロック切替が止まる</li> </ul> <p>切替可能</p>  <p>切替不可能</p>
<p>オーバーラップ上のグラフィックリレーモード</p>	<p>オーバーラップ上にグラフィックリレーを設定した場合、登録したグラフィックはスクリーンの原点を基準に表示される</p> <p>例 グラフィックライブラリ</p> 	<p>[本体設定] の [環境設定] メニュー [<input type="checkbox"/>オーバーラップ上に存在するグラフィックリレー原点をスクリーン原点で取り扱う]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• チェックあり：ZM-30/40/61 と同じ</li> </ul>  <ul style="list-style-type: none"> <li>• チェックなし：登録したグラフィックはオーバーラップの原点を基準に表示する</li> </ul> 

項目	ZM-30/40/61	ZM-500
<p>スイッチ/ランプ</p>	<p>スクリーンの背景色と同じ OFF カラーのスイッチ/ランプを配置した場合、OFF カラーが透過される</p> <p>例</p>  <p>ランプ (上) スイッチ (下)</p> <p>本体上で</p> <p>OFF 時ランプは見えない</p>	<p>[本体設定] の [環境設定] のメニュー [<input type="checkbox"/>スイッチ/ランプ:OFF カラーがベースカラーと同じであれば、塗りつぶしを行わない]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• チェックあり： エディタ上では上書きされるが、ZM-500 本体は ZM-30/40/61 と同じ表示状態になる</li> <li>• チェックなし： エディタ上でも本体でも、上に配置したスイッチ/ランプが必ず上書きされた状態で表示される</li> </ul>  <p>ランプ (上) スイッチ (下)</p> <p>本体上で</p> <p>OFF 時ランプは見えない</p> <p>ランプ (上) スイッチ (下)</p> <p>本体上で</p> <p>ランプが上書きされる</p>
<p>スイッチ</p>	<p>スイッチが2個重なった場合、重なった場所を押すと No. (または DIV No.) の大きい方が反応する ここを押したとき</p>  <p>No. 0 No. 1</p> <p>ZM-30/40/61 本体で No. 1 が反応する</p>  <p>No. 0 No. 1</p>	<p>エディタ上は、配置順で決まります。No. (または DIV No.) の小さい方が先に配置された状態とみなされて下、大きい方が上になります。</p>  <p>No. 0 No. 1</p> <p>[本体設定] の [環境設定] のメニュー [<input type="checkbox"/>スイッチが重なった時、上のスイッチを有効にする]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• チェックあり：上のスイッチが反応 (ZM-30/40/61 と同じ動作)</li> <li>• チェックなし：下のスイッチ (先に配置した方) が反応</li> </ul> <p>No. 0 が反応する</p>  <p>No. 0 No. 1</p>
<p>文字表示</p>	<p>全角 (JIS コード) / 半角 (ANK/ASCII コード) を区別している</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 半角</li> <li>• 全角</li> </ul> <p>NULL コードの処理 (LSB → MSB)</p> <p>D100 = H0041 D101 = H4443 の場合</p>  <p>A_CD H 41 00 43 44</p>	<p>「文字列表示」として変換し、[細かい設定] メニューの [<input type="checkbox"/> JIS/ASCII] で ZM-30/40/61 の文字表示に対応</p> <p>→ [<input type="checkbox"/> JIS/ASCII] チェックあり、[<input type="radio"/>半角] → [<input type="checkbox"/> JIS/ASCII] チェックあり、[<input type="radio"/>全角]</p> <p>D100 = H4200 D101 = H4443 の場合</p>  <p>_BCD H 00 42 43 44</p>

項目	ZM-30/40/61	ZM-500																				
<p>文字列表示</p>	<p>ANK/ASCII/ シフト JIS コード</p> <p>NULL コードの処理 (LSB → MSB)</p> <p>D100 = H0041 D101 = H4443 の場合</p> 	<p>[細かい設定] メニューの [□ JIS/ASCII] チェックなし</p> <p>D100 = H4200 D101 = H4443 の場合</p> 																				
<p>テンキーモードの HEX 入力キーの 切替</p>	<p>テンキースイッチの中の [一 / +] キーが自動的に HEX 入力キー切替スイッチになる</p> <p>例</p> 	<p>スイッチの [機能 : ZM-30 互換 HEX キー切替] ZM-30/40/61 と同じ動作</p> <p>HEX 入力を行う際...</p> 																				
<p>データサンプリング</p>	<p>一番左にカウントが表示される</p> <p>カウント</p> <table border="1" data-bbox="360 1058 584 1193"> <tr><td>000</td><td>55</td><td>113</td><td>3345</td></tr> <tr><td>001</td><td>64</td><td>119</td><td>3450</td></tr> <tr><td>002</td><td>33</td><td>106</td><td>3250</td></tr> <tr><td>003</td><td>48</td><td>121</td><td>2956</td></tr> <tr><td>004</td><td>56</td><td>107</td><td>2246</td></tr> </table>	000	55	113	3345	001	64	119	3450	002	33	106	3250	003	48	121	2956	004	56	107	2246	<p>[サンプリング表示領域] 上のデータ [No. 15] を自動的にカウント表示に変換 [データ [15]] ダイアログ内に [サンプルカウント] 項目が追加されます</p> <p>* サンプルプリント時に必要なカウント位置設定「C」を自動的に「15」に変換し、カウントとして印刷します。(メッセージ編集内)</p>
000	55	113	3345																			
001	64	119	3450																			
002	33	106	3250																			
003	48	121	2956																			
004	56	107	2246																			

項目	ZM-30/40/61	ZM-500
<p>スクリーンライブラリ</p>	<p>画面例</p> <p>スクリーン No. 4 (DIV 3)</p>  <p style="text-align: center;">↓</p> <p>スクリーン No. 7</p>  <p>スクリーンライブラリ Div2</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input checked="" type="checkbox"/> スクリーンライブラリ</li> <li>Div No.3</li> <li>スクリーン No.4</li> <li><input type="checkbox"/> グラフィック</li> </ul>	<p>変換例</p> <p>スクリーン No. 4 (DIV 3)</p>  <p>スクリーン No. 7</p>  <p>スクリーンライブラリ No.454 (DIV3)</p>  <p>スクリーンライブラリ元、ライブラリ先それぞれのスクリーンにスクリーンコールが配置されます</p> <p>スクリーンライブラリには元のスクリーンのアイテムがコピーされます</p> <p>変換後のスクリーンライブラリ No. の算出方法</p> <p>スクリーンライブラリ No.</p> <p>= 元のスクリーン No. + DIV No. x 150</p> <p>= 4 + 3 × 150</p> <p>= 454</p>

項目	ZM-30/40/61	ZM-500
<p>→続き スクリーンライブラリ</p>	<p>ZM-30/40/61 でスクリーンライブラリに <input type="checkbox"/>グラフィック をチェックあり指定していれば、スクリーンライブラリに作画が移動します</p> <p>* ZM-30/40/61 で同じスクリーンを <input type="checkbox"/>グラフィック、<input type="checkbox"/>グラフィック チェックありの条件でスクリーンライブラリ指定した場合は、数値の大きなスクリーンの条件を優先します</p> <p>ZM-30/40/61 画面例 スクリーン No. 4 (DIV 3)</p>  <p>スクリーン No. 7</p>  <p>スクリーンライブラリ <input type="checkbox"/>グラフィック</p> <p>スクリーン No. 10</p>  <p>スクリーンライブラリ <input checked="" type="checkbox"/>グラフィック</p>	<p>ZM-500 変換例 スクリーンライブラリ No.454 (DIV3)</p>  <p>スクリーン No. 7</p>  <p>スクリーン No. 10</p>  <p>ZM-30/40/61 のスクリーン No. が小さい方の状態が ZM-30/40/61 と異なります</p> <p>ZM-30/40/61 のスクリーン No. が大きい方の設定を優先します</p>
読込 / 書込エリア	-	<p>[接続機器設定] の [読込 / 書込エリア] の [ZM-30 互換] メニュー</p> <p><input type="checkbox"/>読込 / 書込エリア ZM-30 互換</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• チェックあり : ZM-30/40/61 と同じ</li> <li>• チェックなし : ZM シリーズと同じ</li> </ul>
スクリーンの背景	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 背景色のみ設定</li> <li>• 背景グラフィックのみ設定</li> <li>• 背景色 &amp; 背景グラフィック共に設定</li> </ul>	<p>→未登録画面として変換</p> <p>→グラフィックコールありのスクリーンとして変換</p> <p>→背景色が設定された、グラフィックコールありのスクリーンとして変換</p>
オーバーラップ	<ul style="list-style-type: none"> <li>• ノーマル DIV0 に登録されていて他に何も登録されていない</li> <li>• ノーマル 他の DIV にオーバーラップ以外の機能が登録されている、または DIV.0 に登録されていない</li> </ul>	<p>→ ZM-30/40/61 でのスクリーン No. と同じ No. の [マルチオーバーラップ編集] に自動的に登録される</p> <p>→スクリーン上にノーマルオーバーラップとして登録される。また、ZM-30/40/61 でのスクリーン No. と同じ No. の [マルチオーバーラップ編集] にも自動的に登録される</p>
スイッチ / ランプ	枠タイプ : グラフィック	スイッチ / ランプの作画編集上に [グラフィックコール] を配置する



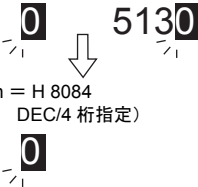
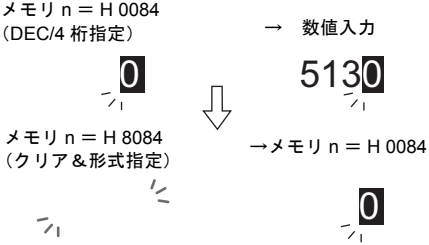
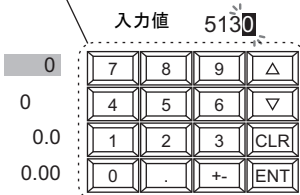

項目	ZM-30/40/61	ZM-500																		
スイッチ	機能 [ノーマル] [ブロック] [+ブロック] [-ブロック] [モード] [ビット演算] の場合の [スイッチメモリ]	[ <input checked="" type="checkbox"/> 出力メモリ ] に変換される																		
リレーモード	<ul style="list-style-type: none"> <li>• DIV0</li> <li>• DIV1</li> <li>• DIV2</li> <li>• DIV3</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>→ [ <input checked="" type="checkbox"/> リレー情報出力 ] 書込エリア n+5 に変換される</li> <li>→ [ <input checked="" type="checkbox"/> リレー情報出力 ] 書込エリア n+8 に変換される</li> <li>→ [ <input checked="" type="checkbox"/> リレー情報出力 ] 書込エリア n+11 に変換される</li> <li>→ [ <input checked="" type="checkbox"/> リレー情報出力 ] 書込エリア n+14 に変換される</li> </ul>																		
テンキーモード	—	<p>入力モード</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [指令メモリ] は ZM-30/40/61 の時の各形式の内容と同じ</li> <li>• [情報出力メモリ] は書込エリア n+2 に変換</li> <li>• テンキーパッド上の文字列 [0] ~ [9] および [.] は、スクリーン上の作画文字列として変換される一方、[スイッチ] ダイアログ内でも半角文字で [0] ~ [9]、[.] が入る。ただしスイッチ内の文字は作画文字列と重ならないよう、画面範囲外に配置される</li> </ul>																		
	[形式：直接]	<ul style="list-style-type: none"> <li>• [形式：直接]</li> <li>• 画面上の数値表示は [表示機能：なし]</li> </ul>																		
	[形式：間接]	<ul style="list-style-type: none"> <li>• [形式：データ表示]</li> <li>• [書込先メモリ：出力メモリ]</li> <li>• [入力項目選択：外部]</li> <li>• [ZM-30 互換]</li> <li>元のスクリンにオーバーラップがない場合は [4] オーバーラップがある場合はその DIV No. が入る</li> <li>• 画面上の数値表示は [表示機能：入力対象]</li> <li>[選択順] は以下のように自動的に変換される</li> </ul> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th colspan="2">ZM-30/40/61</th> <th>ZM-500</th> </tr> <tr> <th>DIV No.</th> <th>データ No.</th> <th>選択順</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0</td> <td>0 ~ 31</td> <td>0 ~ 31</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>0 ~ 31</td> <td>32 ~ 63</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>0 ~ 31</td> <td>64 ~ 95</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>0 ~ 31</td> <td>96 ~ 127</td> </tr> </tbody> </table>	ZM-30/40/61		ZM-500	DIV No.	データ No.	選択順	0	0 ~ 31	0 ~ 31	1	0 ~ 31	32 ~ 63	2	0 ~ 31	64 ~ 95	3	0 ~ 31	96 ~ 127
ZM-30/40/61		ZM-500																		
DIV No.	データ No.	選択順																		
0	0 ~ 31	0 ~ 31																		
1	0 ~ 31	32 ~ 63																		
2	0 ~ 31	64 ~ 95																		
3	0 ~ 31	96 ~ 127																		
	[形式：ブロック]	<ul style="list-style-type: none"> <li>• [形式：ブロック]</li> <li>• [書込先メモリ：出力メモリ]</li> <li>• [入力項目選択：内部]</li> <li>• [ZM-30 互換] は設定不可 (ただし「あり」で変換)</li> <li>• テンキーブロックに関する設定は [データブロックエリア] モードとして DIV4 に変換される</li> </ul> <p>◎ [データブロックエリア] モード</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [ディビジョン No：4]</li> <li>• [指令：内部]</li> <li>• [初期ブロック / 最小ブロック：([開始] No. を設定)]</li> <li>• [最大ブロック：([終了] No. を設定)]</li> <li>• [項目選択：なし] (必要に応じて各自で設定)</li> <li>• [ZM-30 互換：あり]</li> </ul>																		

項目	ZM-30/40/61	ZM-500
テンキーモード	[形式：ブロックダイレクト]	<ul style="list-style-type: none"> <li>• [形式：ブロック]</li> <li>• [書込先メモリ：ダイレクト]</li> <li>• [入力項目選択：内部]</li> <li>• [ZM-30 互換] は設定不可（ただし「あり」で変換）</li> <li>• テンキーブロックに関する設定は [データブロックエリア] モードとして DIV4 に変換される</li> </ul> <p>◎ [データブロックエリア] モード</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ [ディビジョン No：4]</li> <li>・ [指令：(ZM-30/40/61 と同じ)] <ul style="list-style-type: none"> <li>* [外部] の場合 [ブロック No. 読込メモリ] は [入力モード] の [指令メモリ] と同じに設定</li> </ul> </li> <li>・ [項目選択：あり] <ul style="list-style-type: none"> <li>* [入力モード] の [指令メモリ] n+1 [2] ワードに設定</li> </ul> </li> <li>・ [ZM-30 互換：あり]</li> </ul>
	[形式：マルチ]	<ul style="list-style-type: none"> <li>• [形式]、[書込先メモリ]、[入力項目選択]</li> </ul> <p>[ZM-30 互換] は [形式：ブロックダイレクト] の場合と同じ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• テンキーブロックに関する設定も [形式：ブロックダイレクト] の場合の [データブロックエリア] モードとほぼ同じ <ul style="list-style-type: none"> <li>* [指令：外部] の場合、[ブロック No. 読込メモリ] は [入力モード] の [指令メモリ] と同じ設定にする。ただし、テンキーモードを設定したオーバーラップが別のスクリーンに登録されていた場合 (=マルチオーバーラップ使用時)、[ブロック No. 読込メモリ] は一時的に [\$u4000] に変換されます。ユーザーで [入力モード] の [指令メモリ] と同じメモリに設定してください。</li> </ul> </li> </ul>
文字入力モード	—	<p>入力モード</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [形式：データ表示]</li> <li>• [指令メモリ] は ZM-30/40/61 の時の各形式の内容と同じ</li> <li>• [情報出力メモリ] は書込エリア n+2 に変換</li> <li>• [書込先メモリ：ダイレクト]</li> <li>• [入力項目選択：内部]</li> <li>• [細かい設定] メニュー [グラフィック使用する]</li> <li>* [スタートグラフィック] [エンドグラフィック] とともに ZM-30/40/61 の [初期ライブラリ No] の値を入れるため、[エンドグラフィック] については必要な場合は手動設定要)</li> <li>• 画面上の文字列表示は [表示機能：入力対象]</li> </ul>

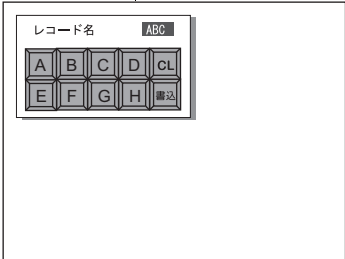
項目	ZM-30/40/61	ZM-500																		
統計グラフモード	-	<ul style="list-style-type: none"> <li>以下のようなディビジョン No. に変換します</li> </ul> <table border="1"> <thead> <tr> <th>DIV No.</th> <th>0</th> <th>1</th> <th>2</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Graph No.</td> <td>0 1 2 3</td> <td>0 1 2 3</td> <td>0 1 2 3</td> </tr> <tr> <td>ZM-500 DIV No.</td> <td>0 10 11 12</td> <td>1 20 21 22</td> <td>2 30 31 32</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1"> <thead> <tr> <th>DIV No.</th> <th>3</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Graph No.</td> <td>0 1 2 3</td> </tr> <tr> <td>ZM-500 DIV No.</td> <td>3 30 31 32</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> <li>【実績：あり】の場合、【表示機能：なし】の数値表示が統計グラフと同じディビジョン No. に設定される各数値表示の【メモリ】は統計グラフの【メモリ】に合わせたアドレスになる</li> <li>【%：あり】の場合、【表示機能：統計グラフ%表示】の数値表示が統計グラフと同じディビジョン No. に設定される</li> </ul>	DIV No.	0	1	2	Graph No.	0 1 2 3	0 1 2 3	0 1 2 3	ZM-500 DIV No.	0 10 11 12	1 20 21 22	2 30 31 32	DIV No.	3	Graph No.	0 1 2 3	ZM-500 DIV No.	3 30 31 32
DIV No.	0	1	2																	
Graph No.	0 1 2 3	0 1 2 3	0 1 2 3																	
ZM-500 DIV No.	0 10 11 12	1 20 21 22	2 30 31 32																	
DIV No.	3																			
Graph No.	0 1 2 3																			
ZM-500 DIV No.	3 30 31 32																			

## 互換にならない機能

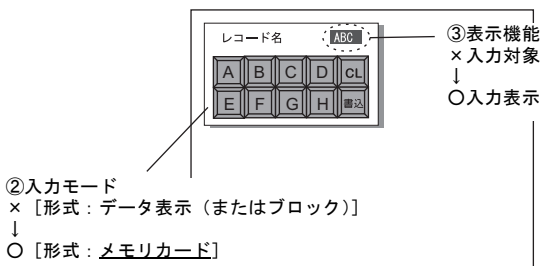
項目	ZM-30/40/61	ZM-500
汎用シリアル通信	ZM-30/40/61 専用の汎用シリアル通信用プロトコルを使用する	ZM シリーズ専用の汎用シリアル通信用プロトコルを使用するため、互換性なし
通信パラメータ	ボーレート 1200、2400bps サポート	ボーレート 1200、2400bps 未サポート 4800bps に自動変換される
表示文字	X、Y 拡大係数がいくつでも表示文字は変わらず	X、Y 拡大係数が偶数倍の文字については、自動的に 32 ドットフォントで表示されるため、ZM-30/40/61 の時と多少イメージが異なる * ただし【フォント設定】において【フォント】を【日本語 32】から【日本語】にすると ZM-30/40/61 のイメージに近くなる
オーバーラップ [タイプ：マルチ]	メモリ n： <ul style="list-style-type: none"> <li>表示中 表示しているオーバーラップが登録されているスクリーン No. が入る</li> <li>非表示 最後に入っていた No. が残る</li> </ul>	メモリ n： <ul style="list-style-type: none"> <li>表示中 表示しているオーバーラップが登録されている【マルチオーバーラップ編集】内の No. が入る</li> <li>非表示 「-1」（= H FFFF）が入る</li> </ul>
スイッチ/ランプ の文字列	作画文字列で作成	作画文字列として変換される 【スイッチ】（または【ランプ】）ダイアログ内の文字列としては変換されない

項目	ZM-30/40/61	ZM-500
<p>テンキーモード [形式：直接]</p>	<p>メモリ n : クリア (15 ビット目) このビットを ON した時点 (0 → 1) で、テンキーの 書込フラグおよび入力表示 の値がクリアされる</p> <p>メモリ n = H 0084 (DEC/4 桁指定) → 数値入力</p>  <p>メモリ n = H 8084 (クリア DEC/4 桁指定)</p>	<p>入力モードの [指令メモリ] n : クリア (15 ビット目) このビットを ON すると、書込フラグがクリアされる が入力表示そのものが消えてしまう 再度クリアビット (15 ビット目) を OFF してデータの 形式、桁数などを指定すると、入力可能となる</p> <p>メモリ n = H 0084 (DEC/4 桁指定) → 数値入力</p>  <p>メモリ n = H 8084 (クリア &amp; 形式指定) → メモリ n = H 0084</p>
<p>テンキーモード [形式：ブロック]</p>	<p>メモリ n : クリア (15 ビット目) テンキーで入力後、キーは 全く効かない 15 ビット目の立ち上がり (0 → 1) でテンキーの書 込フラグがクリアされ、テ ンキーの禁止状態が解除さ れる</p> <p>全てのスイッチが禁止になる (クリアビットを立てるまで)</p> 	<p>入力モードの [指令メモリ] n : クリア (15 ビット目) テンキーで入力後、数字キーは効かないが、クリア (CL) キーが有効なため、一旦クリアキーを押せばテン キーは効く また「↓」「↑」キーも常時有効なため、次の入力対象 データにカーソルを移せばテンキーは受け付ける そのため、このビット本来の役割である「フラグクリ ア」機能は ZM-500 では無効</p> 
<p>トレンドグラフ</p>	<p>コントロールメモリ : 各 [No 詳細] で指定した メモリ n (折れ線の数だけ n が存在 する)</p> <p>グラフ値用メモリ : 各 [No 詳細] で指定した メモリ n+1 ~</p>	<p>コントロールメモリ : ZM-30/40/61 のグラフの No. 0 で指定されたメモリ n の み (全ての折れ線をメモリ n だけでコントロールする)</p> <p>グラフ値用メモリ : 各 [No 詳細] で指定したメモリ n+1 ~</p>
<p>サンプリング (ビット/データ / トレンド)</p>	<p>[ロールアップ] / [ロールダ ウン] / [プラスブロック] / [マイナスブロック] スwit チでサンプリングデータのス クロールする際、表示エリ ア上には何も表示されない</p>	<p>[ロールアップ] / [ロールダウン] / [プラスブロック] / [マイナスブロック] スwit チでサンプリングデータをス クロールする際、カーソルが 表示され、現在選択されて いるデータがわかりやすい</p>

項目	ZM-30/40/61	ZM-500
サンプリング (トレンド)	<p>カウント表示は本体で初めて表示される</p> <p>グラフ左下に基準点のカウントを表示する</p>	<p>グラフ左下に、数値表示 [表示機能: サンプルカウント表示] [桁数: 3] [文字種: 1/4] を配置する</p> <p>現在のカウントを表示する</p>
サンプリング (ビット)	<p>領域内表示とメッセージとの間に半角 1 文字分のスペースが空く</p>	<p>領域内表示とメッセージとの間に半角 4 文字分のスペースが空く</p>
メモ리카ードモード	<p>カード No / カード名 / ファイル名 / レコード名編集 編集・入力した No./ 名前は一旦 PLC メモリに格納される</p> <p>スイッチの [動作] • [ファイル選択] • [レコード選択] • [リスト内選択完了]</p> <p>カード内のファイル/レコードを選択する場合は、[ファイル選択] → ① [リスト内選択完了] → ② [リスト内選択完了] または [レコード選択] → [リスト内選択完了] という手順で行う</p>	<p>カード No / カード名 / ファイル名 / レコード名編集 No./ 名前はメモ리카ードに直接書き込まれるため、PLC メモリには何も格納しない</p> <p>スイッチの [機能] → [ファイル選択] → [レコード選択] → (なし)</p> <p>カード内のファイル/レコードを選択する場合は、[ファイル選択] → ①② (表示領域を押す) または [レコード選択] → (表示領域を押す) という手順で行う</p> <p>ZM-30/40/61 での [リスト内選択完了] スイッチに代わって、表示領域を押すという操作になる</p>
	<p>スイッチの [動作] • [ファイル名編集] • [レコード名編集]</p> <p>先にファイルまたはレコードを選択してから、[ファイル名編集] または [レコード名編集] を押すと、文字入力モードが設定されたマルチオーバーラップが表示される</p>	<p>スイッチの [機能] → [ファイル名編集] → [レコード名編集]</p> <p>先に [ファイル名編集] または [レコード名編集] スイッチを押して ON 表示させてから、ファイルまたはレコードを選択すると、入力モードの設定されたマルチオーバーラップが表示される</p>

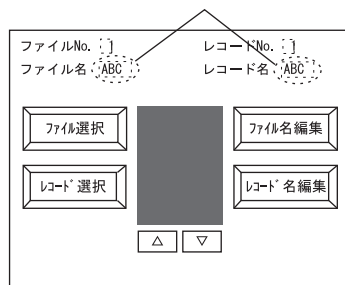
項目	ZM-30/40/61	ZM-500
<p>メモリカードモードの No/ 名編集</p> <p>スクリーン No.20</p>  <p>ZM-30/40/61 でノーマルオーバーラップ以外に何も登録してないスクリーンの場合</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>必ずマルチオーバーラップを使用する</li> <li>No/ 名前編集用テンキーモード / 文字入力モードの [メモリ] 12 ビット目 (書込許可) を ON しないと編集不可</li> <li>[書込] キーを押した時点でオーバーラップが消去し、カード No. またはカード名 / ファイル名 / レコード名が入力される</li> </ul>	<p>変換された状態のままでは使用不可能</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>以下の点に注意すること             <ol style="list-style-type: none"> <li>[タイプ: マルチ] 用のノーマルオーバーラップがスクリーンに登録されたままの場合、[マルチオーバーラップ編集] のスクリーン No. と同じエリアに移し変える</li> <li>オーバーラップ上の入力モードは必ず [形式: メモリカード] に変更する</li> <li>オーバーラップ上の入力モードと同じ DIV に、必ず [表示機能: 入力表示] の [数値表示] パーツまたは [文字列表示] パーツを配置する</li> <li>オーバーラップ上に [データブロックエリア] が設定されている場合は、必要ないので削除する</li> <li>各名前表示パーツは、自動的に「3 バイト」で変換されるため、必要に応じて [バイト数] の設定を変更する</li> </ol> </li> </ul> <p>以上の設定を行うとメモリカードモードは正常に動作します</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>[入力] モードの [指令メモリ] の操作は必要なし</li> </ul>
<p>ライン</p>	<p>全 8 種類のうち 4 種類は自由に編集が可能</p>	<p>不可能 全 6 種類で固定線種</p>

① ZM-500 で自動的にマルチオーバーラップ編集の同じ No. にノーマルオーバーラップが登録される



マルチオーバーラップ編集 No.20 (ZM-500)

⑤ [バイト数] の確認



スクリーン No.19 (ZM-500)

## スイッチ

一部のスイッチに関しては、互換を保つために、ZM-500 に対応した機能「ON リpeat機能」と「ダブルタッチ機能」を、自動的に設定ありで変換します。

### 対象スイッチ一覧

ZM-30/40/61		ZM-500	
スイッチ機能		スイッチ機能	ディレイ設定
標準	ロールアップ	ロールアップ	ON リpeat機能 (150ms)
	ロールダウン	ロールダウン	
入力	文字入力	文字入力	
	スペース	スペース	
	バックスペース	バックスペース	
	DELETE	DELETE	
	←	←	
	→	→	
	↑	↑	
↓	↓		
標準	リセット	リセット	ダブルタッチ機能 (2s)

### 【機能：カードフォーマット】スイッチについて

スイッチの [機能] において、[メモリカード：カードフォーマット] というスイッチがあります。

このスイッチは、ZM-30/40/61 の場合、SRAM メモリカードの設定をフォーマットするためのスイッチとして、使用します。

ZM-500 の場合は、SRAM メモリカードの場合のみ、使用します。内蔵 SRAM については、このスイッチが無効となります。(スイッチを押しても、「ピピピッ」とエラー音になって、受け付けません。)

## SRAM

## サンプリング

ZM-30/40/61 の [メモリカード設定] のファイル情報の [タイプ] の設定によって、ZM-500 での [格納先] が変わります。詳しくは下表を参照してください。

ZM-30/40/61	ZM-500				
タイプ (メモリカード設定)	一次 格納先	二次 格納先	必要な設定手順	格納先	注意点
未使用 または タイプ 1 (データファイル)	DRAM	なし	—	DRAM	—
タイプ 2 (バッファリング ファイル)	DRAM	メモリ カード	—	DRAM	[一次格納先] である [DRAM] に設定された 回数分格納さ れる。 メモリカード には保存され ない。
	DRAM	メモリ カード	手動で [接続機器設定] の [そ の他] において、[ <input type="checkbox"/> カードレ コーダを使用する] にチェック をいれ、カードレコーダ+ SRAM メモリカードをセット する。 さらに、RUN 中画面上の [カ ードフォーマット] スイッチ を押すことで、SRAM メモリ カードに格納が可能。	DRAM および SRAM メモリ カード	—
	SRAM に変更	なしに 変更	[サンプリング回数] は、変換 直後の [二次格納先] と同じ回 数まで増やす。 [カードフォーマット] スイッ チは不要。	内蔵 SRAM	—
	DRAM または SRAM に変更	CF カード に変更	—	DRAM または SRAM および CF カ ード	—



## SRAM メモリカード（市販メモリカード）

### SRAM カード（データロギング）を ZM-500 用に置き換える方法

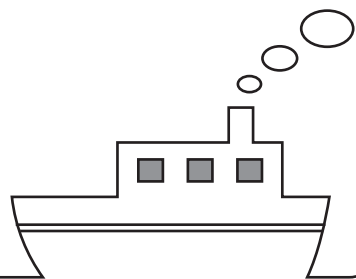
---

ZM-30/40/61 で保存したデータロギングデータは ZM-500 で表示できません。PC でバックアップを取った上で、カードフォーマット後に ZM-500 で新たにデータロギングを実行してください。

ZM-500 の RUN 画面上で、[機能：カードフォーマット] スイッチを押すことで、SRAM カードへのデータロギングが可能です。

- \* フォーマットしない場合、一次格納先（＝DRAM）に設定されている回数分であれば、そのままデータロギングが実行できます。  
フォーマットした時点から、二次格納先（＝メモリカード）へのデータロギングが実行できます。

# MEMO





● 商品に関するお問い合わせ先／ユーザーズマニュアルの依頼先

シャープマニファクチャリングシステム(株)

東日本営業部	〒105-0023	東京都港区芝浦1丁目2番3号	☎(03)5446-8401
中部営業部	〒454-0011	名古屋市中川区山王3丁目5番5号	☎(052)332-2691
西日本営業部	〒581-8581	大阪府八尾市跡部本町4丁目1番33号	☎(072)991-0682
西日本営業部 (福岡駐在)	〒812-0881	福岡市博多区井相田2丁目12番1号	☎(092)582-6861

● アフターサービス・修理・消耗品についてのお問い合わせ先

シャープドキュメントシステム(株)

札幌技術センター	〒063-0801	札幌市西区二十四軒1条7丁目3番17号	☎(011)641-0751
仙台技術センター	〒984-0002	仙台市若林区卸町東3丁目1番27号	☎(022)288-9161
宇都宮技術センター	〒320-0833	宇都宮市不動前4丁目2番41号	☎(028)634-0256
前橋技術センター	〒371-0855	前橋市間屋町1丁目3番7号	☎(027)252-7311
東京フィールド サポートセンター	〒143-0006	東京都大田区平和島4丁目1番23号	☎(03)6404-4110
横浜技術センター	〒235-0036	横浜市磯子区中原1丁目2番23号	☎(045)753-9540
静岡技術センター	〒424-0067	静岡県静岡市清水鳥坂1170	☎(0543)44-5621
名古屋技術センター	〒454-0011	名古屋市中川区山王3丁目5番5号	☎(052)332-2677
金沢技術センター	〒921-8801	石川県石川郡野々市町字御経塚町1096の1	☎(076)249-9033
大阪フィールド サポートセンター	〒547-8510	大阪市平野区加美南3丁目7番19号	☎(06)6794-9721
岡山技術センター	〒701-0301	岡山県都窪郡早島町大字矢尾828	☎(086)292-5830
広島技術センター	〒731-0113	広島市安佐南区西原2丁目13番4号	☎(082)874-6100
高松技術センター	〒760-0065	高松市朝日町6丁目2番8号	☎(087)823-4980
松山技術センター	〒791-8036	松山市高岡町178の1	☎(089)973-0121
福岡技術センター	〒812-0881	福岡市博多区井相田2丁目12番1号	☎(092)572-2617

・上記の所在地、電話番号などは変わることがあります。その節はご容赦願います。

## シャープマニファクチャリングシステム株式会社

本 社 〒581-8581 大阪府八尾市跡部本町4丁目1番33号

● インターネットホームページによるシャープ制御機器の情報サービス  
<http://www.sharp.co.jp/sms/>

お客様へ……お買いあげ日、販売店名を記入されますと、修理などの依頼のときに便利です。

お買いあげ日	年	月	日
販売店名			
	電話 ( )	局	番